

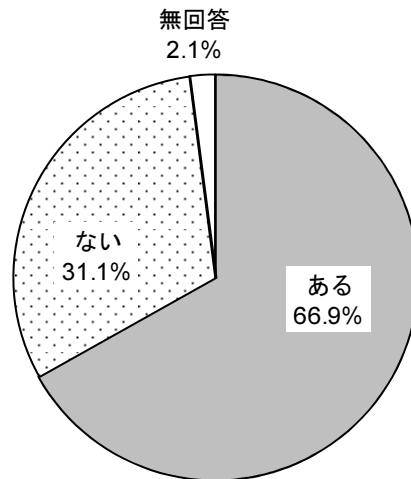
2. 地球温暖化

(1) 気候の変化

◇「ある」が7割近く

問4 あなたは、市の気候が以前と比べ変わってきていると感じたことがありますか。
(○は1つだけ)

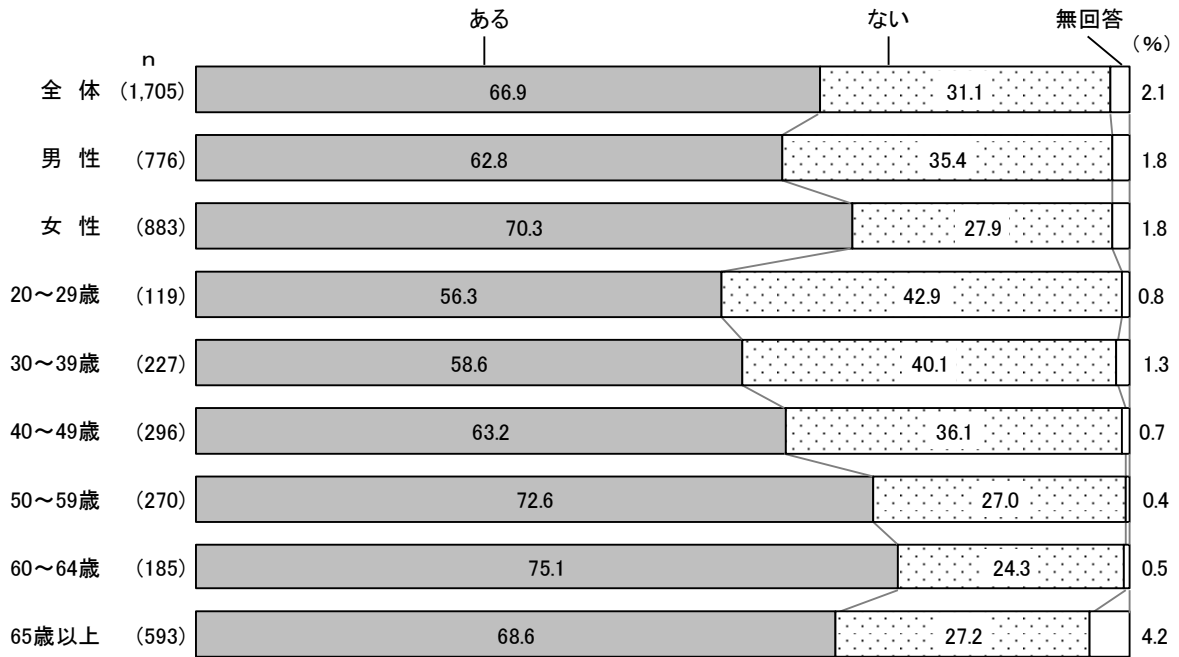
図2-1-1 気候の変化－全体



n=1,705

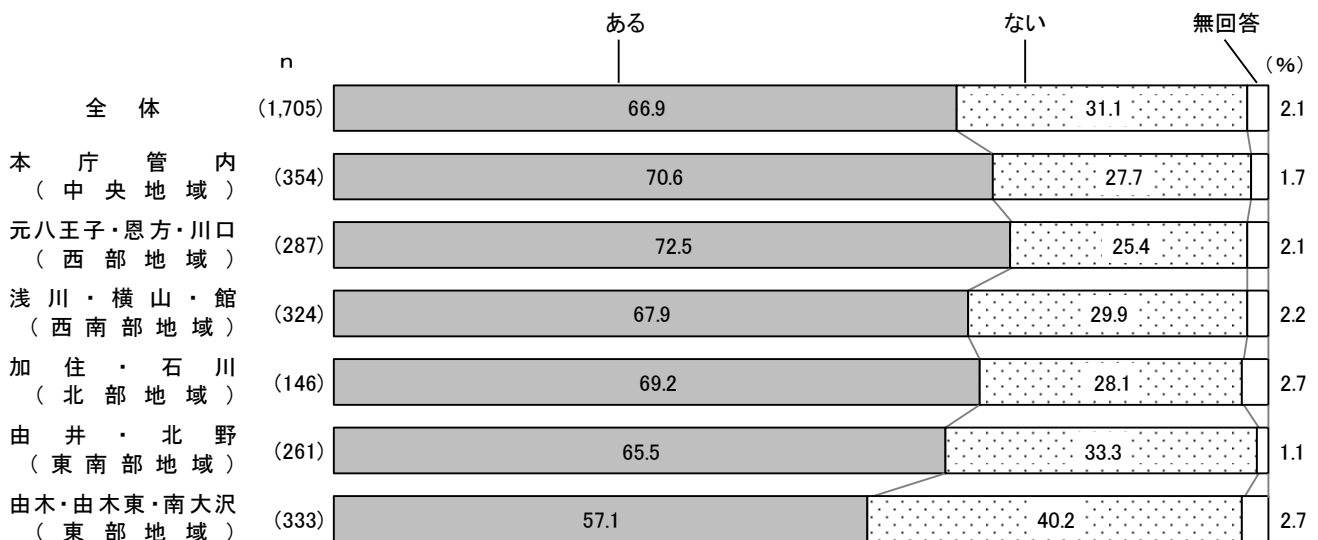
市の気候が以前と比べ変わってきていると感じたことがあるか聞いたところ、「ある」(66.9%)が7割近く、「ない」(31.1%)が3割強となっている。(図2-1-1)

図 2-1-2 気候の変化—性別・年齢別



性別にみると、「ある」は女性の方が男性よりも7.5ポイント高くなっている。
 年齢別にみると、「ある」は60～64歳まで年代が上がるにつれて割合が多くなり、60～64歳(75.1%)では7割台半ばと多くなっている。(図 2-1-2)

図 2-1-3 気候の変化—居住地域別



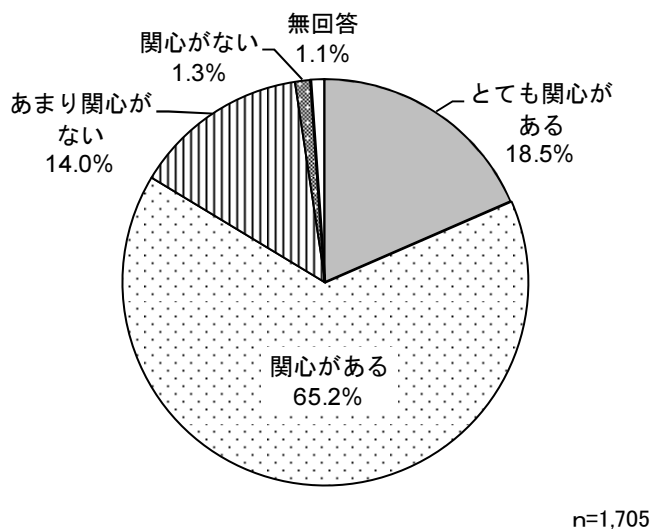
居住地域別にみると、「ある」は本庁管内(中央地域)(70.6%)と元八王子・恩方・川口(西部地域)(72.5%)で7割以上と多くなっている。(図 2-1-3)

(2) 地球温暖化問題への関心

◇《関心がある》が8割強

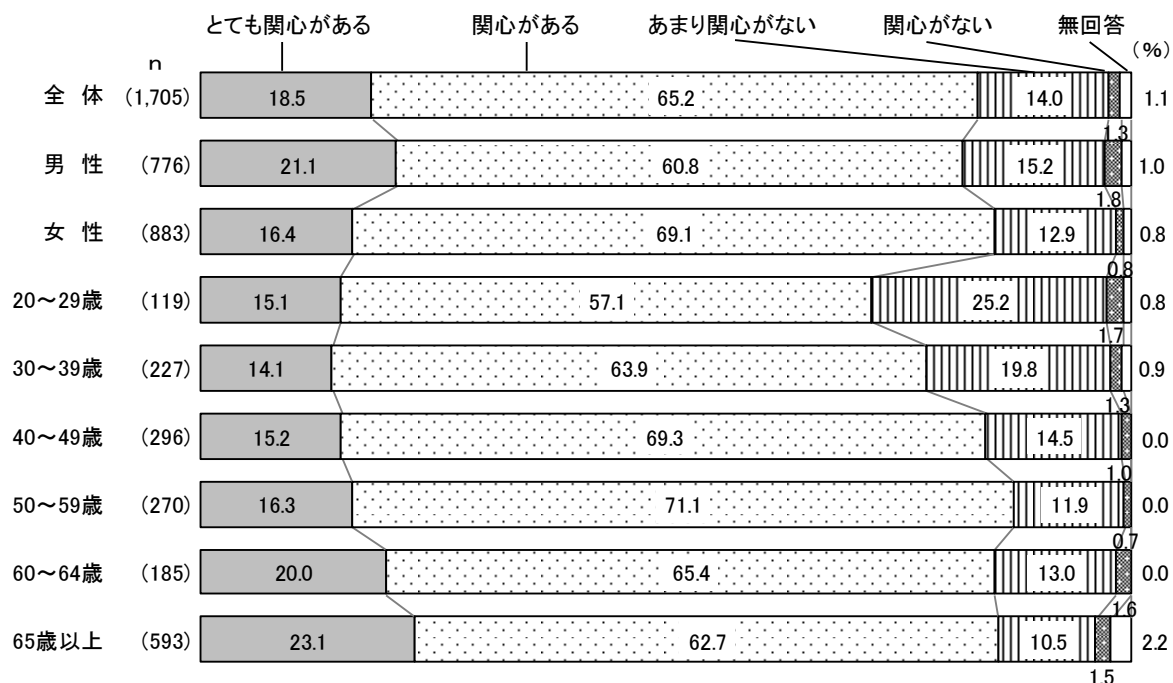
問5 あなたは、地球温暖化問題について関心がありますか。(○は1つだけ)

図2-2-1 地球温暖化問題への関心—全体



地球温暖化問題について関心があるか聞いたところ、「関心がある」(65.2%)が最も多く6割台半ばとなっている。次いで「とても関心がある」(18.5%)、「あまり関心がない」(14.0%)、「関心がない」(1.3%)の順となっている。「とても関心がある」と「関心がある」を合わせた《関心がある》(83.7%)は8割強、「あまり関心がない」と「関心がない」を合わせた《関心がない》(15.3%)は1割台半ばとなっている。(図2-2-1)

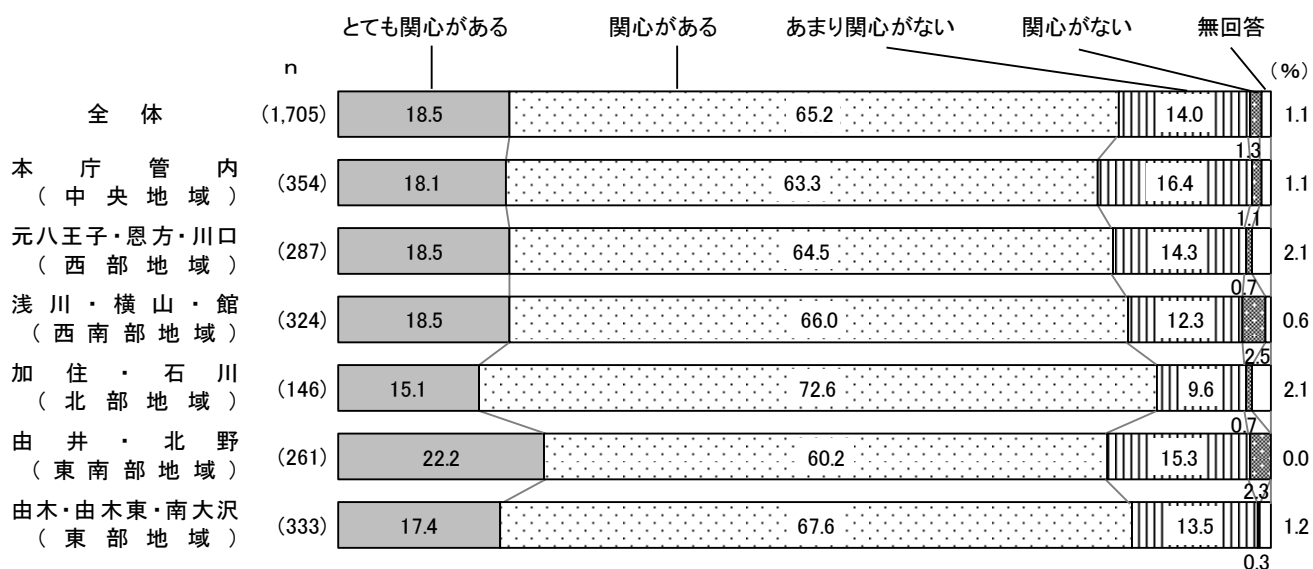
図 2-2-2 地球温暖化問題への関心—性別・年齢別



性別にみると、「関心がある」は女性の方が男性よりも3.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「関心がある」は40~49歳 (84.5%)、50~59歳 (87.4%)、60~64歳 (85.4%) 及び65歳以上 (85.8%) で8割台半ばを超えて多くなっている。(図 2-2-2)

図 2-2-3 地球温暖化問題への関心—居住地域別



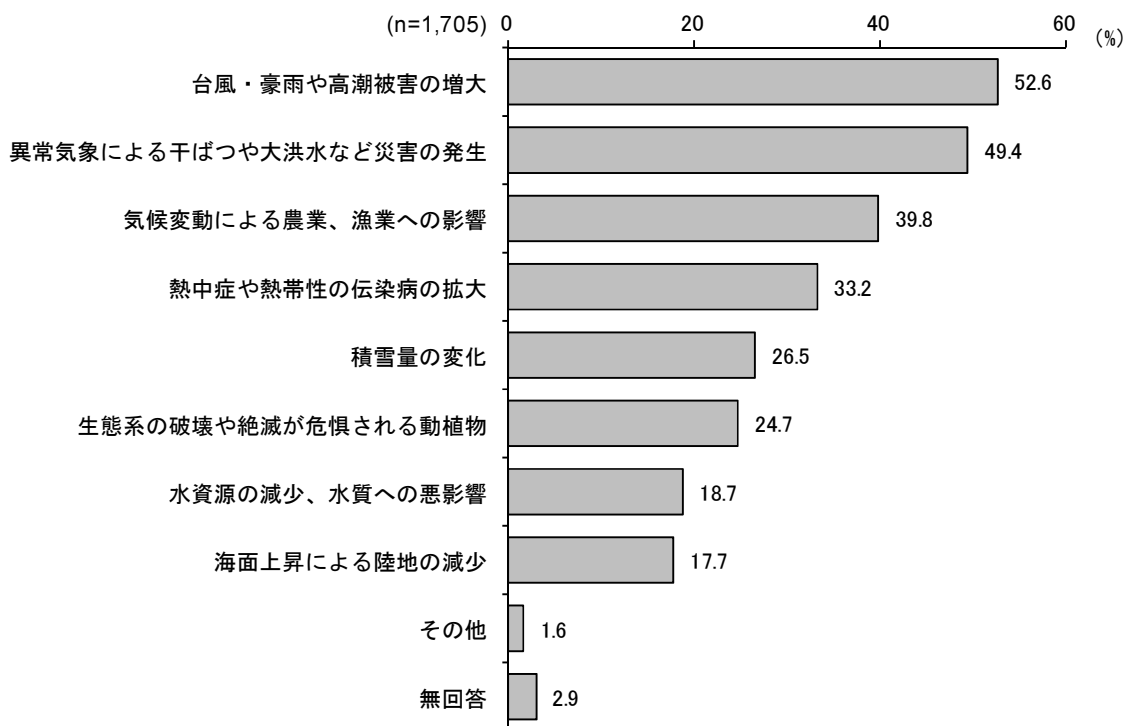
居住地域別にみると、「関心がある」はすべての地域において8割以上となっている。特に、「とても関心がある」は由井・北野 (東南部地域) (22.2%) で2割強と、他の地域と比較して多くなっている。(図 2-2-3)

(3) 異常気象の影響で不安に感じること

◇「台風・豪雨や高潮被害の増大」が5割強

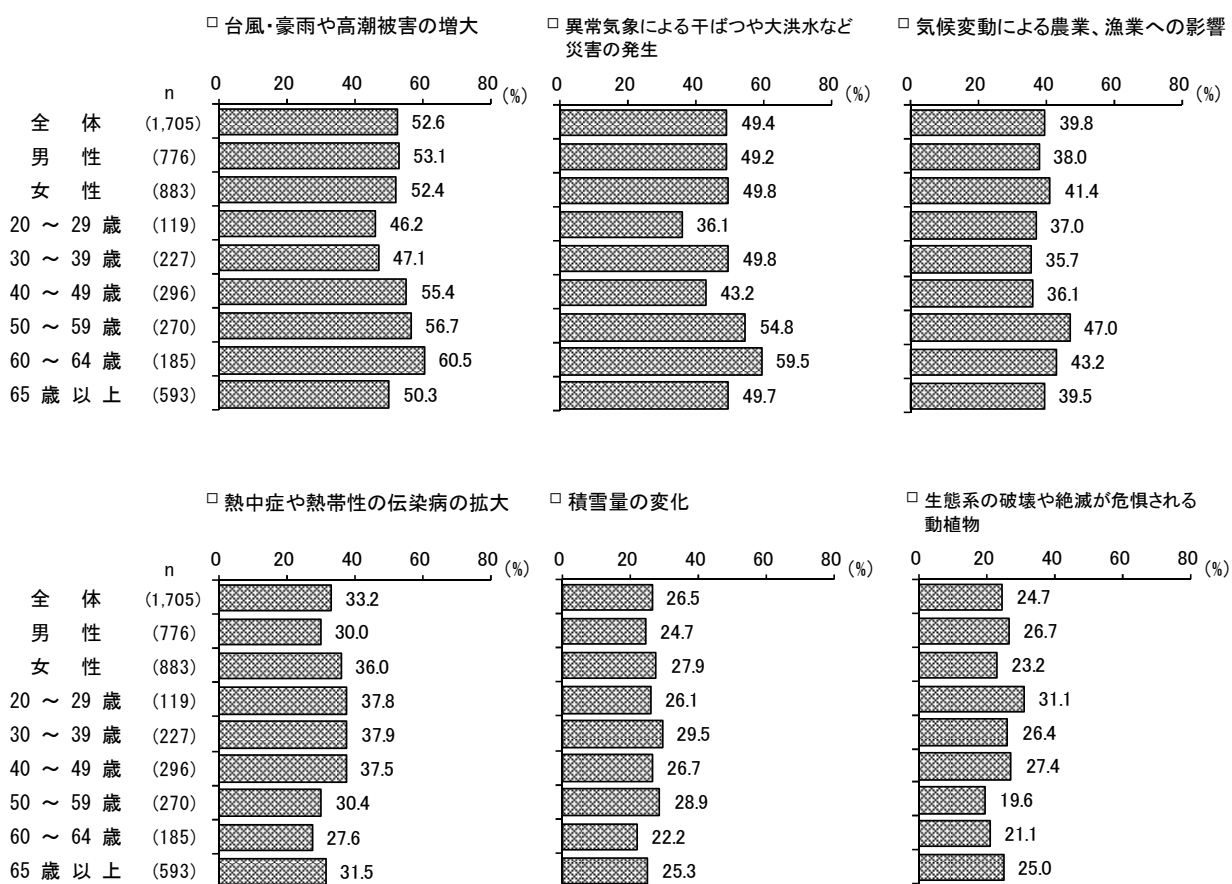
問6 あなたが、地球温暖化等を原因とする異常気象の影響で不安に感じることは何ですか。
(○は3つまで)

図2-3-1 異常気象の影響で不安に感じることー全体



地球温暖化等を原因とする異常気象の影響で不安に感じることを聞いたところ、「台風・豪雨や高潮被害の増大」(52.6%)が最も多く5割強となっている。次いで「異常気象による干ばつや大洪水など災害の発生」(49.4%)、「気候変動による農業、漁業への影響」(39.8%)、「熱中症や熱帯性の伝染病の拡大」(33.2%)、「積雪量の変化」(26.5%)の順となっている。(図2-3-1)

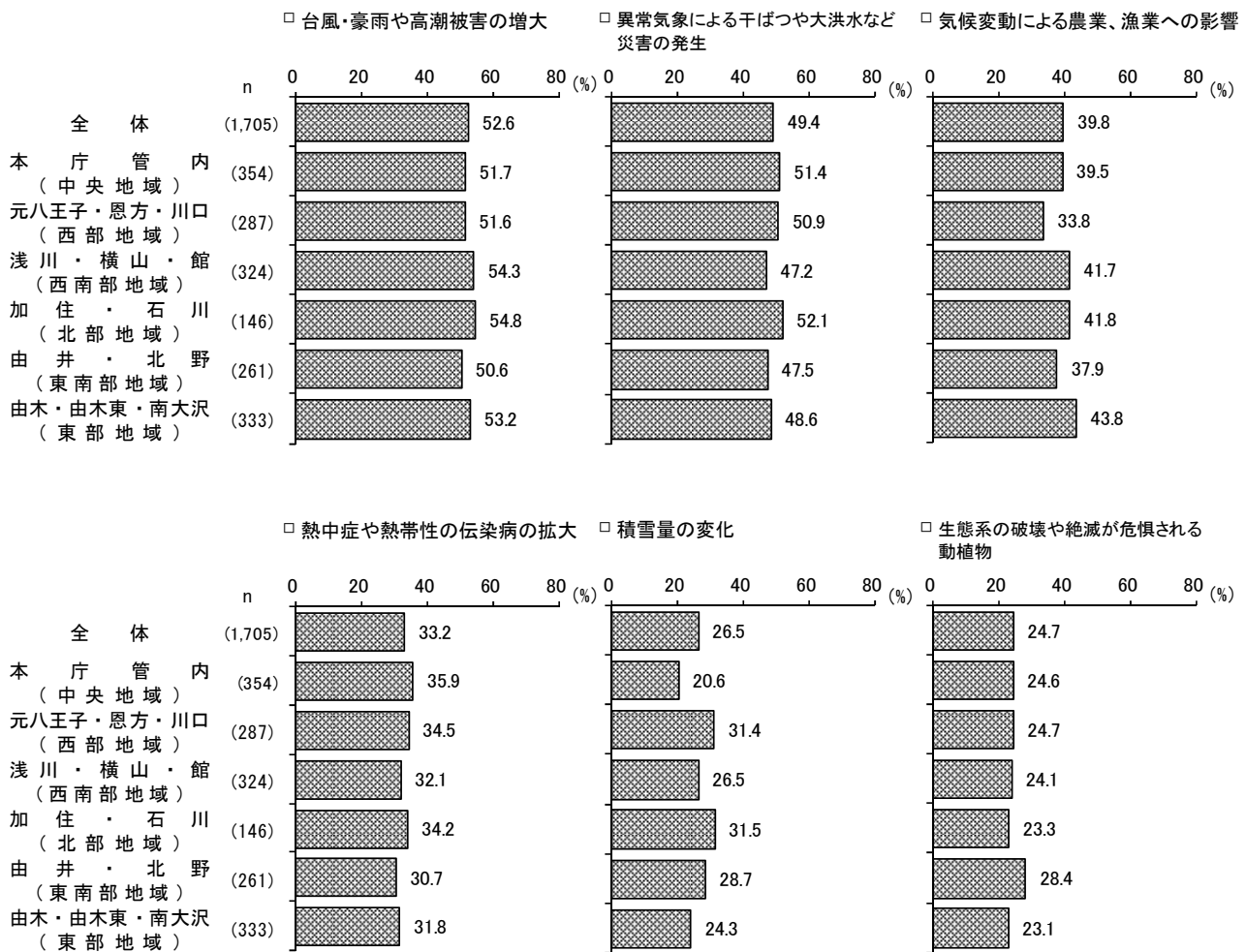
図 2-3-2 異常気象の影響で不安に感じること－性別・年齢別（上位 6 位）



性別にみると、「熱中症や熱帯性の伝染病の拡大」は女性の方が男性よりも6.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「台風・豪雨や高潮被害の増大」は60～64歳（60.5%）で約6割、「異常気象による干ばつや大洪水など災害の発生」も60～64歳（59.5%）で6割弱と、他の年代と比較して多くなっている。また、「熱中症や熱帯性の伝染病の拡大」は20～29歳（37.8%）、30～39歳（37.9%）及び40～49歳（37.5%）で4割近くと多くなっている。さらに、「生態系の破壊や絶滅が危惧される動植物」は20～29歳（31.1%）で3割強と多くなっている。（図 2-3-2）

図 2-3-3 異常気象の影響で不安に感じること—居住地域別（上位 6 位）



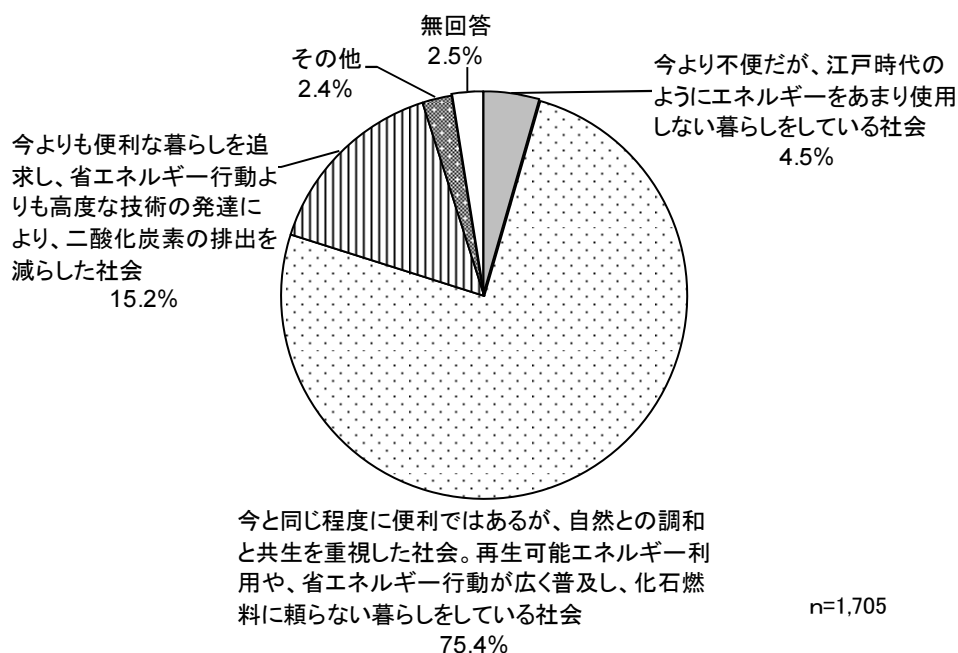
居住地域別にみると、「台風・豪雨や高潮被害の増大」はすべての地域において5割以上と多くなっている。「異常気象による干ばつや大洪水など災害の発生」は本庁管内（中央地域）（51.4%）、元八王子・恩方・川口（西部地域）（50.9%）及び加住・石川（北部地域）（52.1%）で5割以上と多くなっている。また、「気候変動による農業、漁業への影響」は浅川・横山・館（西南部地域）（41.7%）、加住・石川（北部地域）（41.8%）及び由木・由木東・南大沢（東部地域）（43.8%）で4割強と多くなっている。（図 2-3-3）

(4) 二酸化炭素を排出しない社会

◇「今と同じ程度に便利ではあるが、自然との調和と共生を重視した社会、再生可能エネルギー利用や、省エネルギー行動が広く普及し、化石燃料に頼らない暮らしをしている社会」が7割台半ば

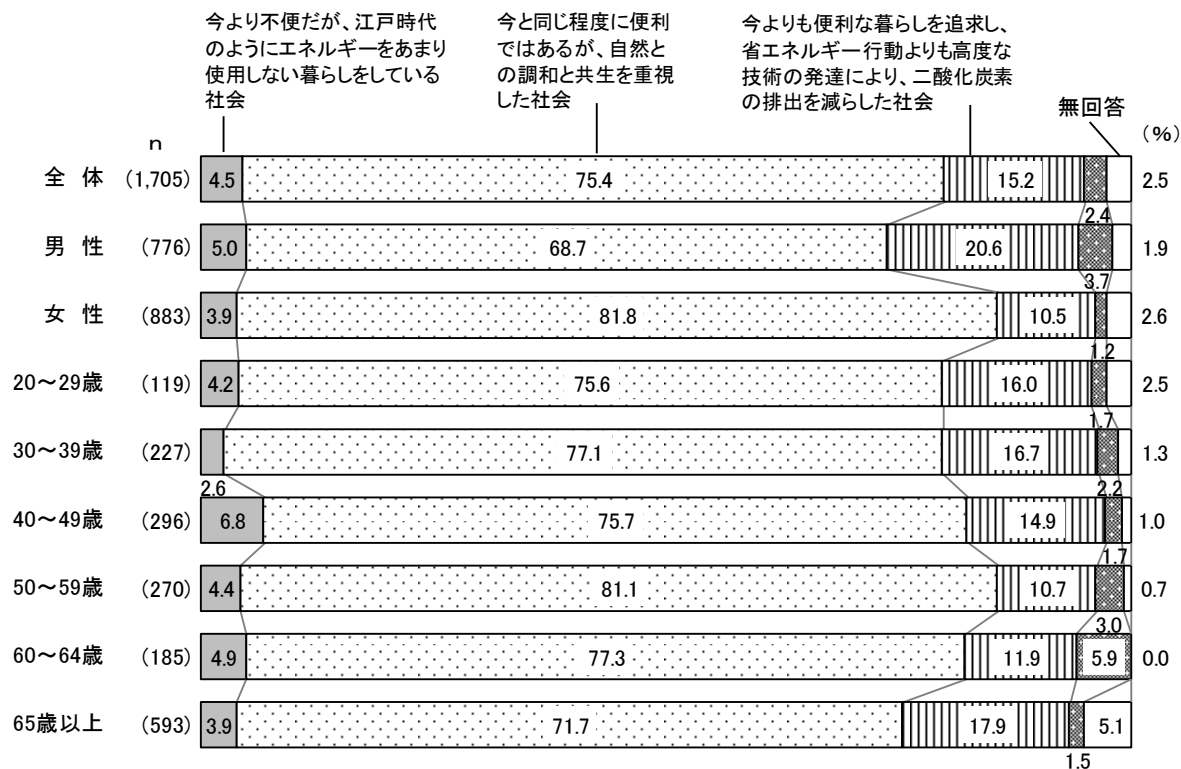
問7 地球温暖化を防ぐために、これから目指すべき二酸化炭素を排出しない社会とは、どのようなものだと思いますか。(〇は1つだけ)

図2-4-1 二酸化炭素を排出しない社会－全体



地球温暖化を防ぐために、これから目指すべき二酸化炭素を排出しない社会とはどのようなものであるか聞いたところ、「今と同じ程度に便利ではあるが、自然との調和と共生を重視した社会。再生可能エネルギー利用や、省エネルギー行動が広く普及し、化石燃料に頼らない暮らしをしている社会」(75.4%)が最も多く7割台半ばを占めている。次いで「今よりも便利な暮らしを追求し、省エネルギー行動よりも高度な技術の発達により、二酸化炭素の排出を減らした社会」(15.2%)、「今より不便だが、江戸時代のようにエネルギーをあまり使用しない暮らしをしている社会」(4.5%)の順となっている。(図2-4-1)

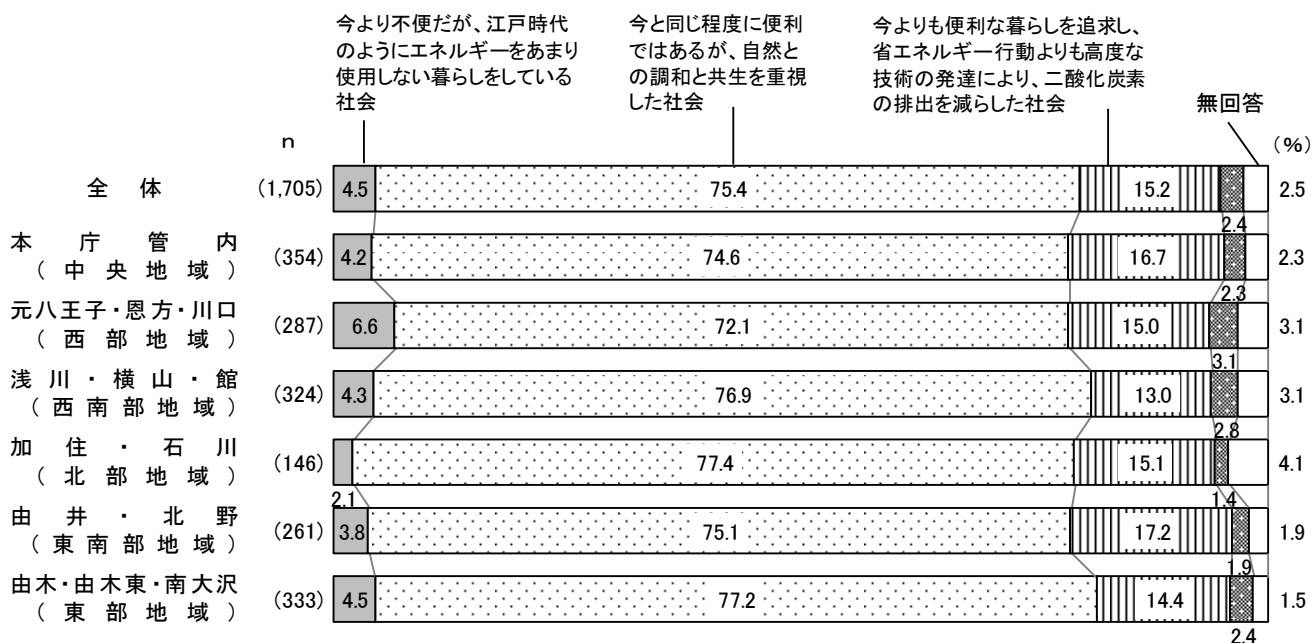
図2-4-2 二酸化炭素を排出しない社会－性別・年齢別



性別にみると、「今と同じ程度に便利ではあるが、自然との調和と共生を重視した社会」は女性の方が男性よりも13.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「今と同じ程度に便利ではあるが、自然との調和と共生を重視した社会」は50～59歳（81.1%）で8割強と、他の年代と比較して多くなっている。（図2-4-2）

図2-4-3 二酸化炭素を排出しない社会－居住地域別



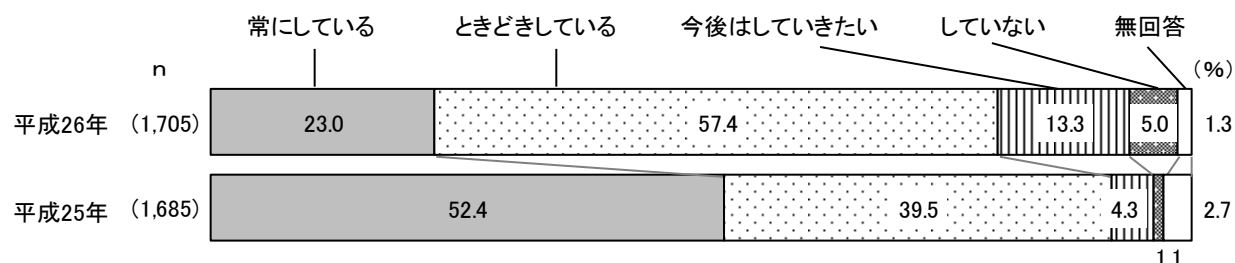
居住地域別にみると、「今と同じ程度に便利ではあるが、自然との調和と共生を重視した社会」はすべての地域において7割以上と多くなっている。（図2-4-3）

(5) 地球環境への配慮

◇ 《している》が約8割

問8 あなたは、ふだんから省エネルギー・省資源など、地球環境に配慮した暮らしをしていますか。(○は1つだけ)

図2-5-1 地球環境への配慮—全体、経年比較

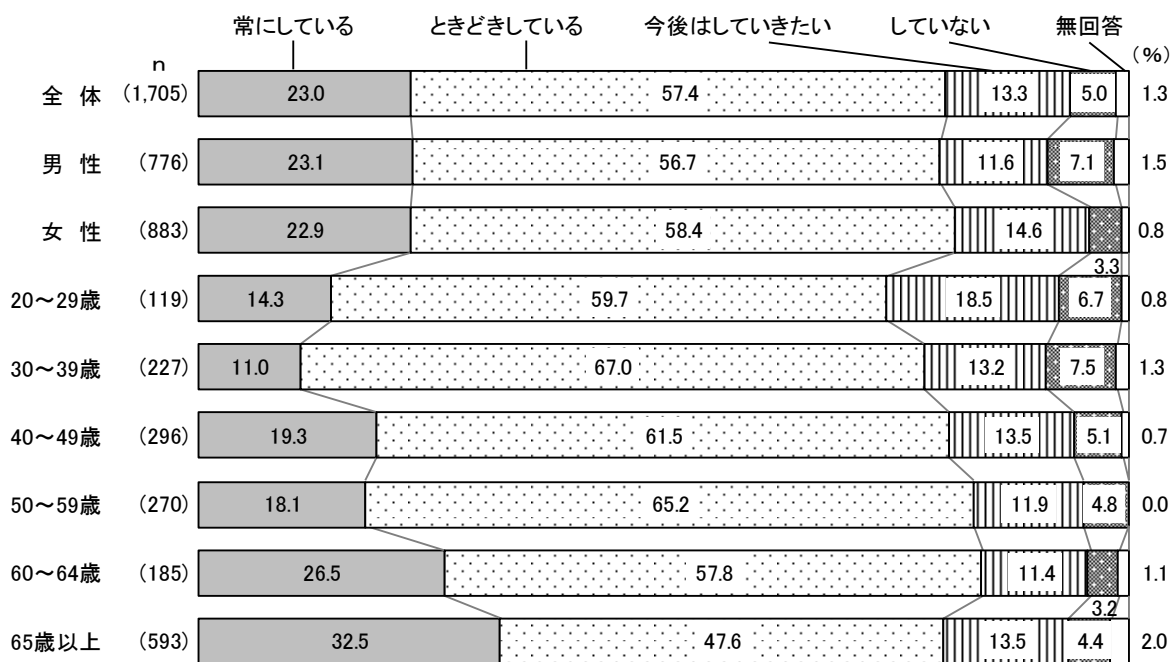


ふだんから省エネルギー・省資源など、地球環境に配慮した暮らしをしているか聞いたところ、「ときどきしている」(57.4%)が最も多く6割近くを占めている。次いで「常にしている」(23.0%)、「今後はしていきたい」(13.3%)、「していない」(5.0%)の順となっている。

「常にしている」と「ときどきしている」を合わせた《している》(80.4%)は約8割となっている。

前回調査と比較すると、「常にしている」は29.4ポイント、《している》は11.5ポイント減少している。(図2-5-1)

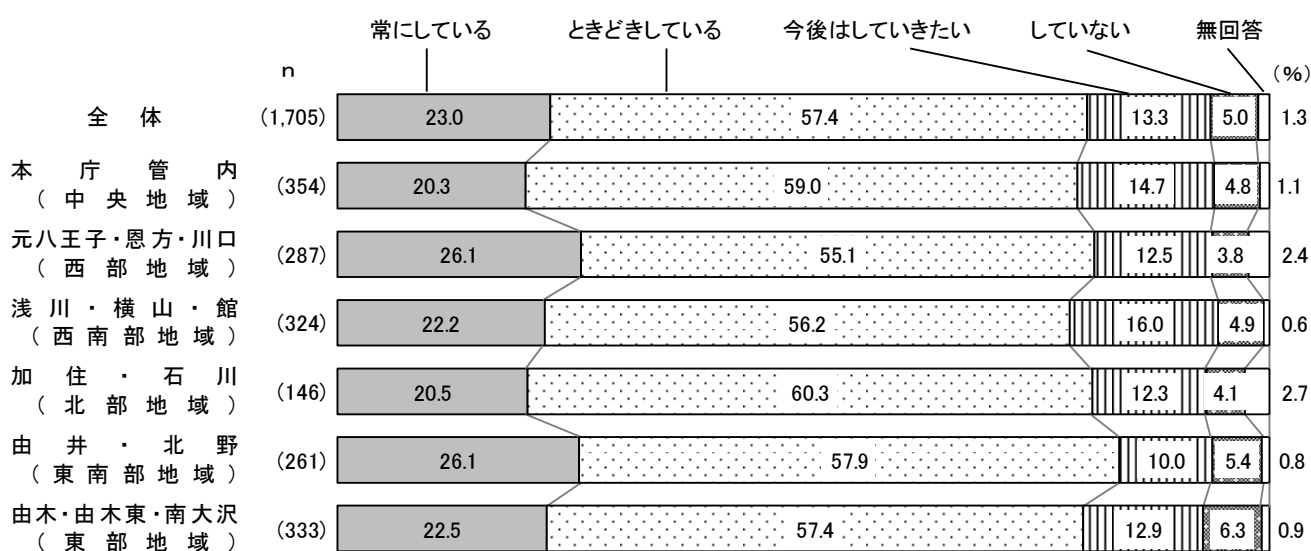
図 2-5-2 地球環境への配慮—性別・年齢別



性別にみると、男性と女性で大きな差はみられない。

年齢別にみると、「している」は年代が上がるにつれて割合が多くなり、60～64歳（84.3%）では8割台半ばと最も多くなっている。（図 2-5-2）

図 2-5-3 地球環境への配慮—居住地域別



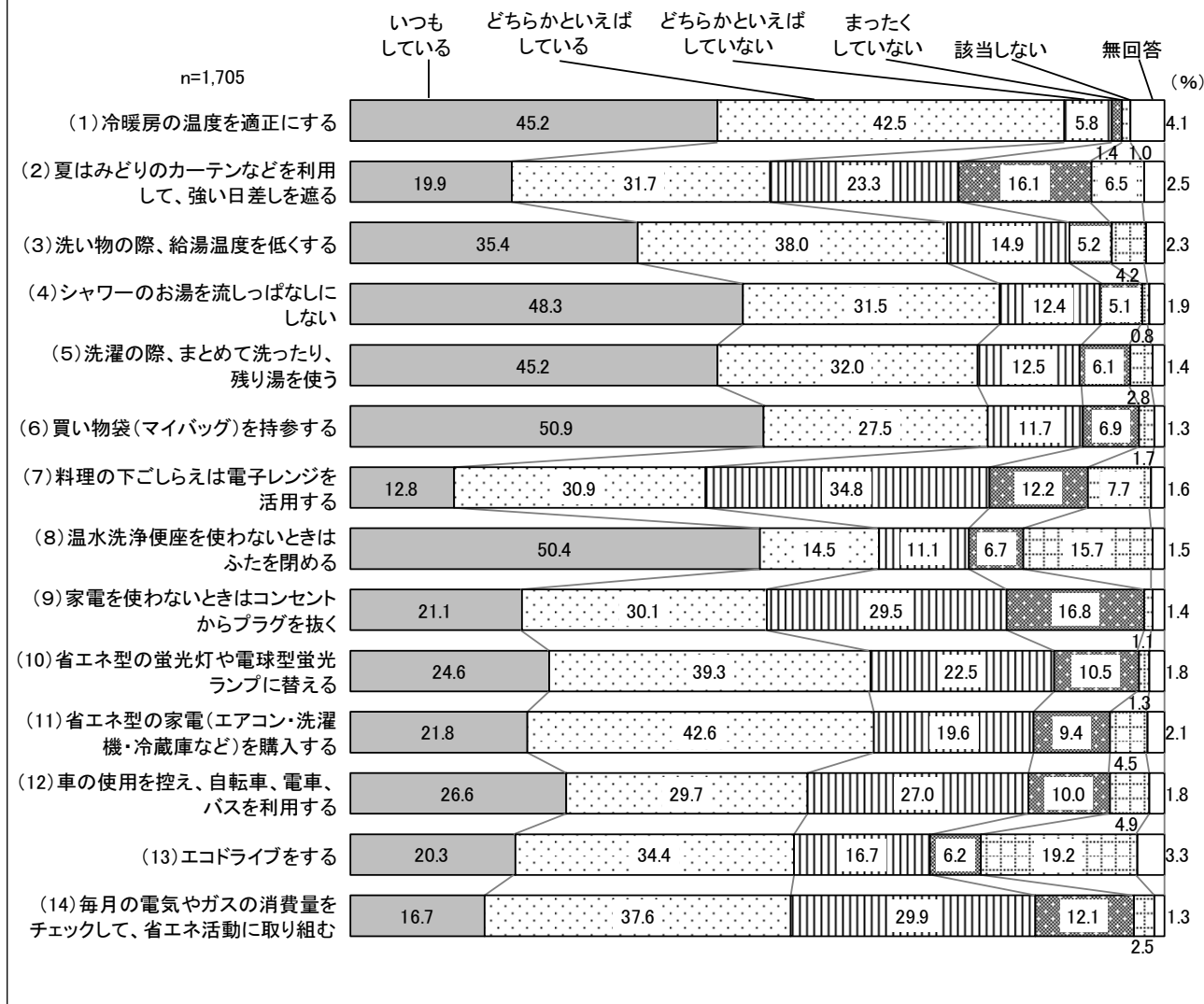
居住地域別にみると、「している」はすべての地域において8割前後となっており、特に、由井・北野（東南部地域）（84.0%）では8割台半ばと多くなっている。（図 2-5-3）

(6) 省エネルギー・省資源のために実施していること

◇《している》は「冷暖房の温度を適正にする」が9割近く

問9 あなたは、省エネルギー・省資源のために、毎日の生活の中で次のようなことをしていますか。(1)～(14)の各項目それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

図2-6-1 省エネルギー・省資源のために実施していることー全体

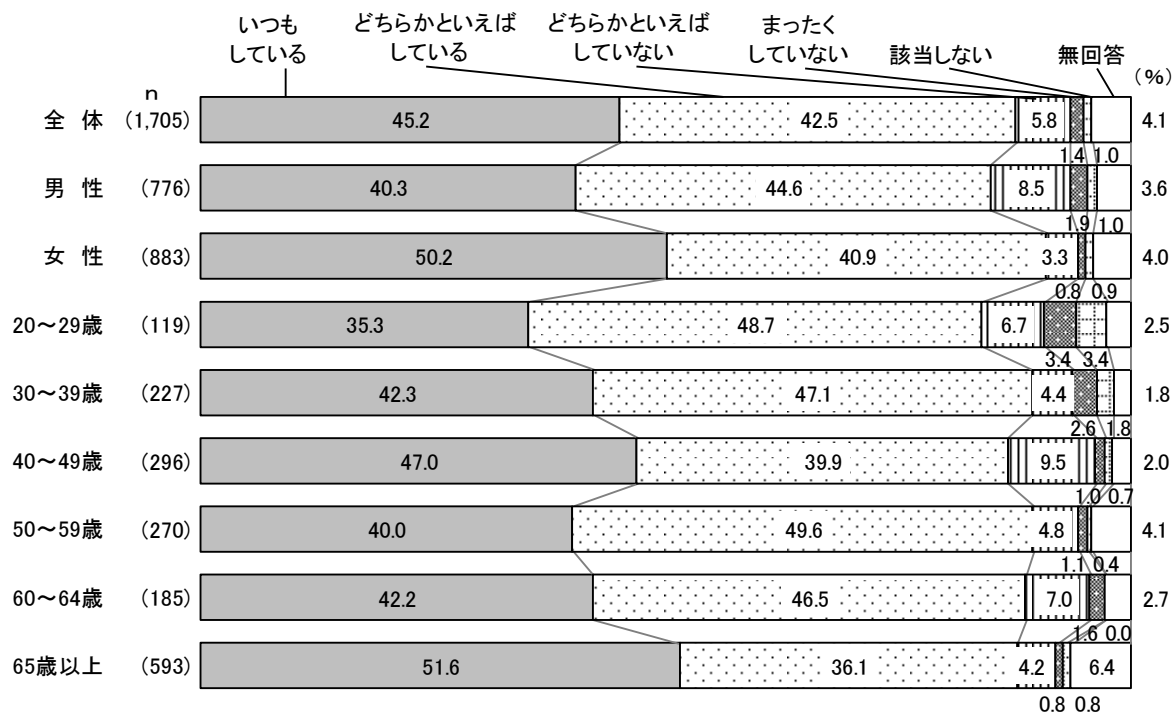


省エネルギー・省資源のために毎日の生活の中で実践していることを聞いたところ、「いつもしている」は、「買い物袋(マイバッグ)を持参する」(50.9%)と「温水洗浄便座を使わないときはふたを閉める」(50.4%)で約5割と多くなっている。「どちらかといえばしている」を合わせた《している》は、「冷暖房の温度を適正にする」(87.7%)が最も多く9割近くを占めている。ほかに「シャワーのお湯を流しっぱなしにしない」(79.8%)、「買い物袋(マイバッグ)を持参する」(78.4%)、「洗濯の際、まとめて洗ったり、残り湯を使う」(77.2%)などが多くなっている。一方、「どちらかといえばしていない」と「まったくしていない」を合わせた《していない》は「料理の下ごしらは電子レンジを活用する」(47.0%)、「家電を使わないときはコンセントからプラグを抜く」(46.3%)で5割近くと多くなっている。(図2-6-1)

①冷暖房の温度を適正にする

◇《している》が9割近く

図2-6-2 ①冷暖房の温度を適正にする－性別・年齢別

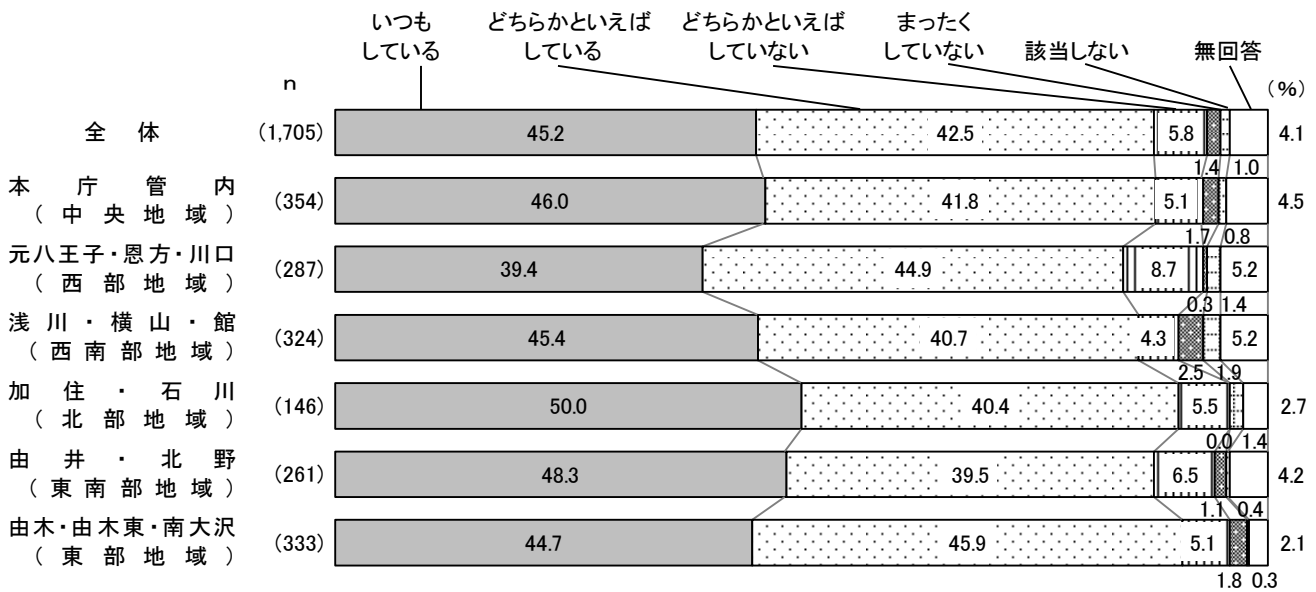


冷暖房の温度を適正にすることについて、《している》（87.7%）は9割近くとなっている。

性別にみると、《している》は女性の方が男性よりも6.2ポイント高くなっている。

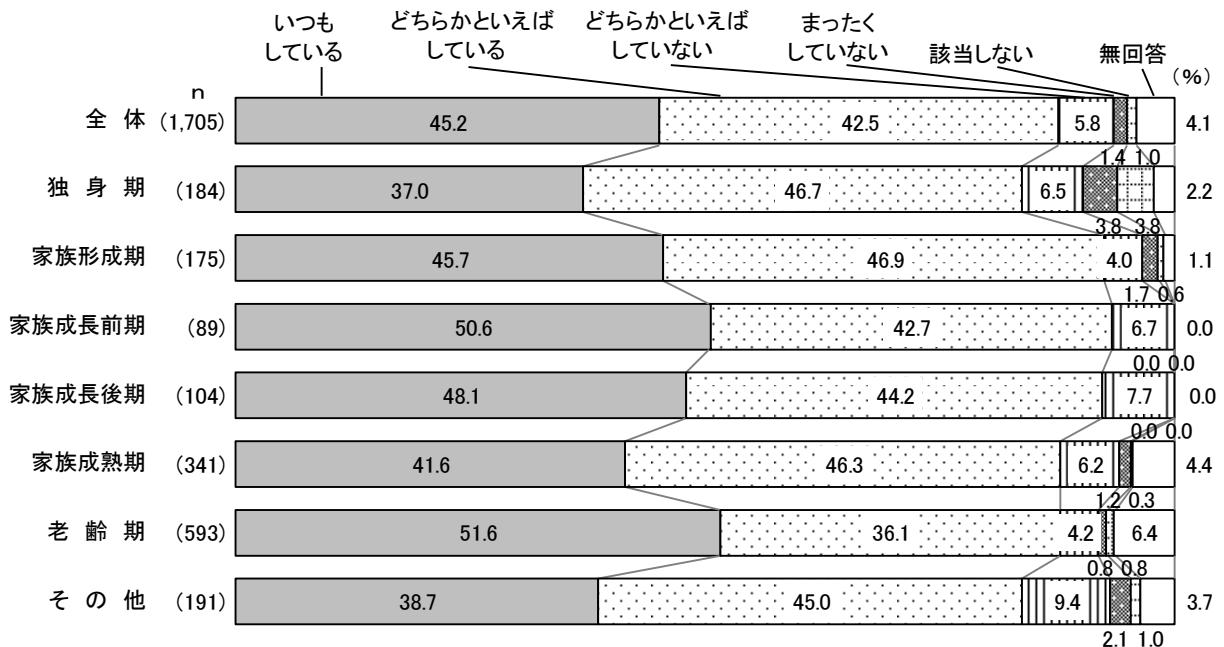
年齢別にみると、《している》はすべての年代において8割台半ばを超えて多くなっている。特に、「いつもしている」は65歳以上（51.6%）では5割強と、他の年代と比較して多くなっている。（図2-6-2）

図2-6-3 ①冷暖房の温度を適正にする－居住地域別



居住地域別にみると、「《している》」はすべての地域において8割台半ばを超えて多くなっている。特に、加住・石川（北部地域）（90.4%）と由木・由木東・南大沢（東部地域）（90.6%）では約9割となっている。（図2-6-3）

図2-6-4 ①冷暖房の温度を適正にする－ライフステージ別

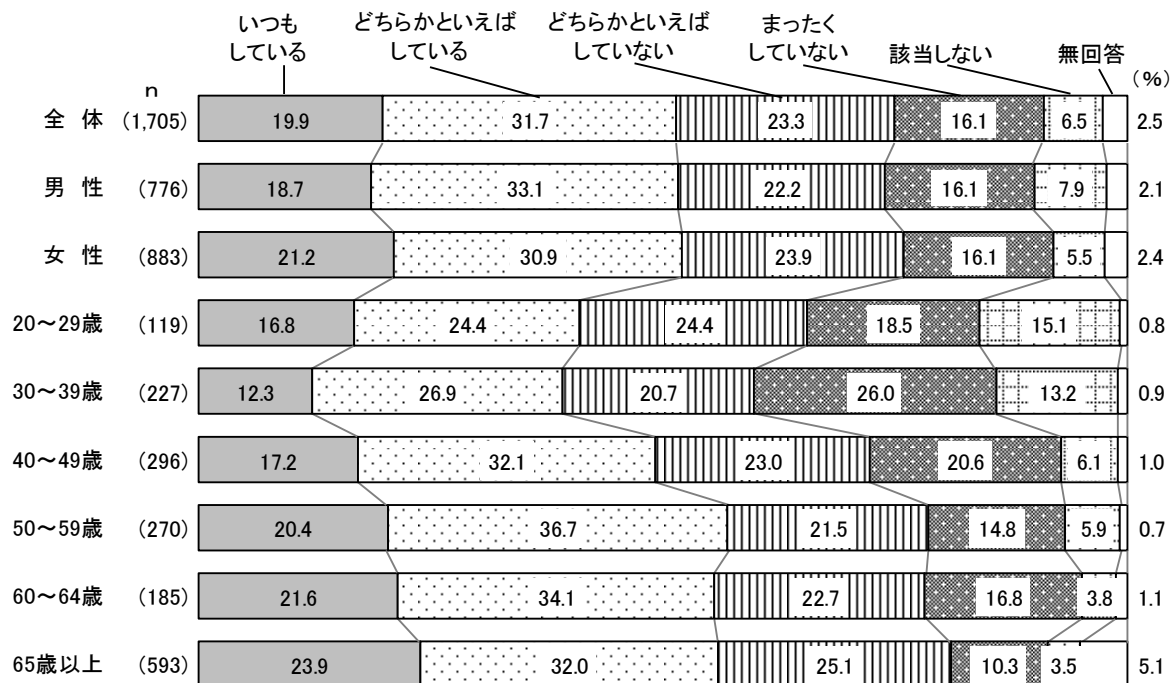


ライフステージ別にみると、「《している》」は家族形成期（92.6%）、家族成長前期（93.3%）及び家族成長後期（92.3%）で9割強と多くなっている。（図2-6-4）

②夏はみどりのカーテンなどを利用して、強い日差しを遮る

◇《している》が5割強

図2-6-5 ②強い日差しを遮る-性別・年齢別

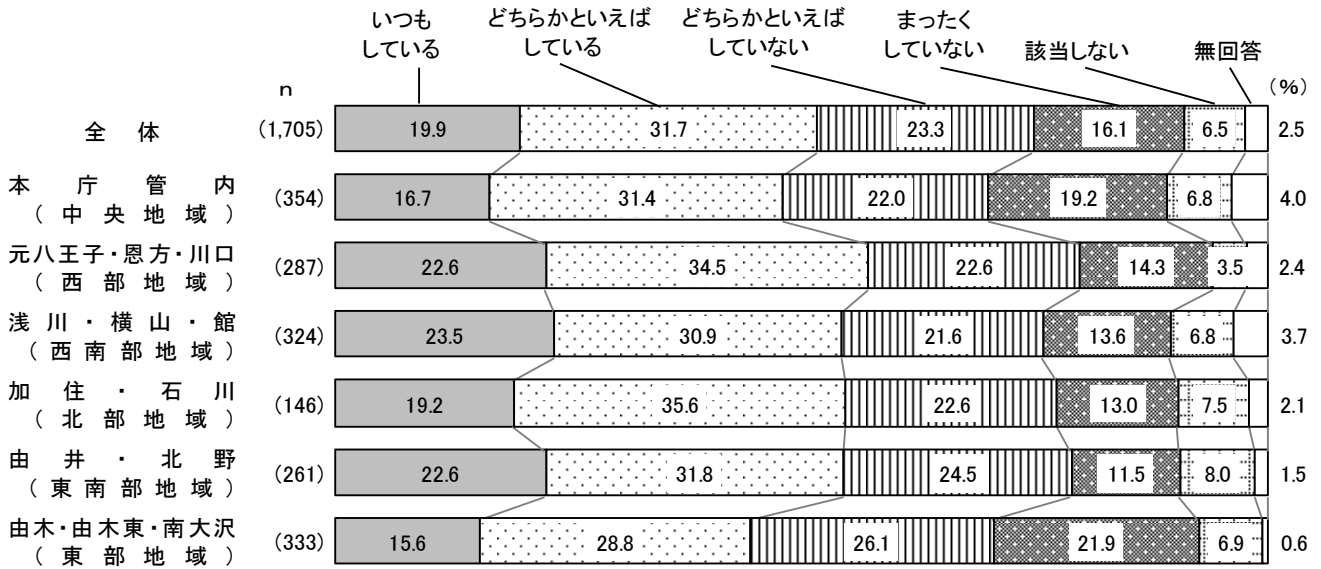


夏はみどりのカーテンなどを利用して、強い日差しを遮ることについて、《している》(51.6%)は5割強となっている。

性別にみると、男性と女性で大きな差はみられない。

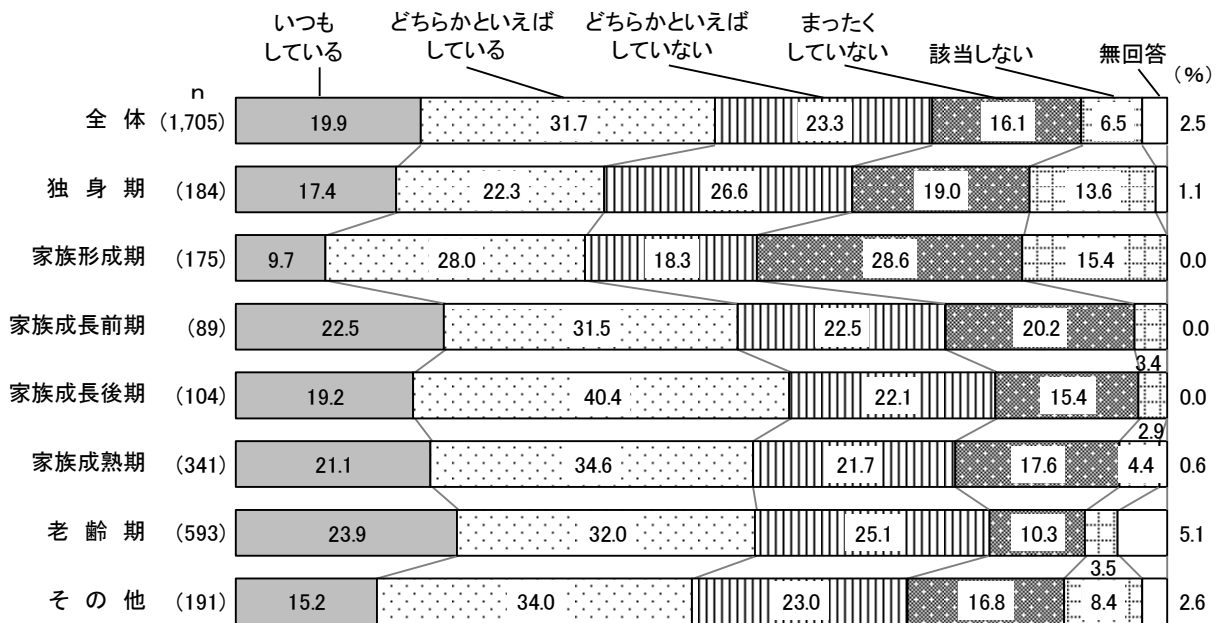
年齢別にみると、《している》は50~59歳(57.1%)、60~64歳(55.7%)及び65歳以上(55.9%)で5割台半ばを超えて多くなっている。一方、《していない》は30~39歳(46.7%)で5割近くと多くなっている。(図2-6-5)

図 2-6-6 ②強い日差しを遮る－居住地域別



居住地域別にみると、「《している》」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（57.1%）で6割近くと多くなっている。「まったくしていない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（21.9%）で2割強と、他の地域よりも多くなっている。（図 2-6-6）

図 2-6-7 ②強い日差しを遮る－ライフステージ別

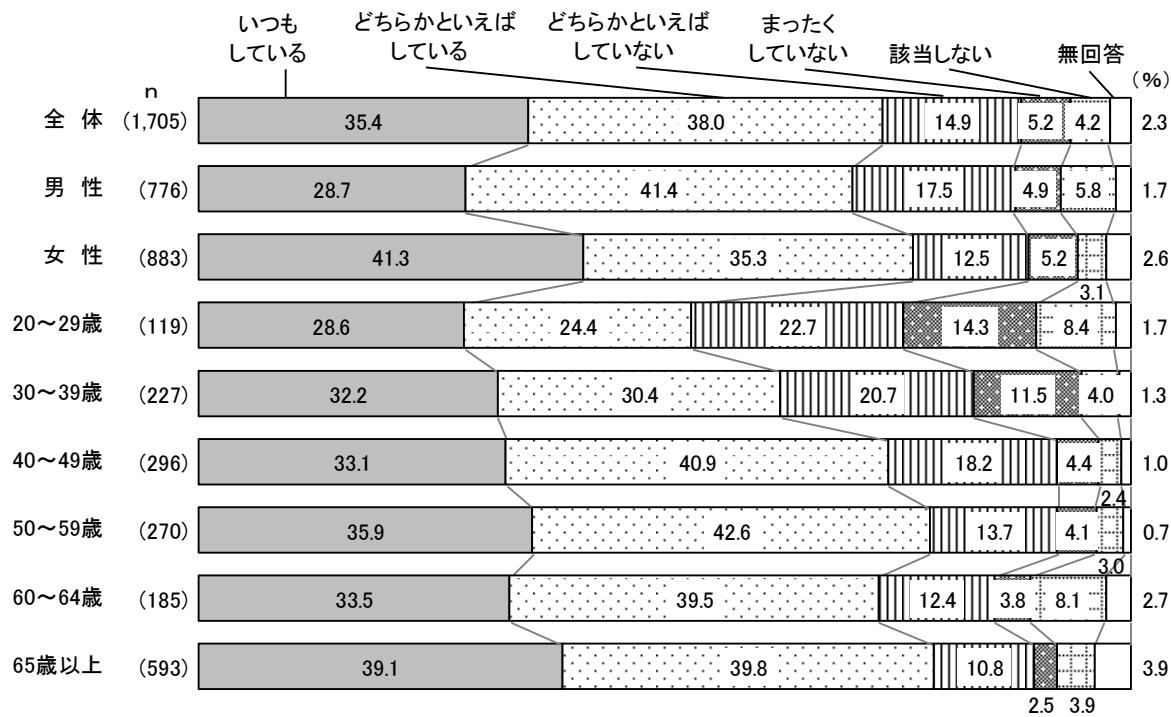


ライフステージ別にみると、「《している》」は家族成長後期（59.6%）で6割弱と多くなっている。（図 2-6-7）

③ 洗い物の際、給湯温度を低くする

◇《している》が7割強

図 2-6-8 ③給湯温度を低くする—性別・年齢別

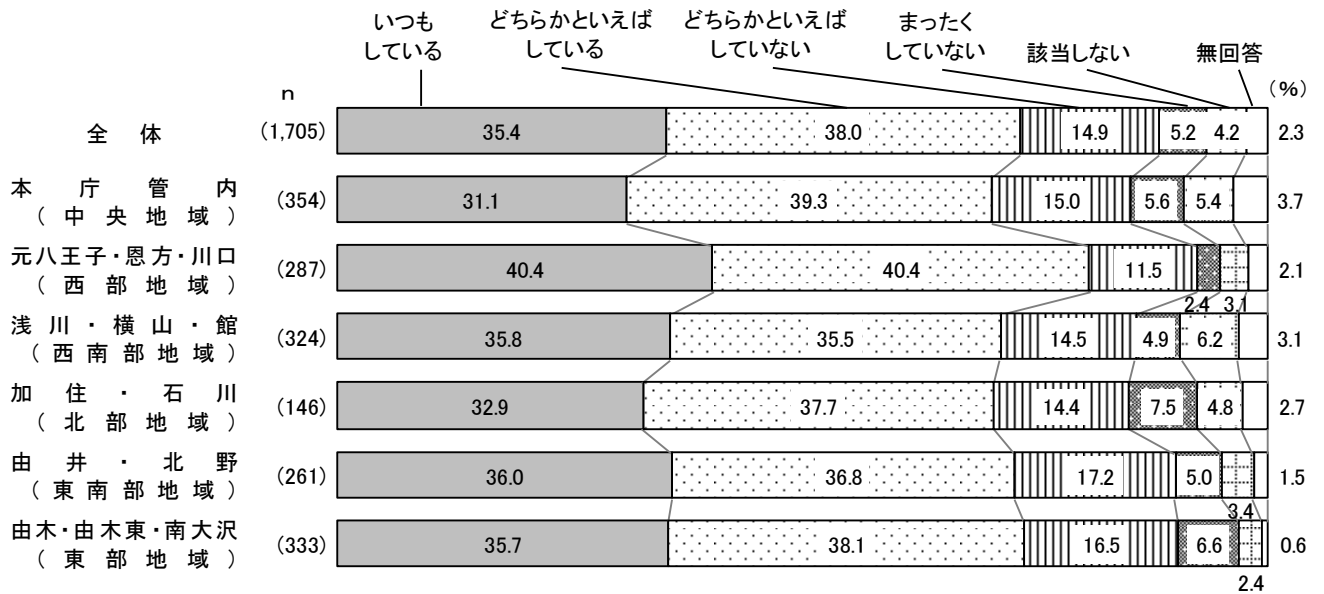


洗い物の際、給湯温度を低くすることについて、《している》（73.4%）は7割強となっている。

性別にみると、「いつもしている」は女性の方が男性よりも12.6ポイント高くなっている。

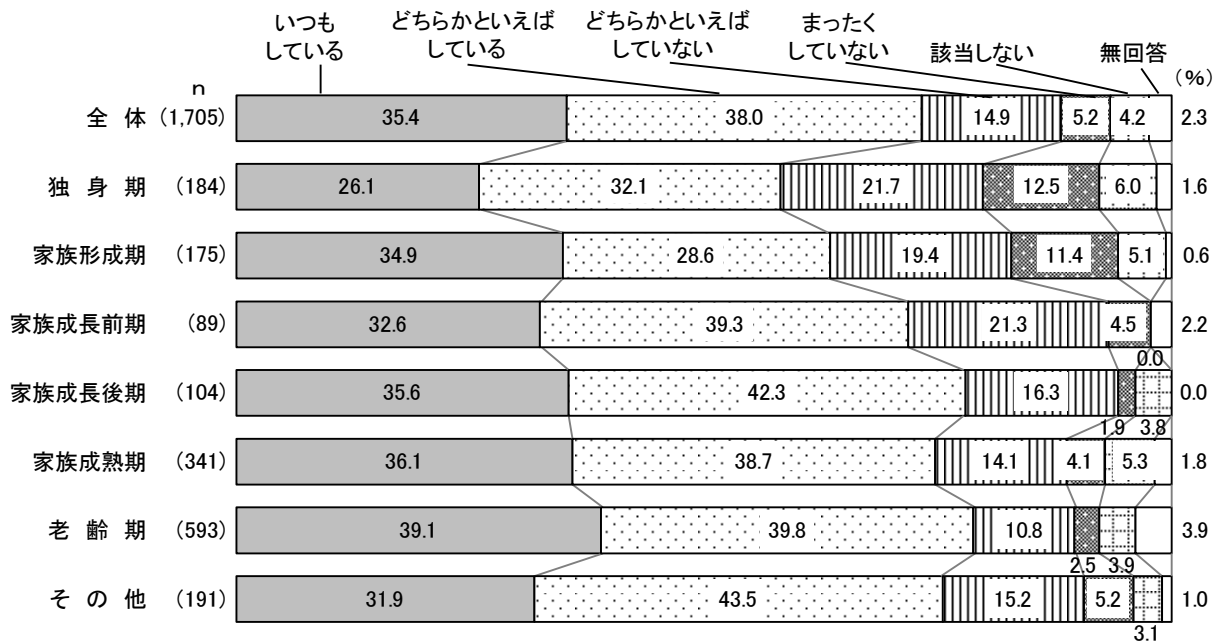
年齢別にみると、《している》は50～59歳（78.5%）と65歳以上（78.9%）で8割近くと多くなっている。（図 2-6-8）

図 2-6-9 ③給湯温度を低くする－居住地域別



居住地域別にみると、「している」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（80.8%）で約8割と、他の地域と比較して多くなっている。（図2-6-9）

図 2-6-10 ③給湯温度を低くする－ライフステージ別

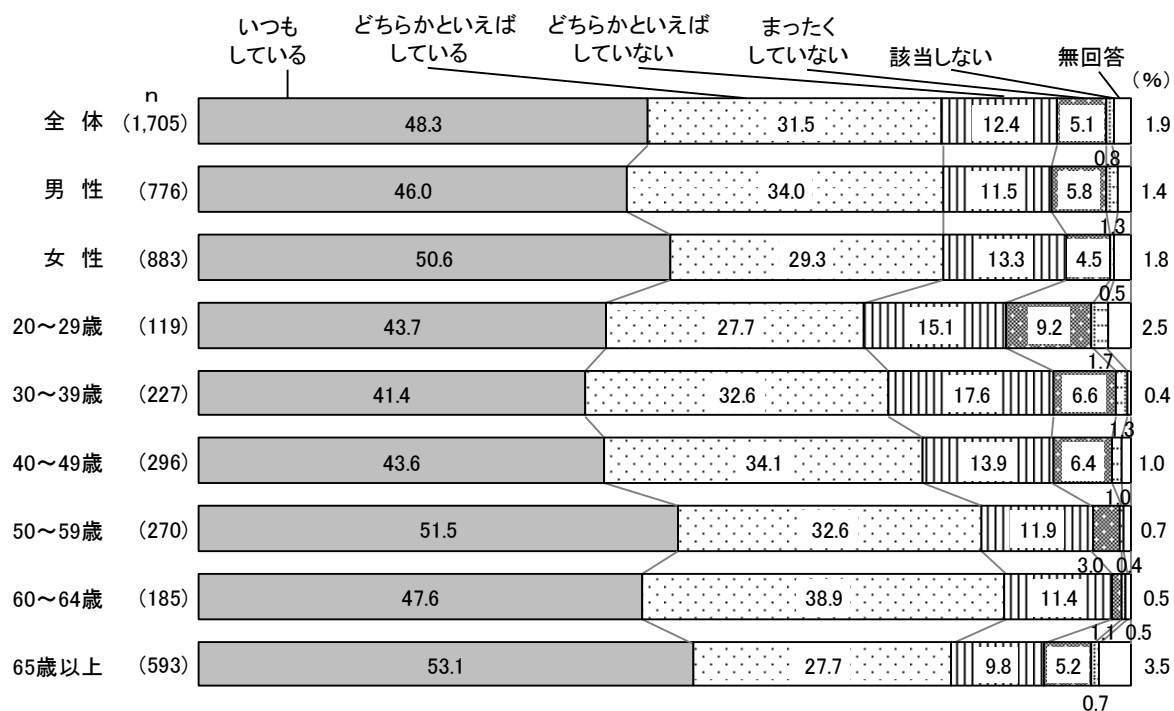


ライフステージ別にみると、「している」は家族成長後期（77.9%）と老齡期（78.9%）で8割近くと多くなっている。（図2-6-10）

④シャワーのお湯を流しっぱなしにしない

◇《している》が8割弱

図2-6-11 ④シャワーのお湯を流しっぱなしにしない—性別・年齢別

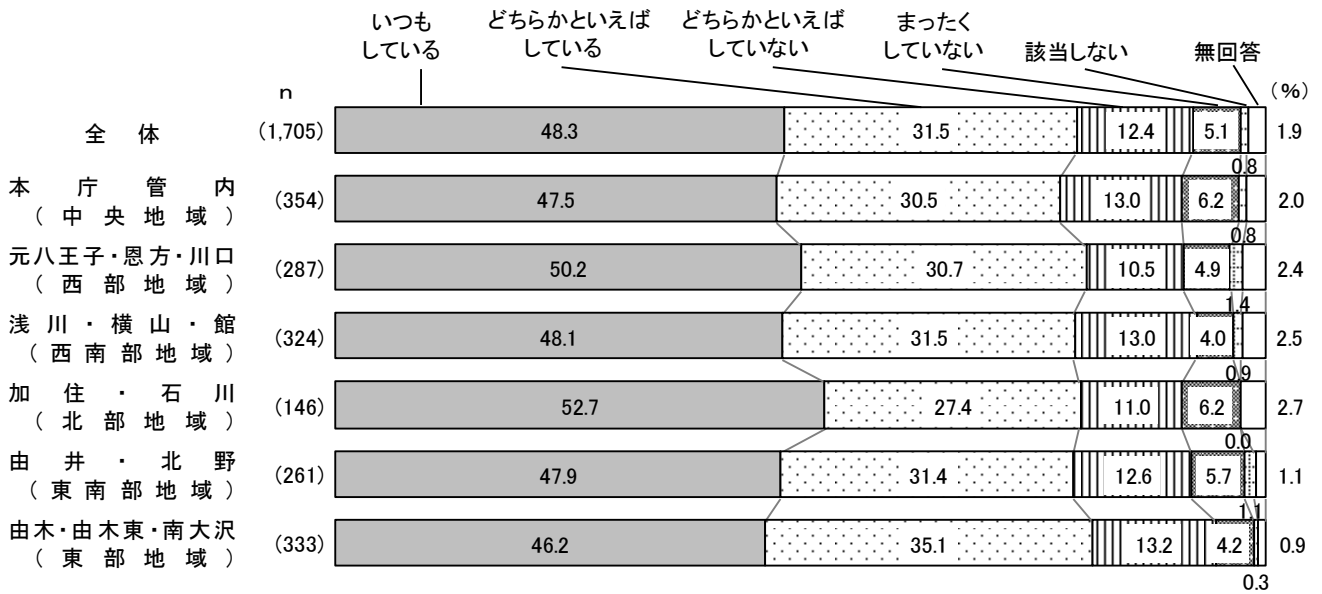


シャワーのお湯を流しっぱなしにしないことについて、《している》(79.8%)が8割弱となっている。

性別にみると、「いつもしている」は女性の方が男性よりも4.6ポイント高くなっている。

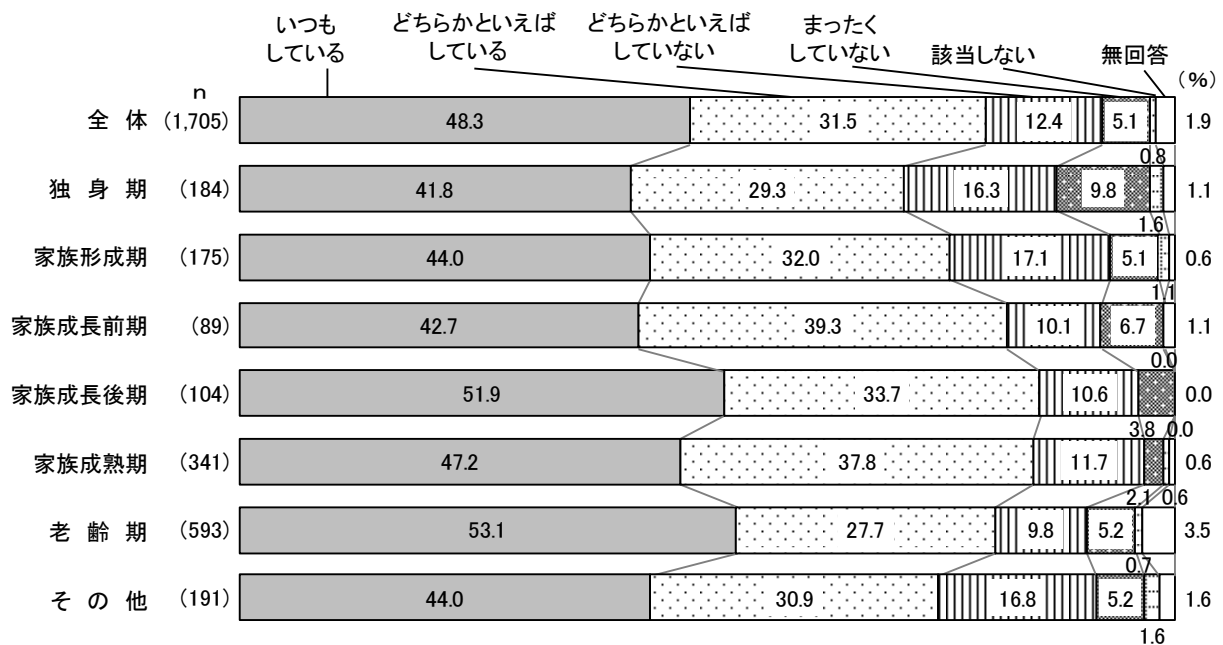
年齢別にみると、《している》は50~59歳(84.1%)と60~64歳(86.5%)で8割台半ばを超えて多くなっている。(図2-6-11)

図 2-6-12 ④シャワーのお湯を流しっぱなしにしないー居住地域別



居住地域別にみると、「《している》」はすべての地域において8割前後と多くなっている。特に、「いつもしている」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（50.2%）と加住・石川（北部地域）（52.7%）で5割以上となっている。（図2-6-12）

図 2-6-13 ④シャワーのお湯を流しっぱなしにしないーライフステージ別

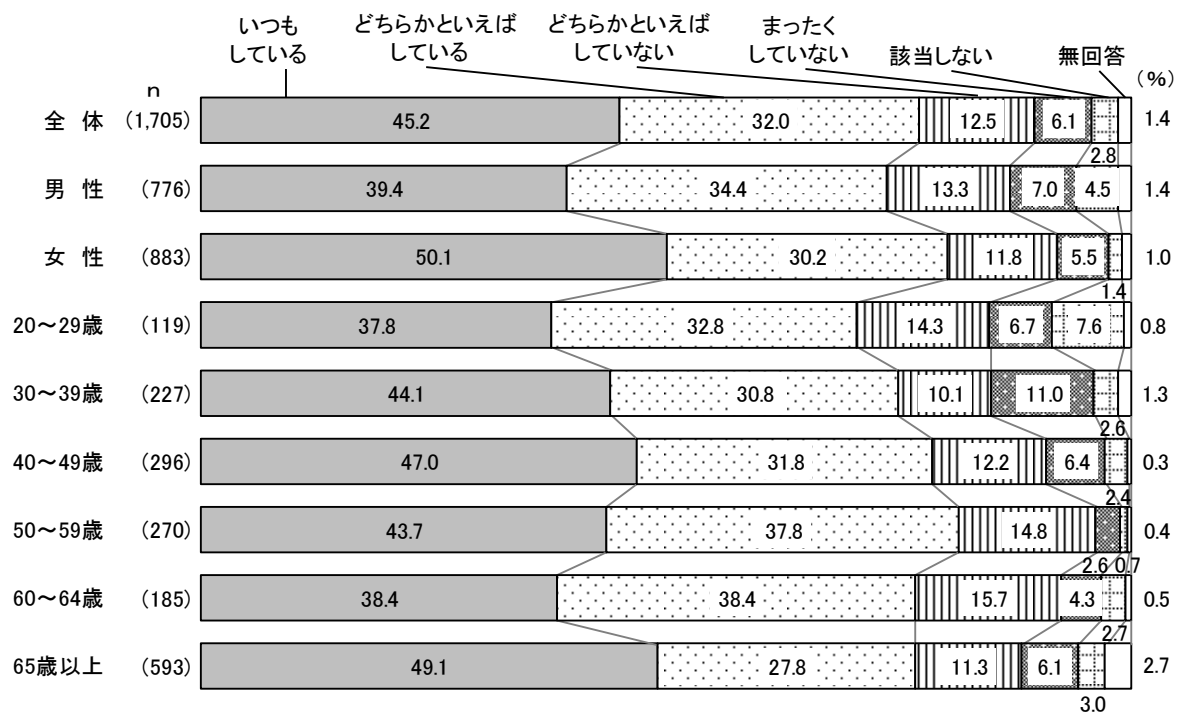


ライフステージ別にみると、「《している》」は家族成長後期（85.6%）と家族成熟期（85.0%）で8割台半ばと多くなっている。（図2-6-13）

⑤洗濯の際、まとめて洗ったり、残り湯を使う

◇《している》が8割近く

図2-6-14 ⑤洗濯の際、まとめて洗ったり、残り湯を使う—性別・年齢別

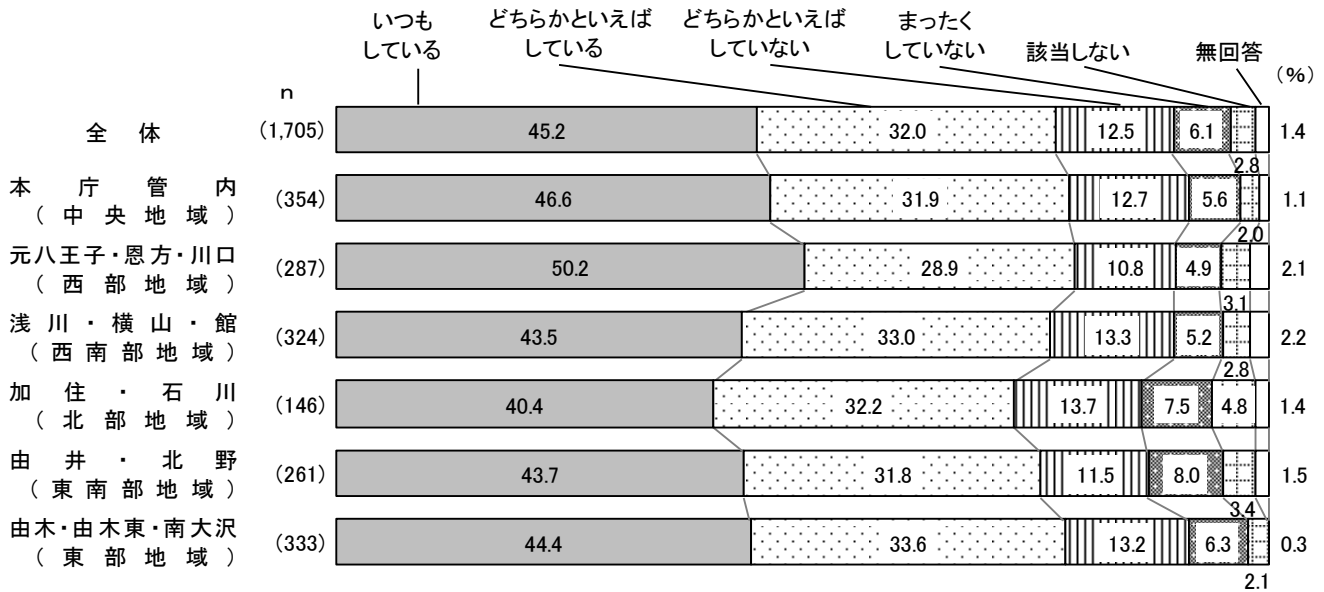


洗濯の際、まとめて洗ったり、残り湯を使うことについて、《している》（77.2%）が8割近くとなっている。

性別にみると、「いつもしている」は女性の方が男性よりも10.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《している》は50歳～59歳（81.5%）で8割強と多くなっている。「いつもしている」は65歳以上（49.1%）で5割弱と、他の年代と比較して多くなっている。（図2-6-14）

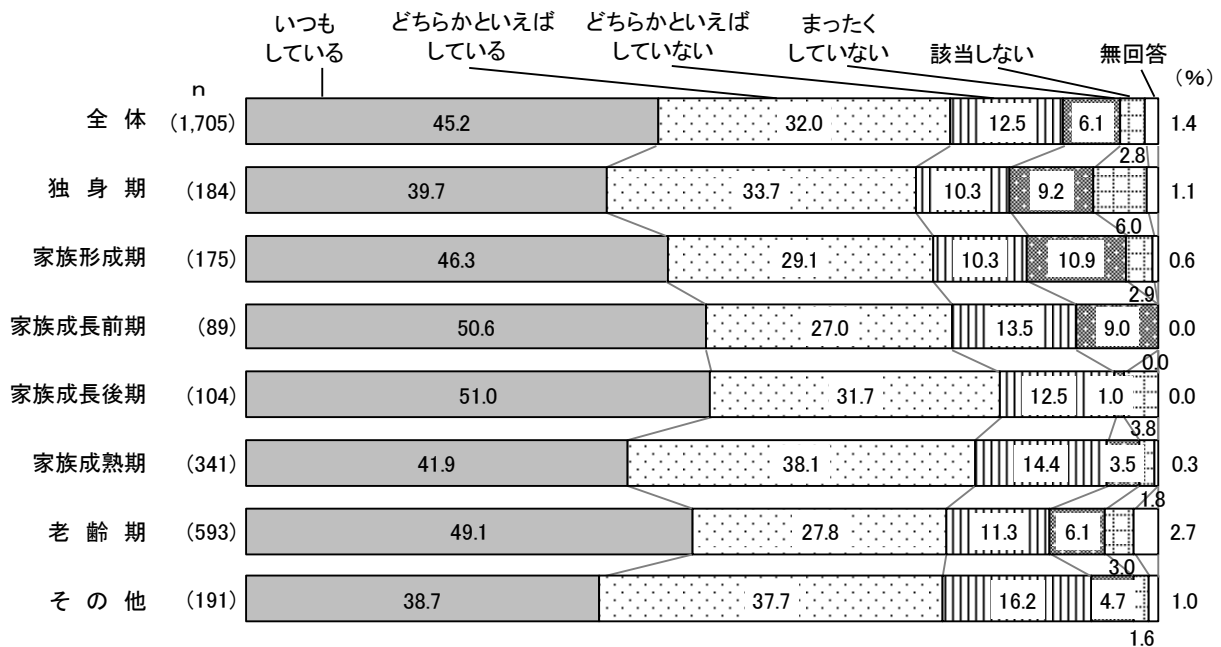
図 2-6-15 ⑤洗濯の際、まとめて洗ったり、残り湯を使うー居住地域別



居住地域別にみると、「《している》」はすべての地域において7割以上と多くなっている。「いつもしている」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（50.2%）で約5割と多くなっている。

(図 2-6-15)

図 2-6-16 ⑤洗濯の際、まとめて洗ったり、残り湯を使うーライフステージ別

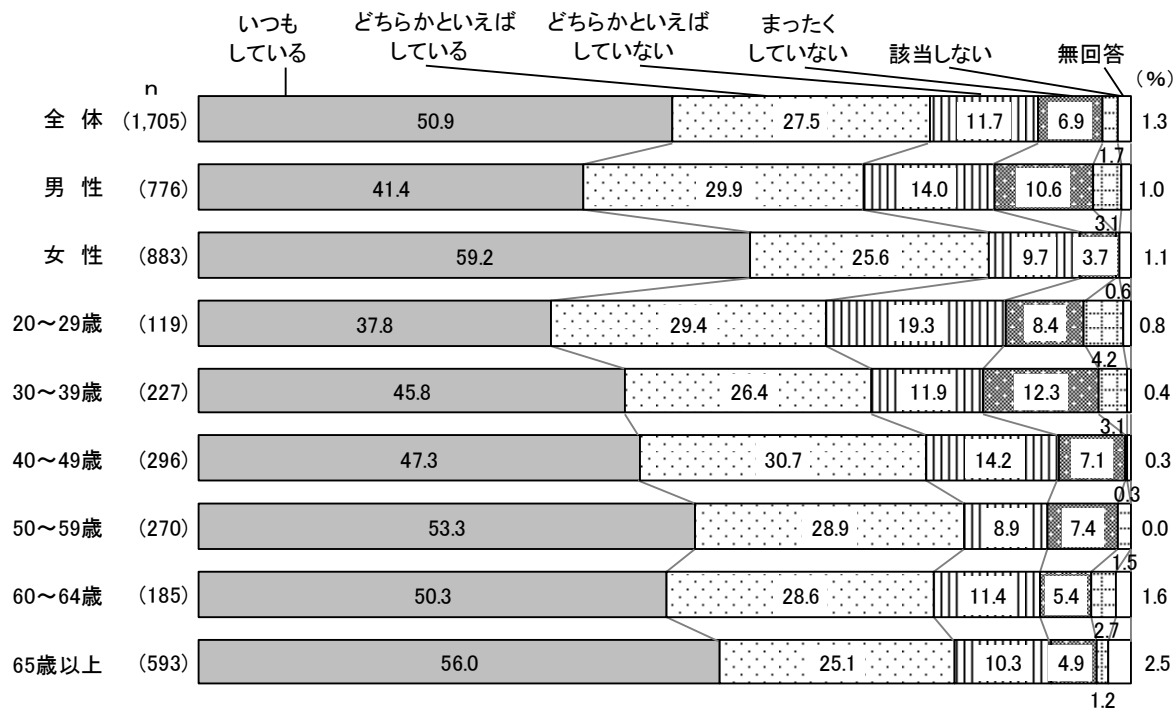


ライフステージ別にみると、「いつもしている」は家族成長前期（50.6%）と家族成長後期（51.0%）で5割以上と多くなっている。（図 2-6-16）

⑥買い物袋（マイバッグ）を持参する

◇《している》が8割近く

図2-6-17 ⑥買い物袋を持参する一性別・年齢別

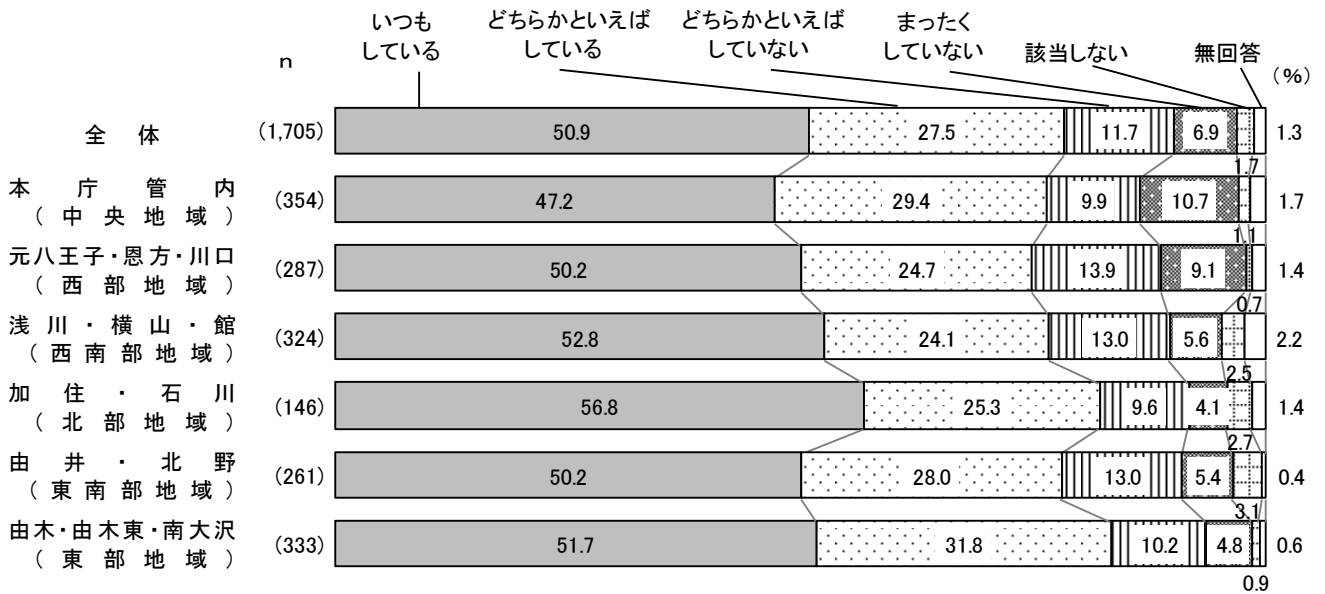


買い物袋（マイバッグ）を持参することについて、《している》（78.4%）が8割近くとなっている。

性別にみると、《している》は女性の方が男性よりも13.5ポイント高くなっている。

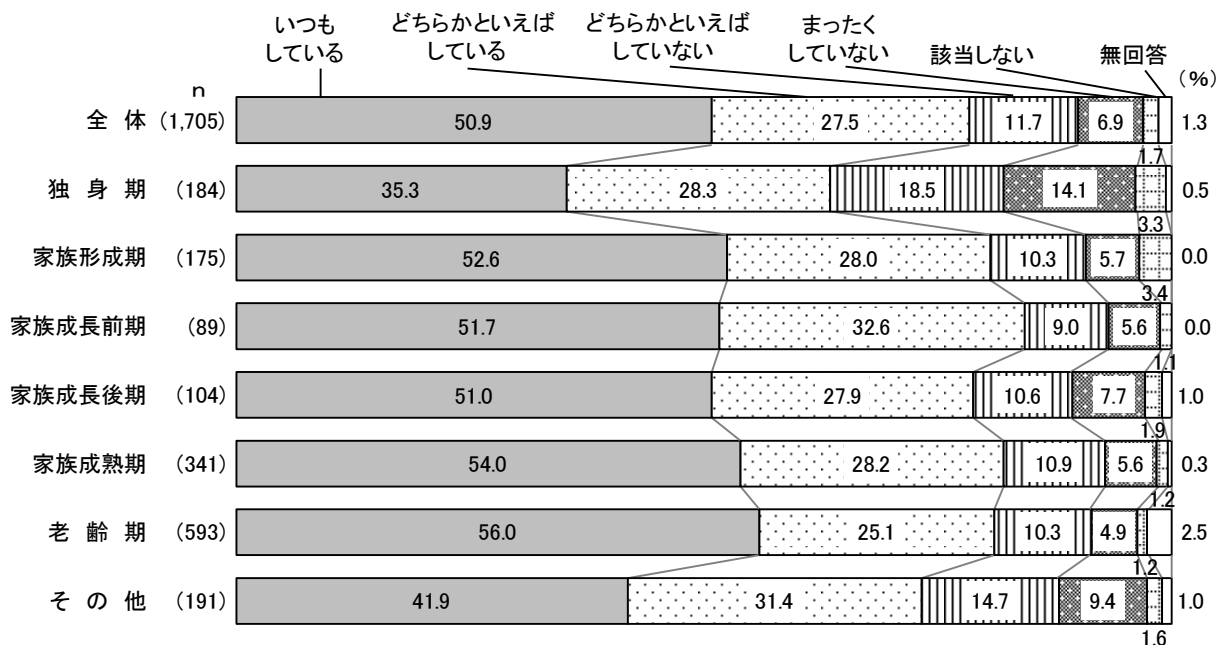
年齢別にみると、《している》は50～59歳（82.2%）と65歳以上（81.1%）で8割強と、他の年代と比較して多くなっている。一方、《していない》は20～29歳（27.7%）で3割近くを占めている。（図2-6-17）

図2-6-18 ⑥買い物袋を持参する－居住地域別



居住地域別にみると、「いつもしている」は本庁管内（中央地域）を除くすべての地域において5割以上と多くなっている。《している》は加住・石川（北部地域）（82.1%）と由木・由木東・南大沢（東部地域）（83.5%）で8割強と多くなっている。（図2-6-18）

図2-6-19 ⑥買い物袋を持参する－ライフステージ別

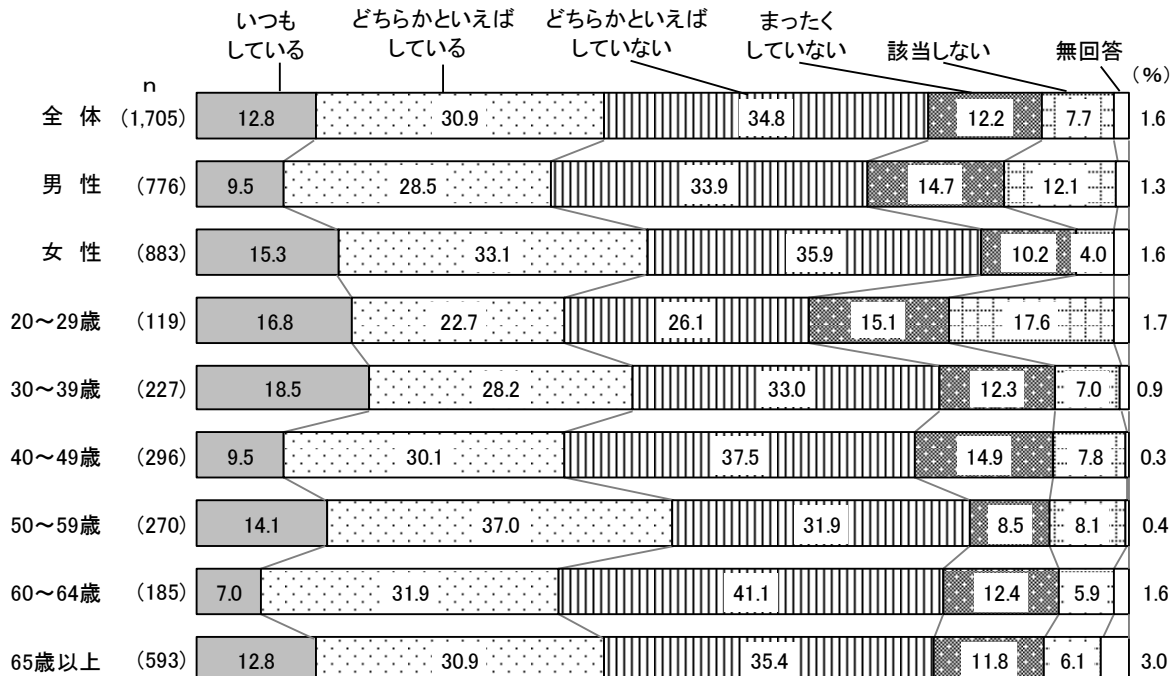


ライフステージ別にみると、《している》は家族形成期（80.6%）、家族成長前期（84.3%）、家族成熟期（82.2%）及び老齢期（81.1%）で8割以上を占めている。（図2-6-19）

⑦料理の下ごしらは電子レンジを活用する

◇《している》が4割強

図 2-6-20 ⑦料理の下ごしらは電子レンジを活用する－性別・年齢別

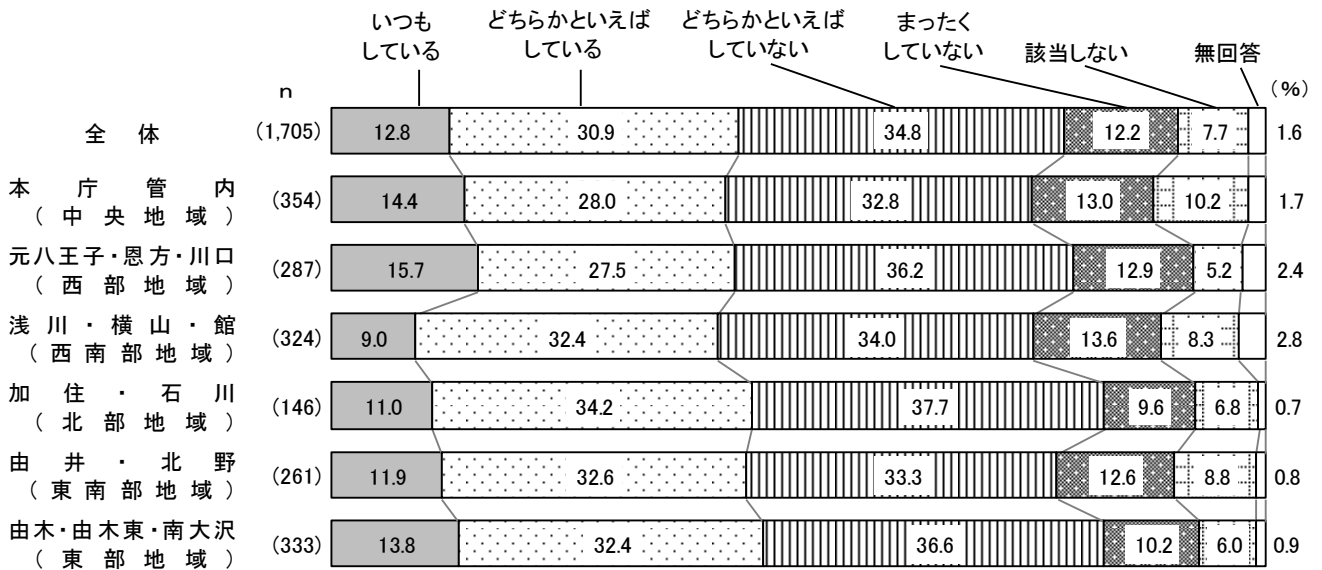


料理の下ごしらは電子レンジを活用することについて、《している》（43.7%）が4割強となっている。

性別にみると、《している》は女性の方が男性よりも10.4ポイント高くなっている。

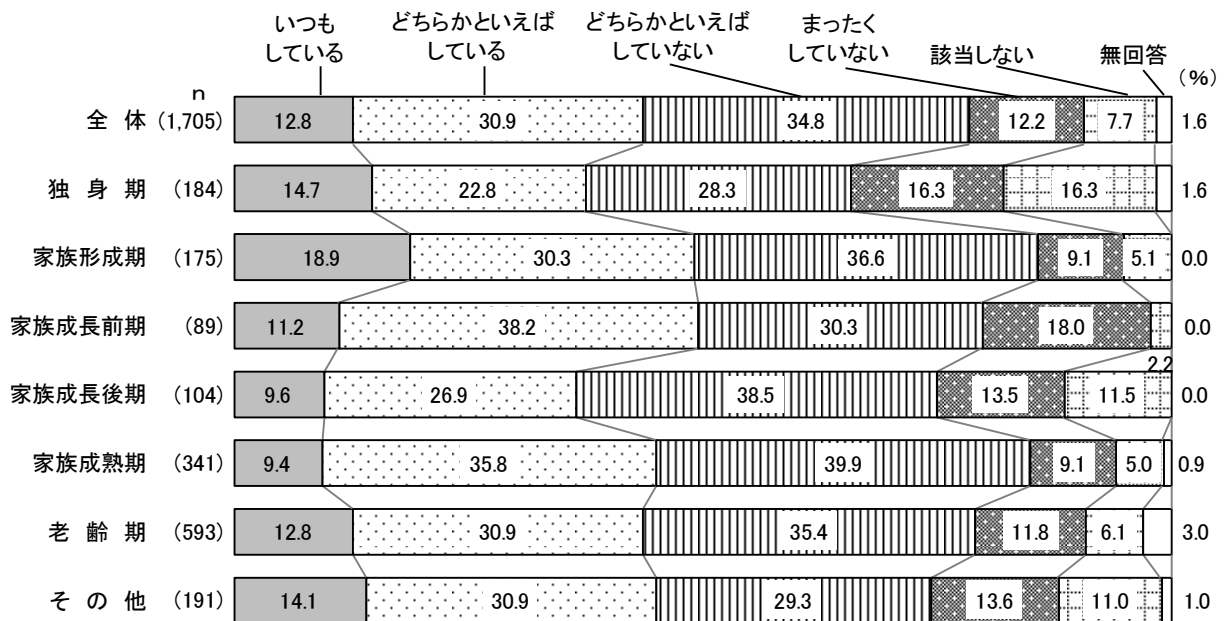
年齢別にみると、《している》は50～59歳（51.1%）で5割強と、他の年代と比較して多くなっている。一方、《していない》は40～49歳（52.4%）と60歳～64歳（53.5%）で5割強と多くなっている。（図 2-6-20）

図2-6-21 ⑦料理の下ごしらは電子レンジを活用する－居住地域別



居住地域別にみると、「していない」はすべての地域においてわずかに「している」を上回っている。特に、浅川・横山・館（西南部地域）では「していない」（47.6%）は「している」（41.4%）よりも6.2ポイント上回っている。（図2-6-21）

図2-6-22 ⑦料理の下ごしらは電子レンジを活用する－ライフステージ別

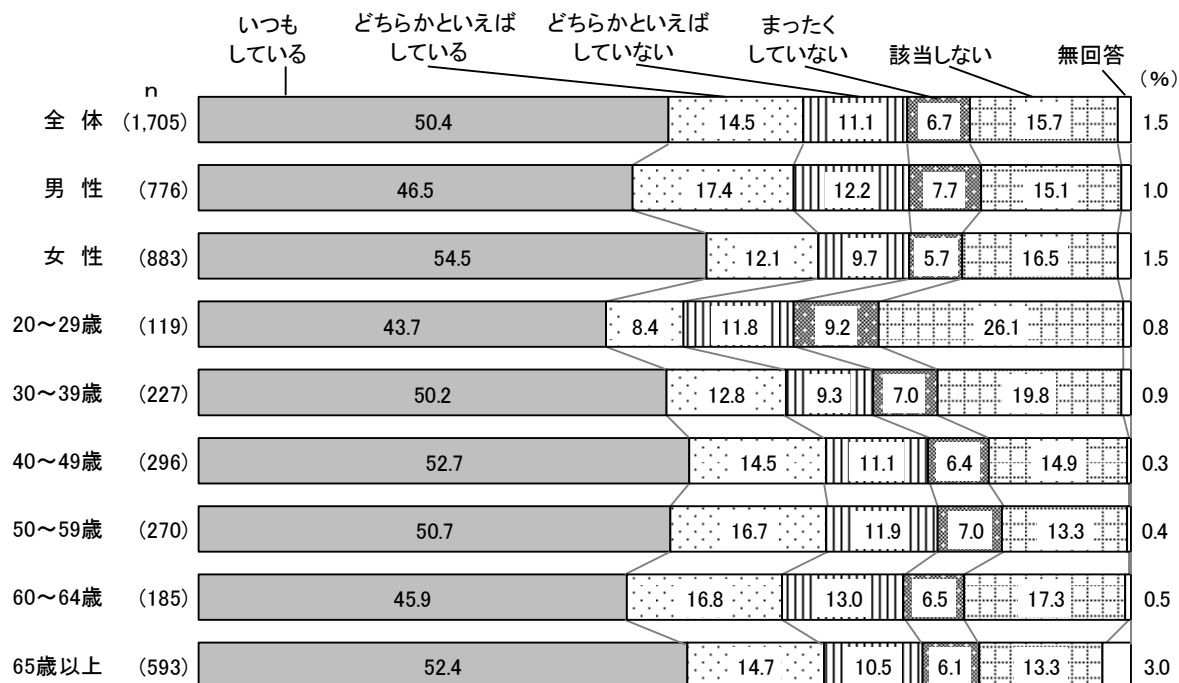


ライフステージ別にみると、「している」は家族形成期（49.2%）と家族成長前期（49.4%）で5割弱と多くなっている。（図2-6-22）

⑧温水洗浄便座を使わないときはふたを閉める

◇《している》が6割台半ば

図2-6-23 ⑧温水洗浄便座を使わないときはふたを閉める—性別・年齢別

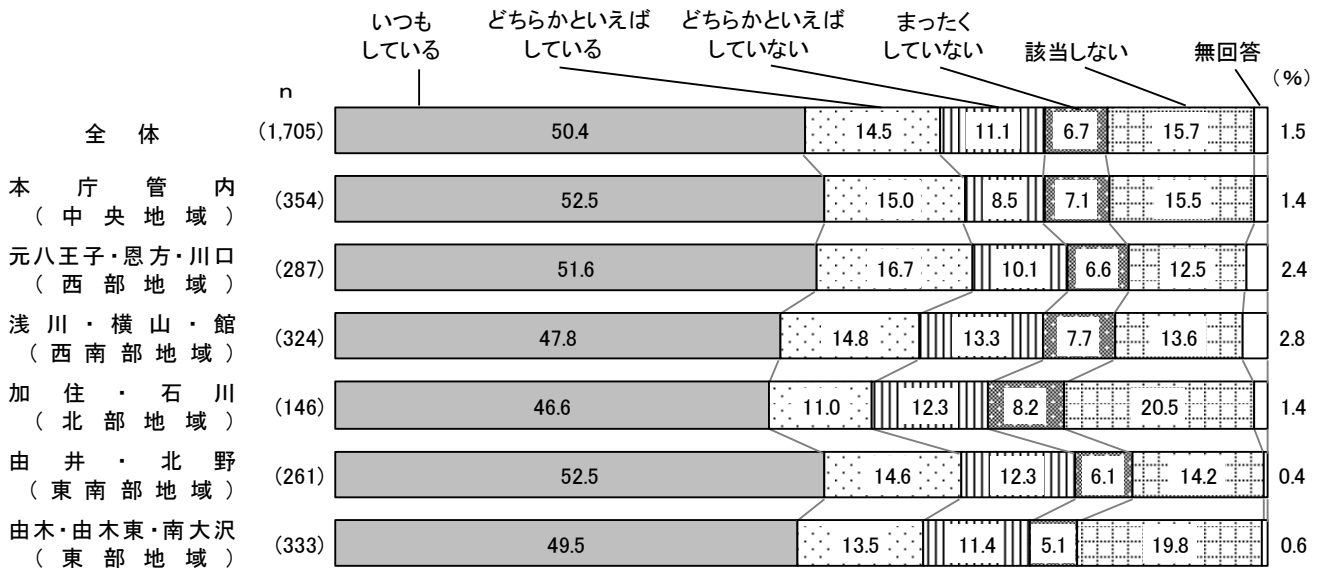


温水洗浄便座を使わないときはふたを閉めることについて、《している》（64.9%）が6割台半ばとなっている。

性別にみると、「いつもしている」は女性の方が男性よりも8.0ポイント高くなっている。

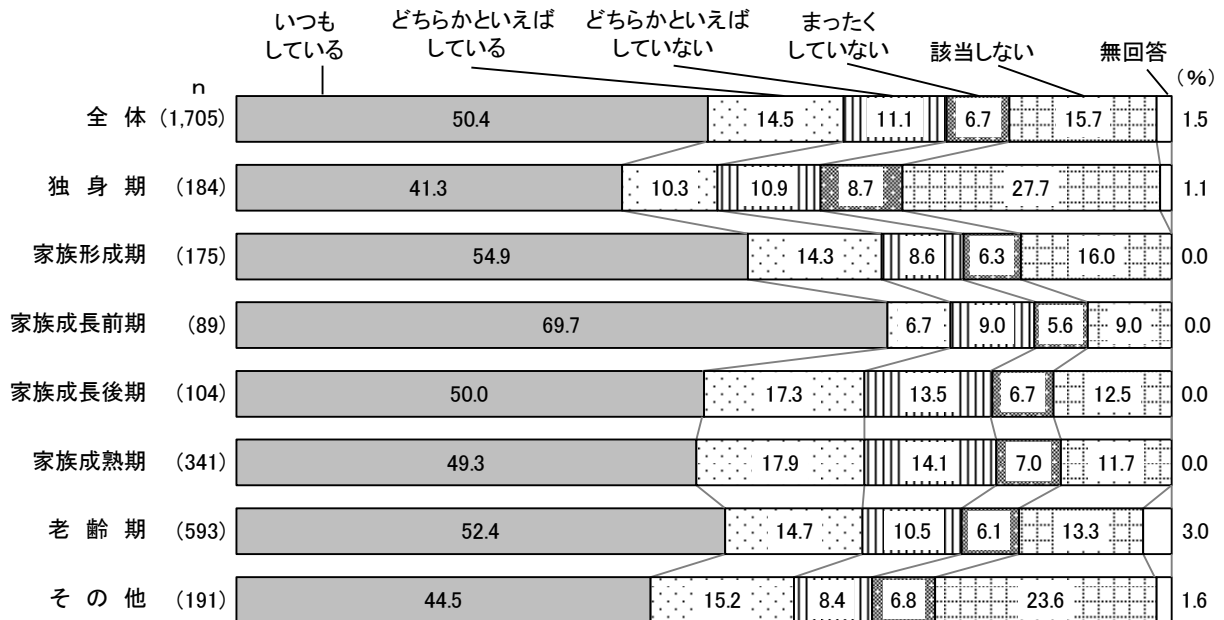
年齢別にみると、《している》は20～29歳を除くすべての年代において6割以上と多くなっている。特に、「いつもしている」は40～49歳（52.7%）と65歳以上（52.4%）で5割強と、他の年代と比較して多くなっている。（図2-6-23）

図 2-6-24 ⑧温水洗浄便座を使わないときはふたを閉める－居住地域別



居住地域別にみると、「している」は加住・石川（北部地域）（57.6%）を除く地域で6割以上と多くなっている。（図 2-6-24）

図 2-6-25 ⑧温水洗浄便座を使わないときはふたを閉める－ライフステージ別

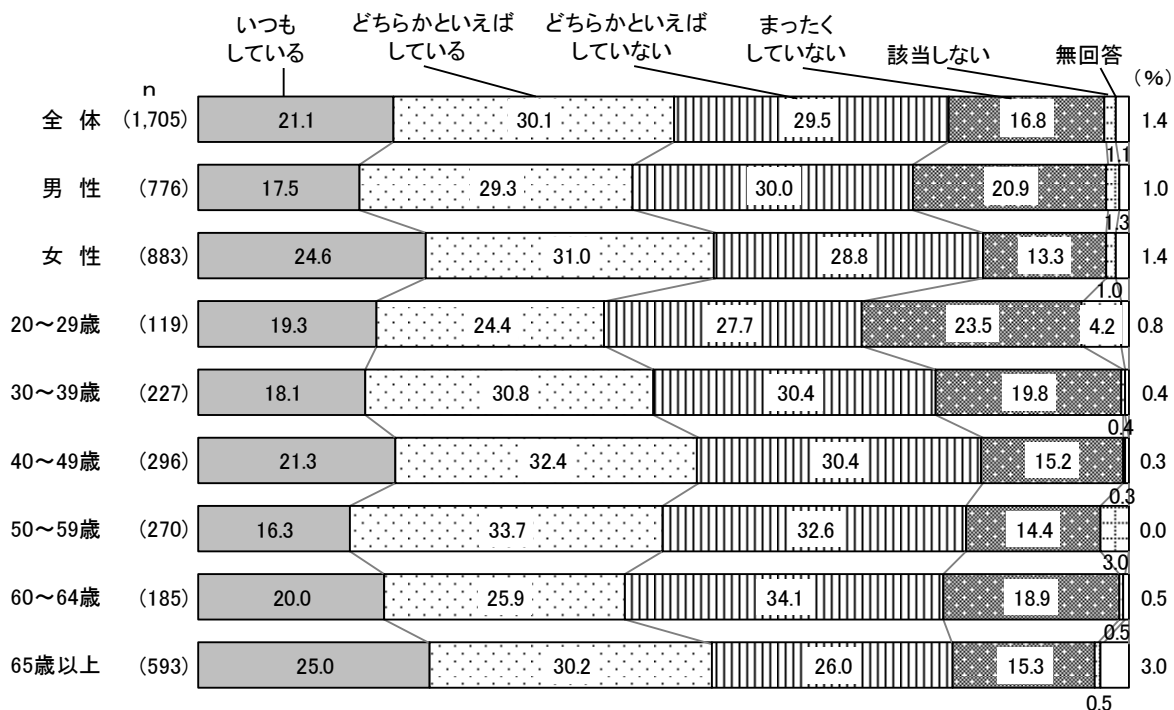


ライフステージ別にみると、「している」は家族成長前期（76.4%）で8割近くと、他のライフステージと比較して多くなっている。（図 2-6-25）

⑨家電を使わないときはコンセントからプラグを抜く

◇《している》が5割強

図2-6-26 ⑨家電を使わないときはコンセントからプラグを抜く－性別・年齢別

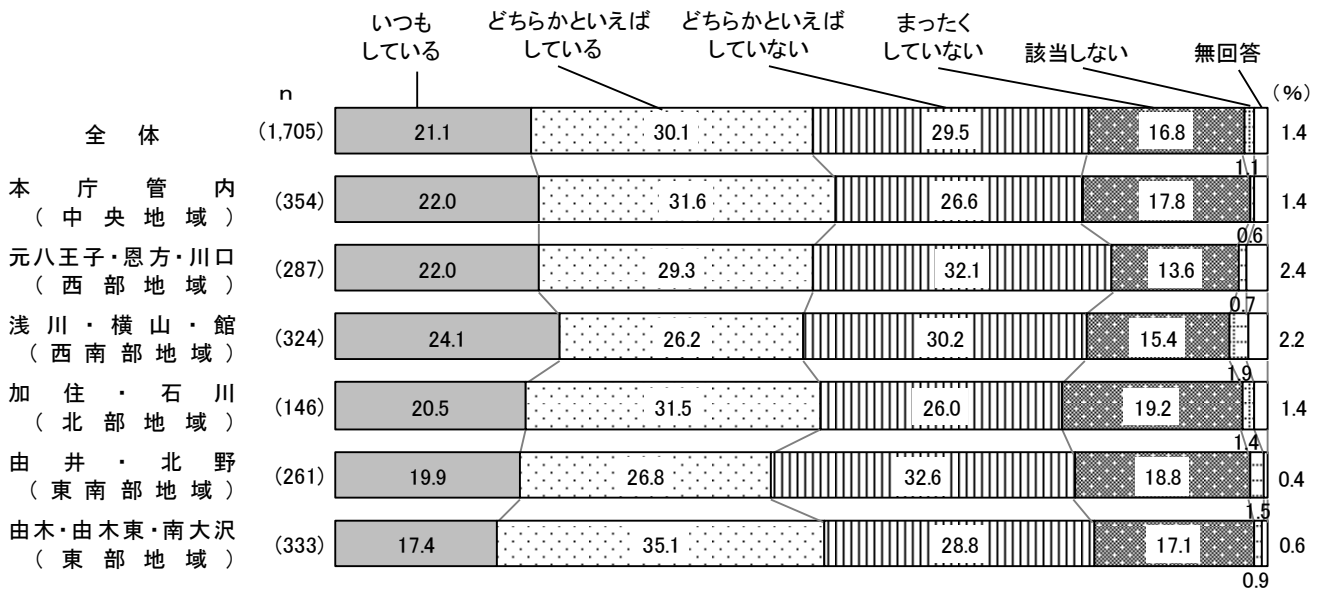


家電を使わないときはコンセントからプラグを抜くことについて、《している》(51.2%)が5割強となっている。

性別にみると、《している》は女性の方が男性よりも8.8ポイント高くなっている。

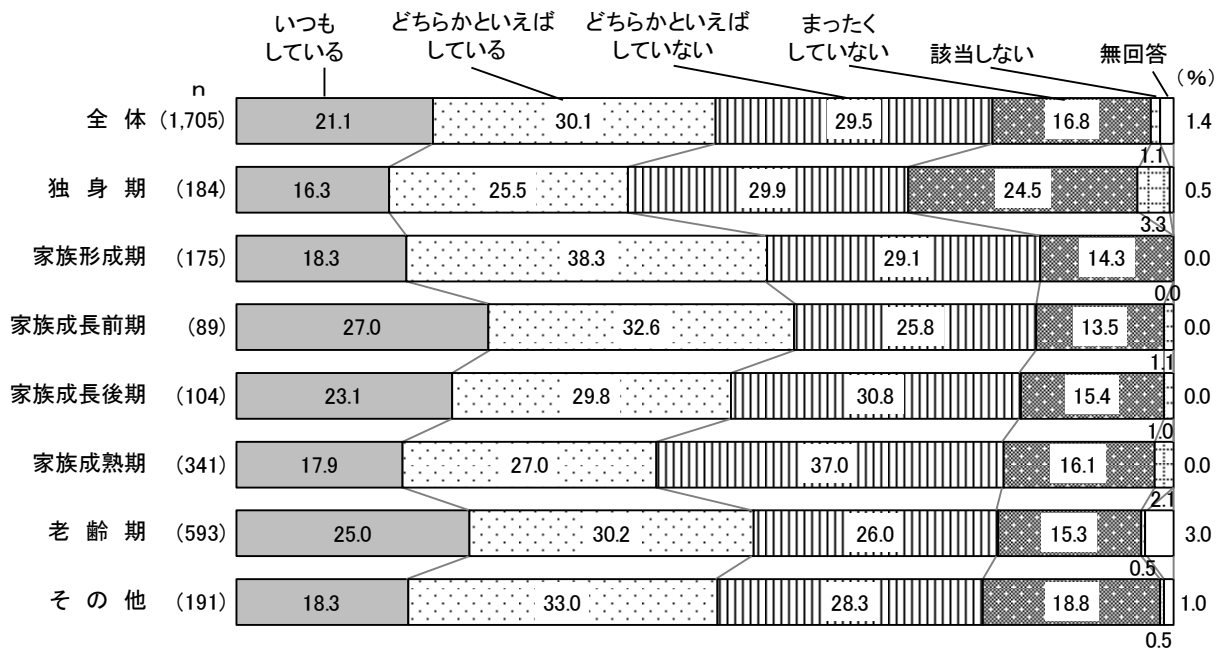
年齢別にみると、《している》は40～49歳(53.7%)、50～59歳(50.0%)及び65歳以上(55.2%)で5割以上と多くなっている。一方、《していない》は20～29歳(51.2%)、30～39歳(50.2%)及び60～64歳(53.0%)で5割以上と多くなっている。(図2-6-26)

図 2-6-27 ⑨家電を使わないときはコンセントからプラグを抜く－居住地域別



居住地域別にみると、「《している》」は由井・北野（東南部地域）を除くすべての地域において5割以上と多くなっている。（図 2-6-27）

図 2-6-28 ⑨家電を使わないときはコンセントからプラグを抜く－ライフステージ別

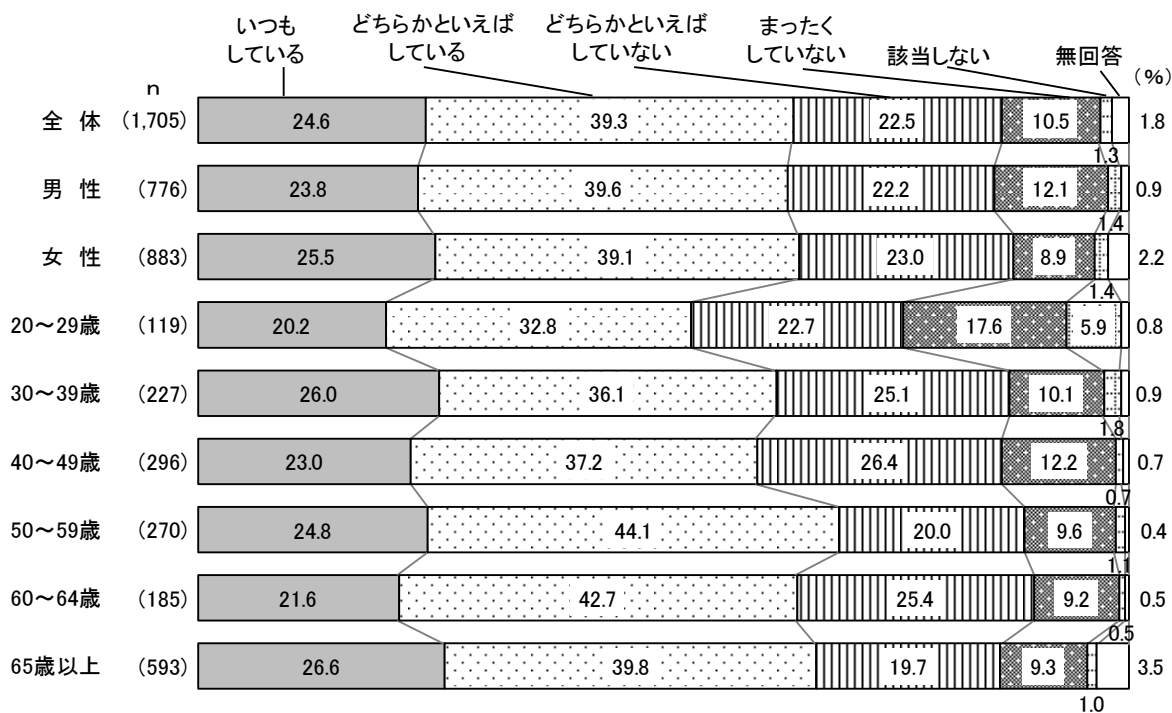


ライフステージ別にみると、「《している》」は家族形成期（56.6%）、家族成長前期（59.6%）、家族成長後期（52.9%）及び老齡期（55.2%）で5割以上と多くなっている。（図 2-6-28）

⑩省エネ型の蛍光灯や電球型蛍光ランプに替える

◇《している》が6割強

図2-6-29 ⑩省エネ型の蛍光灯や電球型蛍光ランプに替える－性別・年齢別

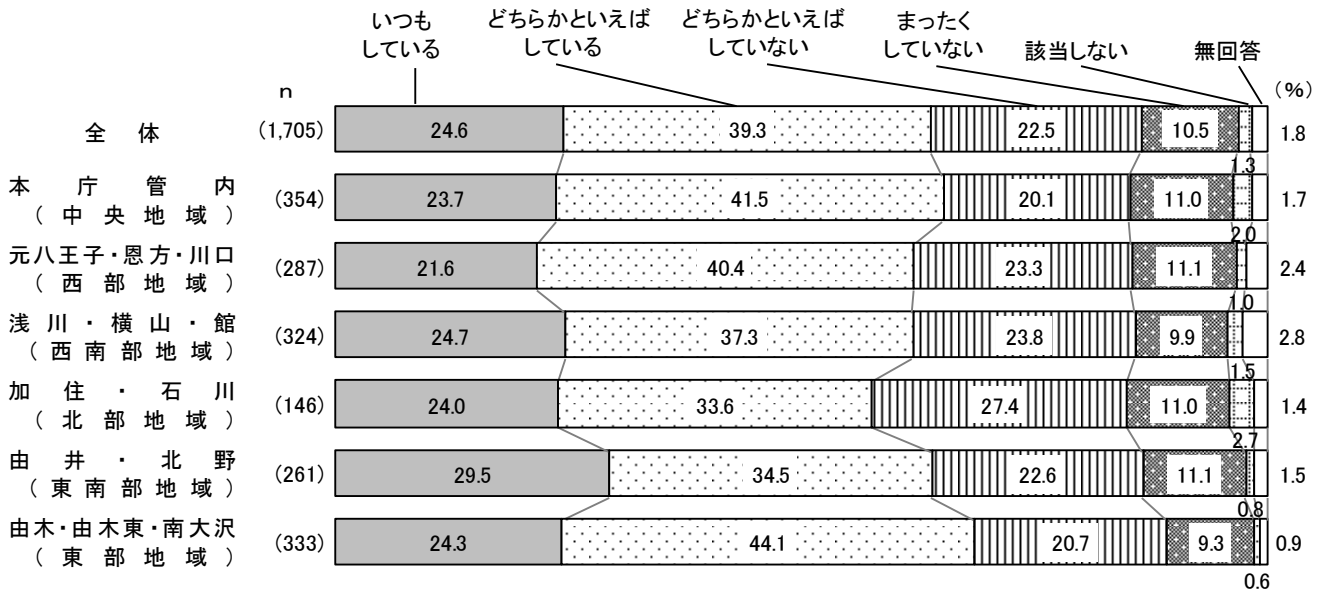


省エネ型の蛍光灯や電球型蛍光ランプに替えることについて、《している》（63.9%）が6割強となっている。

性別にみると、男性と女性で大きな差はみられない。

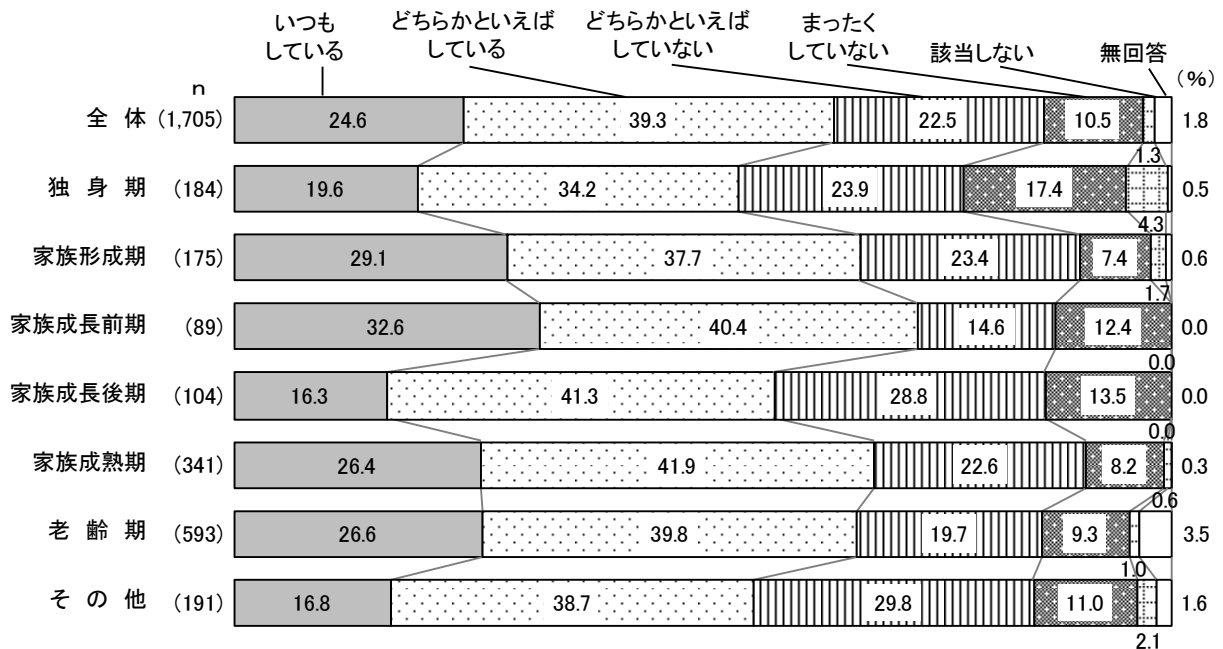
年齢別にみると、《している》は20～29歳を除くすべての年代において6割以上と多くっている。特に、50歳～59歳（68.9%）では7割近くを占めている。（図2-6-29）

図 2-6-30 ⑩省エネ型の蛍光灯や電球型蛍光ランプに替える－居住地域別



居住地域別にみると、「している」は加住・石川（北部地域）を除くすべての地域において6割以上と多くなっている。（図 2-6-30）

図 2-6-31 ⑩省エネ型の蛍光灯や電球型蛍光ランプに替える－ライフステージ別

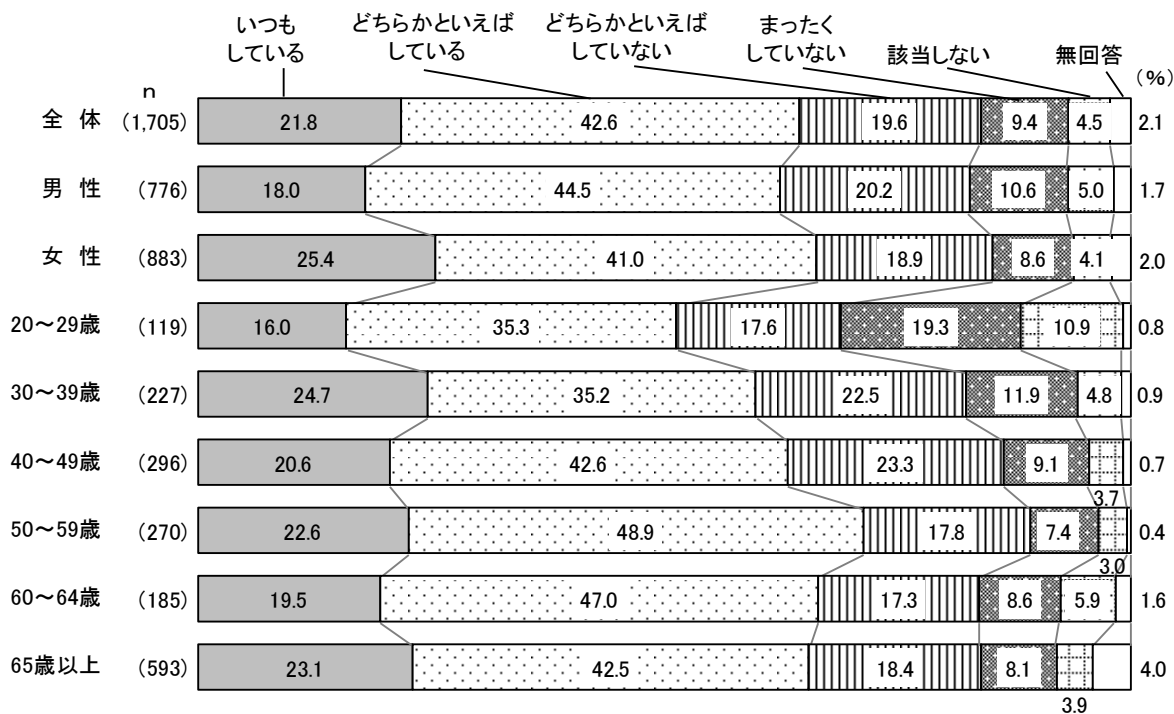


ライフステージ別にみると、「している」は家族成長前期（73.0%）で7割強と、他のライフステージと比較して多くなっている。（図 2-6-31）

⑪省エネ型の家電（エアコン・洗濯機・冷蔵庫など）を購入する

◇《している》が6割台半ば

図2-6-32 ⑪省エネ型の家電を購入する一性別・年齢別

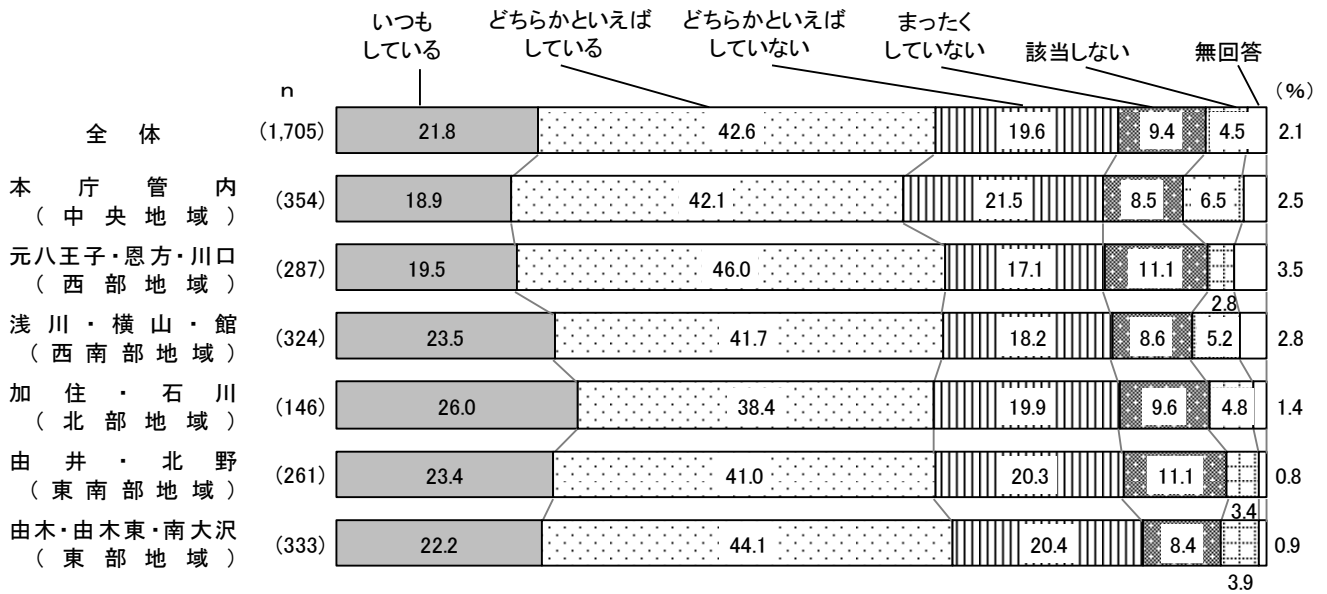


省エネ型の家電（エアコン・洗濯機・冷蔵庫など）を購入することについて、《している》（64.4%）が6割台半ばとなっている。

性別にみると、「いつもしている」は女性の方が男性よりも7.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《している》は50～59歳（71.5%）で7割強と、他の年代と比較して多くなっている。（図2-6-32）

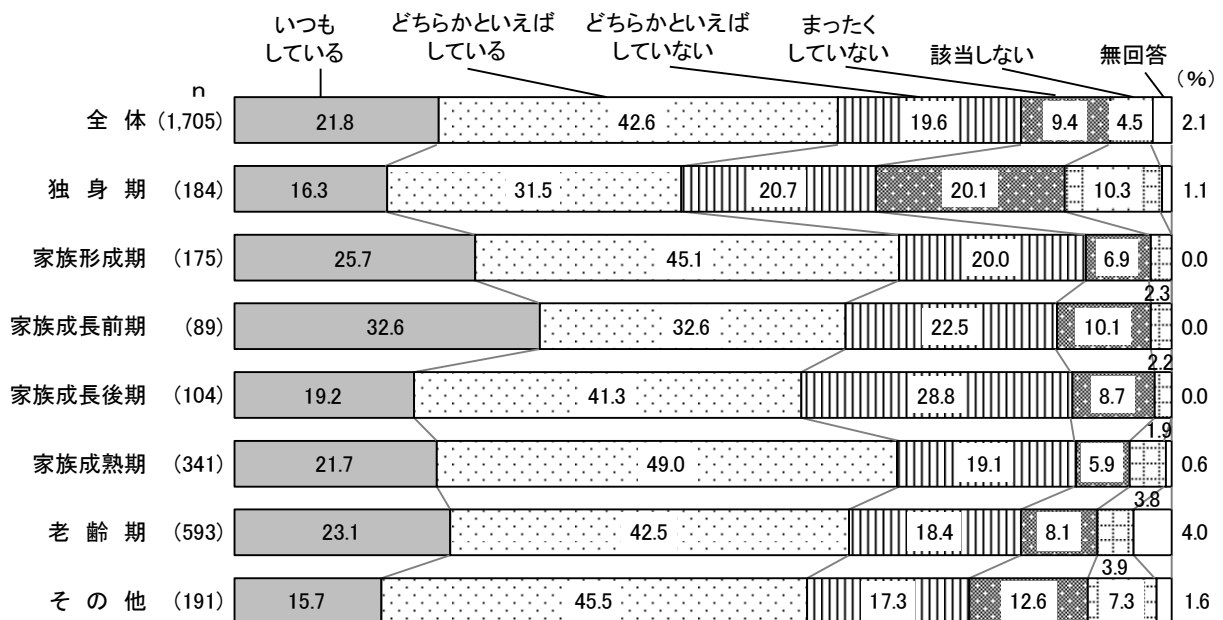
図 2-6-33 ⑪省エネ型の家電を購入する－居住地域別



居住地域別にみると、「している」はすべての地域において6割以上を占めている。

(図 2-6-33)

図 2-6-34 ⑪省エネ型の家電を購入する－ライフステージ別

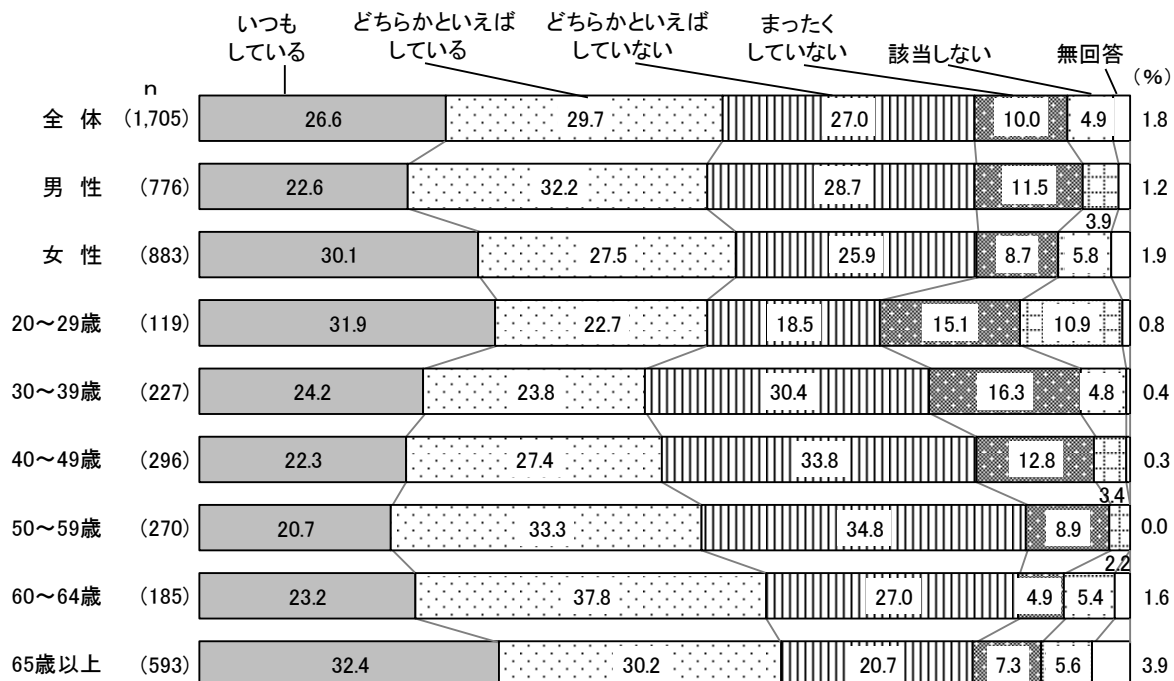


ライフステージ別にみると、「している」は家族形成期 (70.8%) と家族成熟期 (70.7%) で約7割と多くなっている。また、「いつもしている」は家族成長前期 (32.6%) で3割強と、他のライフステージと比較して多くなっている。(図 2-6-34)

⑫車の使用を控え、自転車、電車、バスを利用する

◇《している》が6割近く

図2-6-35 ⑫自転車、電車、バスを利用する—性別・年齢別

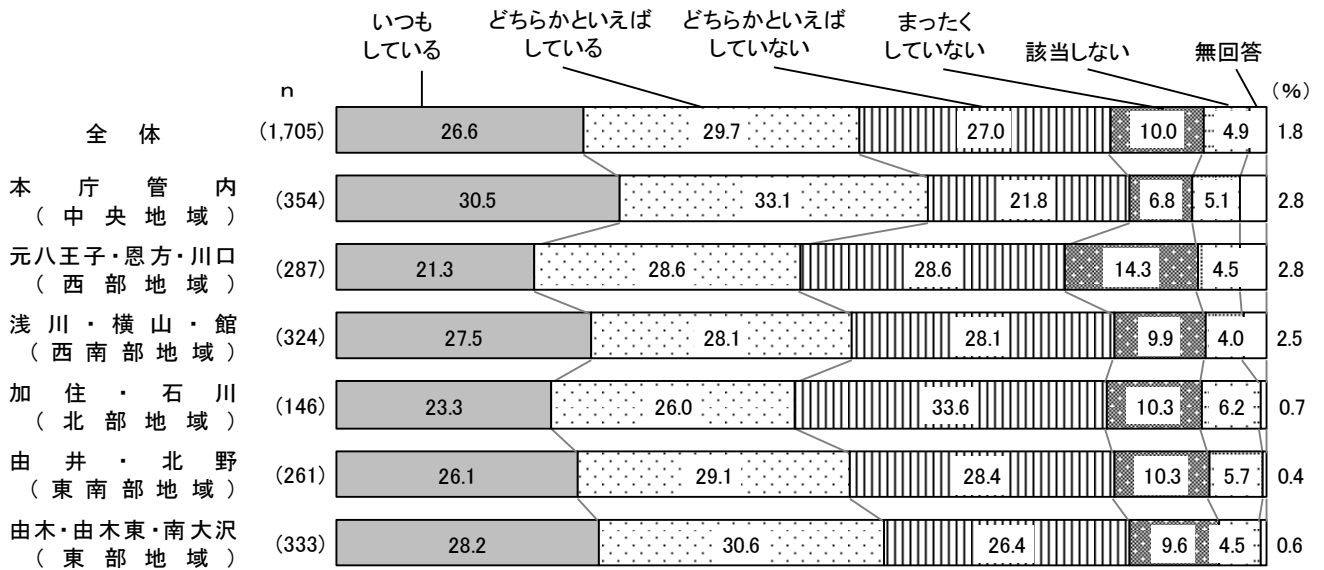


車の使用を控え、自転車、電車、バスを利用することについて、《している》（56.3%）が6割近くとなっている。

性別にみると、「いつもしている」は女性の方が男性よりも7.5ポイント高くなっている。

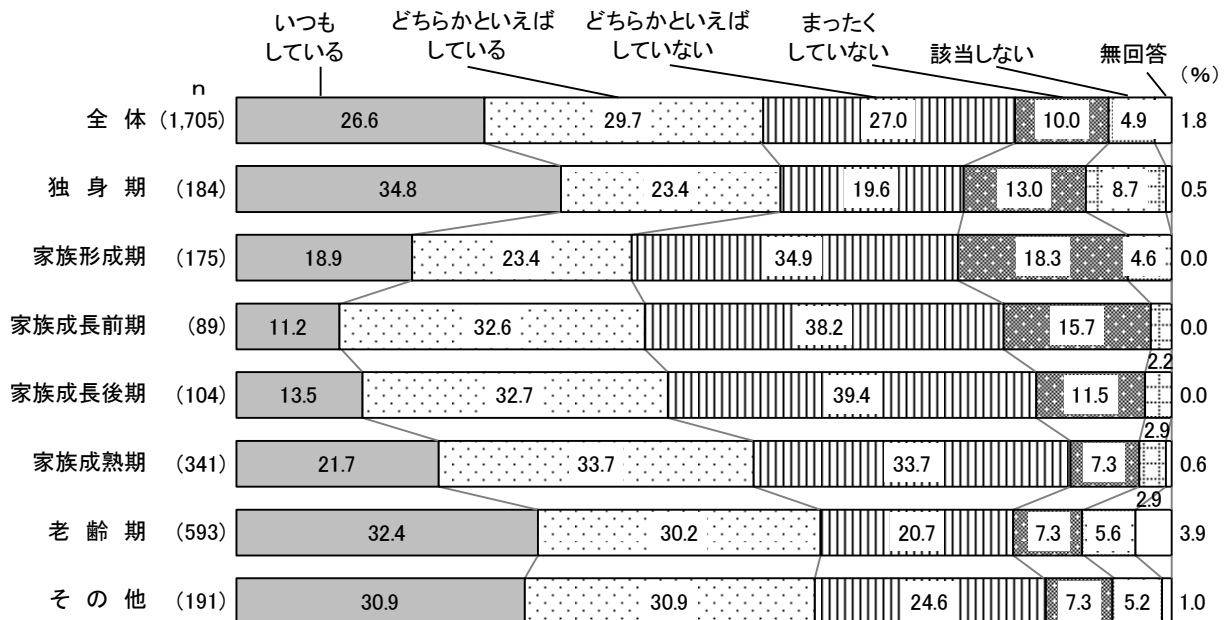
年齢別にみると、《している》は60~64歳（61.0%）と65歳以上（62.6%）で6割強と、他の年代と比較して多くなっている。（図2-6-35）

図2-6-36 ⑫自転車、電車、バスを利用する—居住地域別



居住地域別にみると、「《している》」は本庁管内（中央地域）（63.6%）で6割強と多くなっている。一方、「どちらかといえばしていない」は加住・石川（北部地域）（33.6%）で3割強と多くなっている。（図2-6-36）

図2-6-37 ⑫自転車、電車、バスを利用する—ライフステージ別

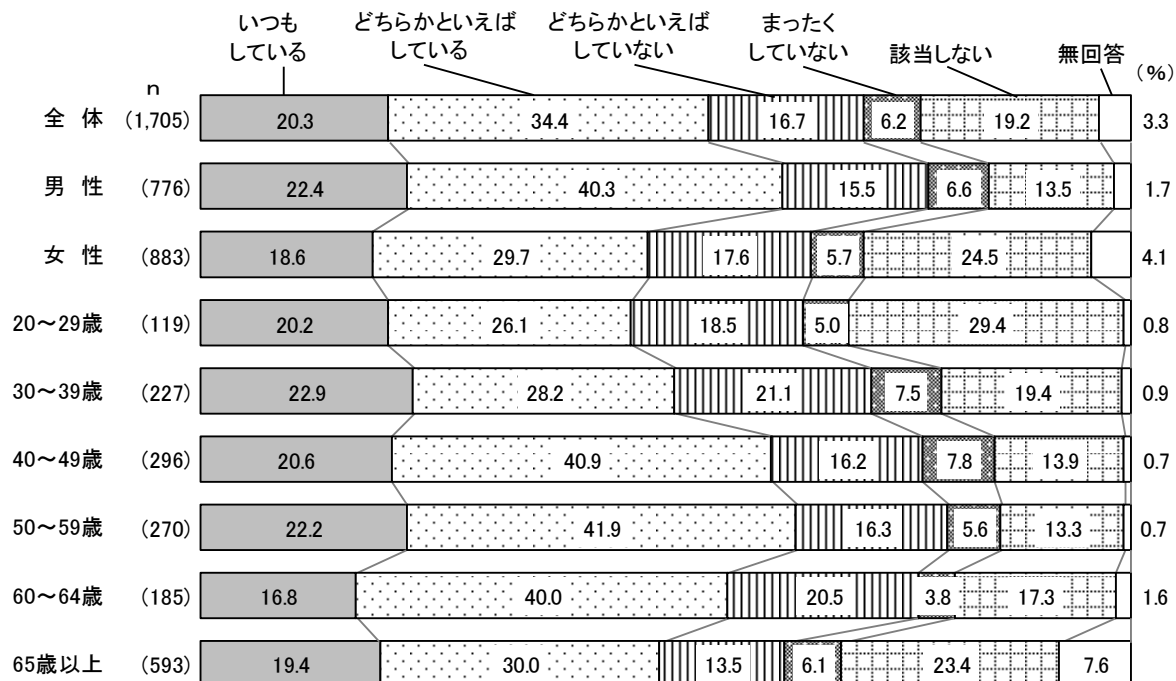


ライフステージ別にみると、「《している》」は老齢期（62.6%）で6割強と多くなっている。また、「いつもしている」は独身期（34.8%）で3割台半ばと多くなっている。（図2-6-37）

⑬エコドライブをする

◇《している》が5割台半ば

図 2-6-38 ⑬エコドライブをする－性別・年齢別

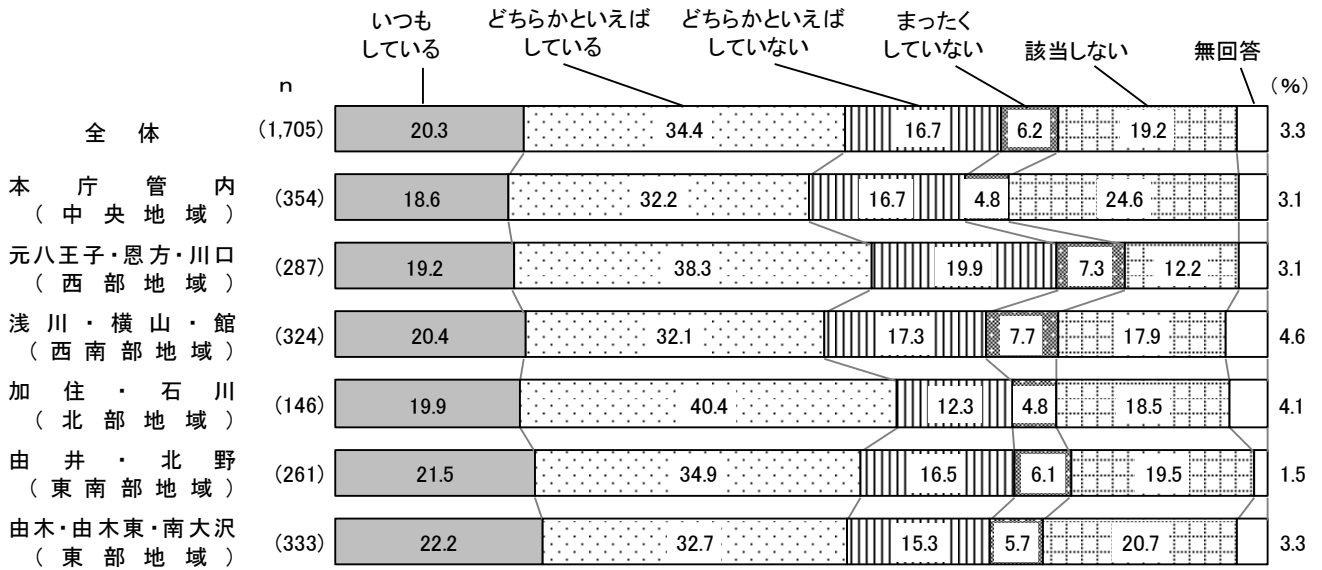


エコドライブをすることについて、《している》（54.7%）が5割台半ばとなっている。

性別にみると、《している》は男性の方が女性よりも14.4ポイント高くなっている。

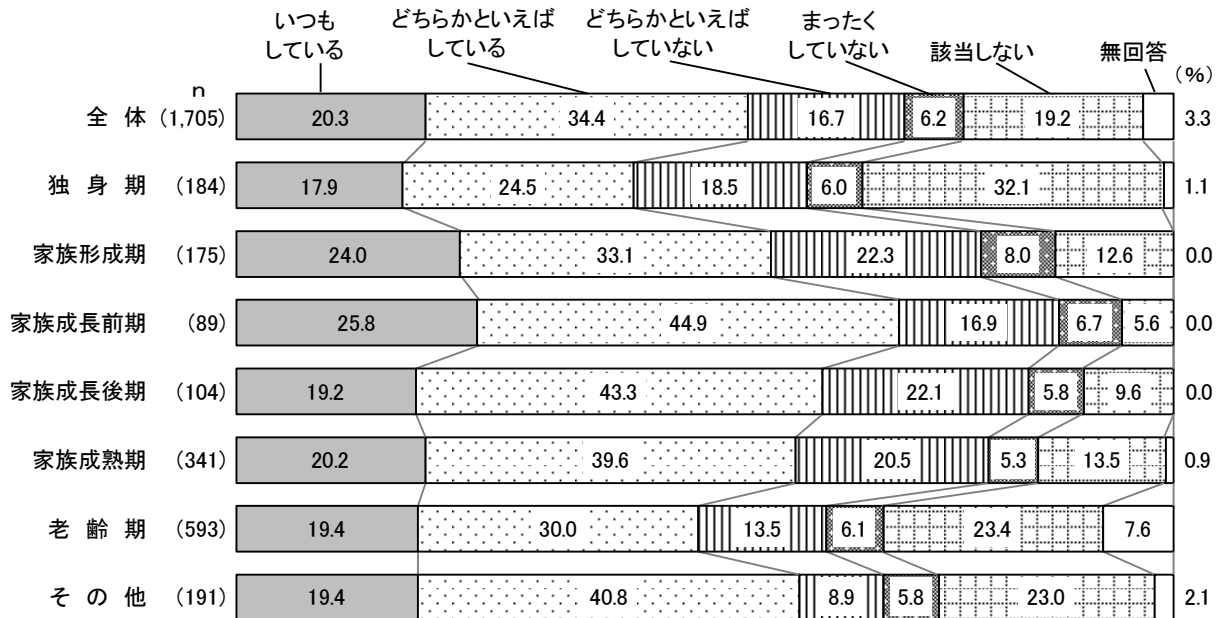
年齢別にみると、《している》は40～49歳（61.5%）と50歳～59歳（64.1%）で6割以上と多くなっている。（図 2-6-38）

図 2-6-39 ⑬エコドライブをする－居住地域別



居住地域別にみると、「している」は加住・石川（北部地域）（60.3%）で約6割と、他の地域と比較して多くなっている。（図 2-6-39）

図 2-6-40 ⑬エコドライブをする－ライフステージ別

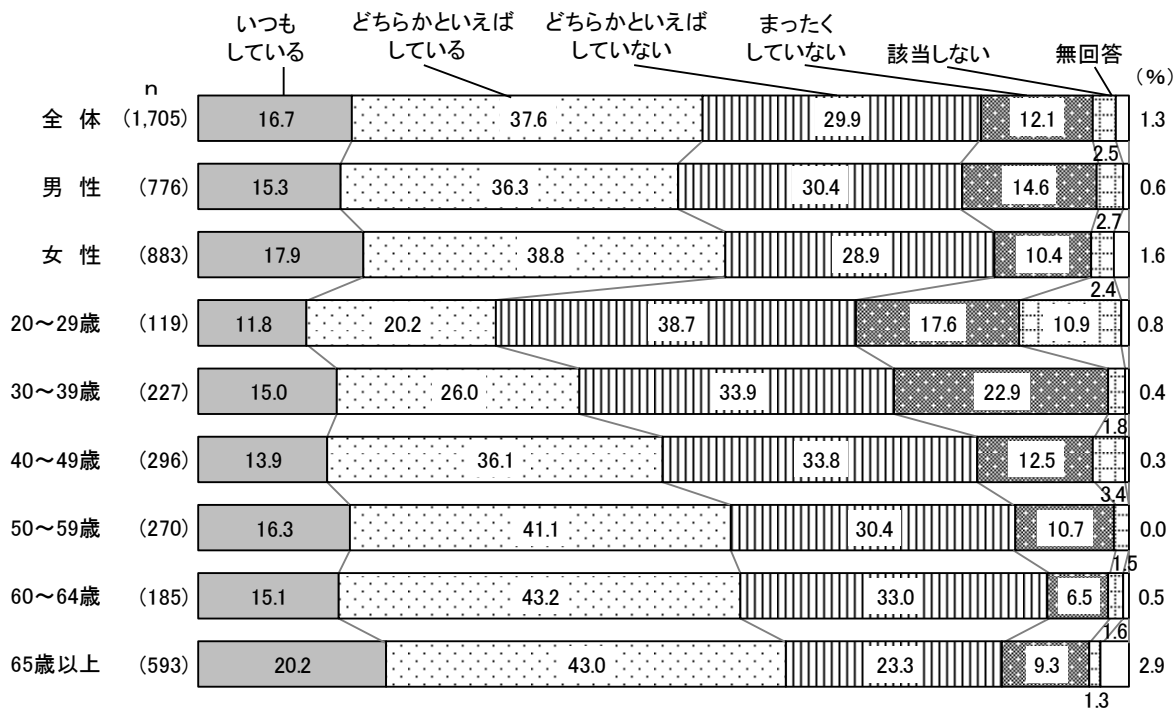


ライフステージ別にみると、「している」は家族成長前期（70.7%）で約7割と、他のライフステージと比較して多くなっている。一方、「該当しない」は独身期（32.1%）で3割強と多くなっている。（図 2-6-40）

⑭毎月の電気やガスの消費量をチェックして、省エネ活動に取り組む

◇《している》が5割台半ば

図2-6-41 ⑭省エネ活動に取り組む—性別・年齢別

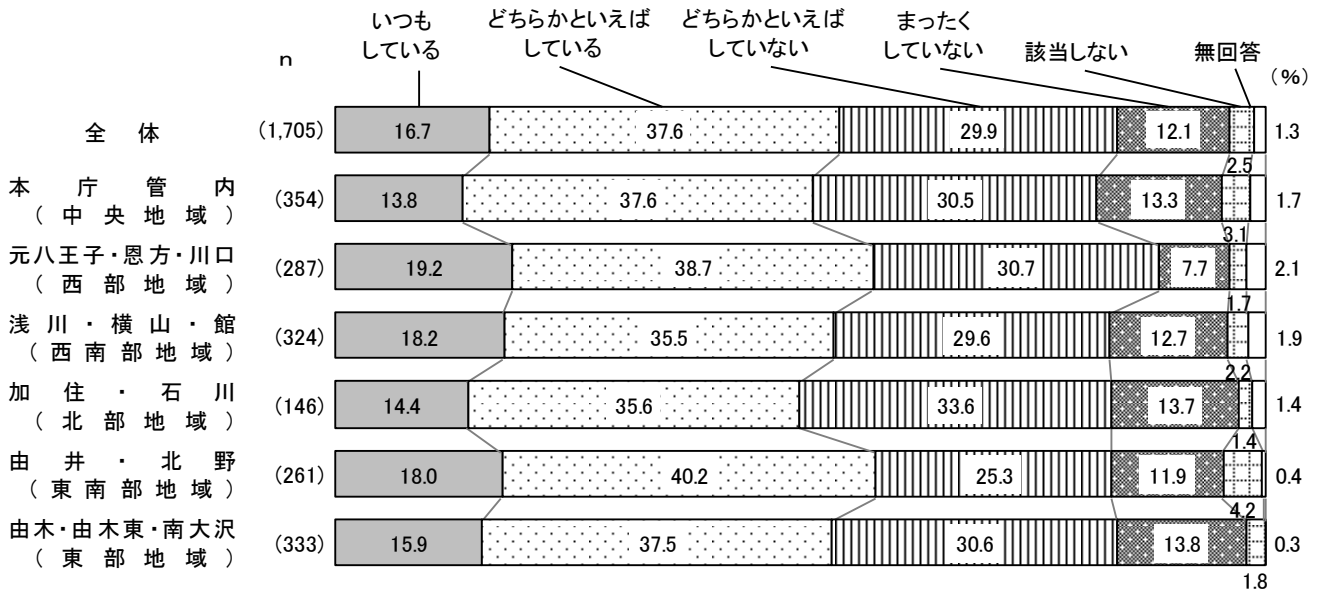


毎月の電気やガスの消費量をチェックして省エネ活動に取り組むことについて、《している》(54.3%)が5割台半ばとなっている。

性別にみると、《している》は女性の方が男性よりも5.1ポイント高くなっている。

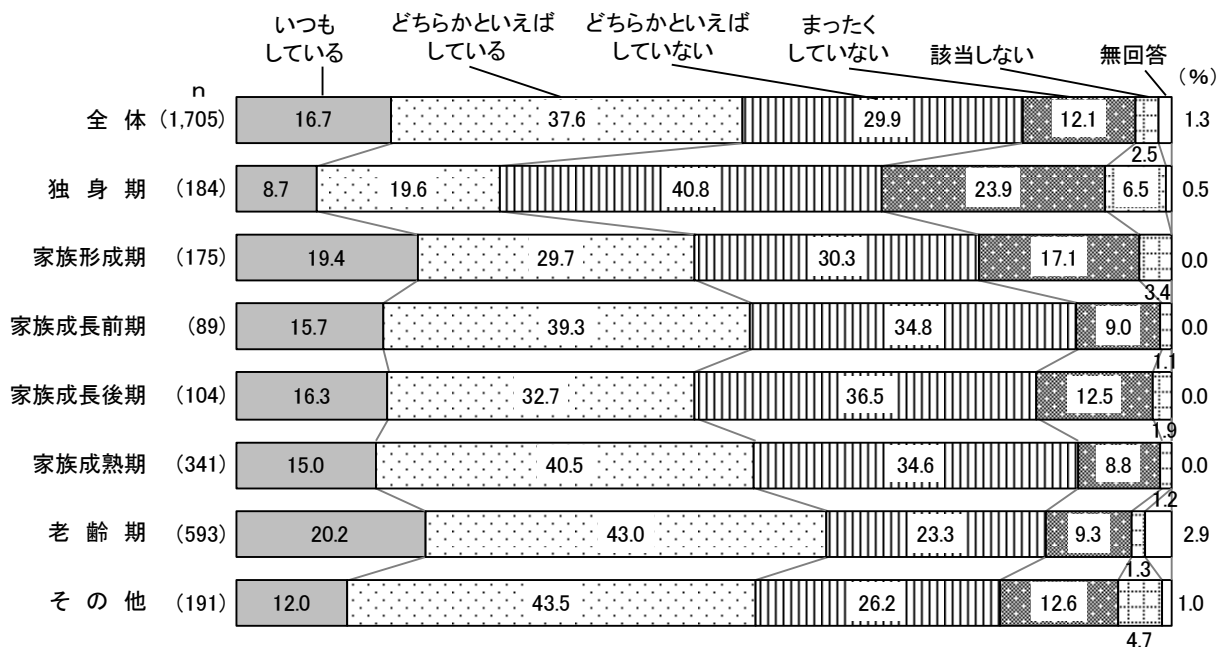
年齢別にみると、《している》は年代が上がるにつれて割合が多くなり、65歳以上(63.2%)では6割強となっている。(図2-6-41)

図 2-6-42 ⑭省エネ活動に取り組む—居住地域別



居住地域別にみると、「している」はすべての地域において5割以上と多くなっている。特に、元八王子・恩方・川口（西部地域）（57.9%）と由井・北野（東南部地域）（58.2%）では6割近くを占めている。（図 2-6-42）

図 2-6-43 ⑭省エネ活動に取り組む—ライフステージ別



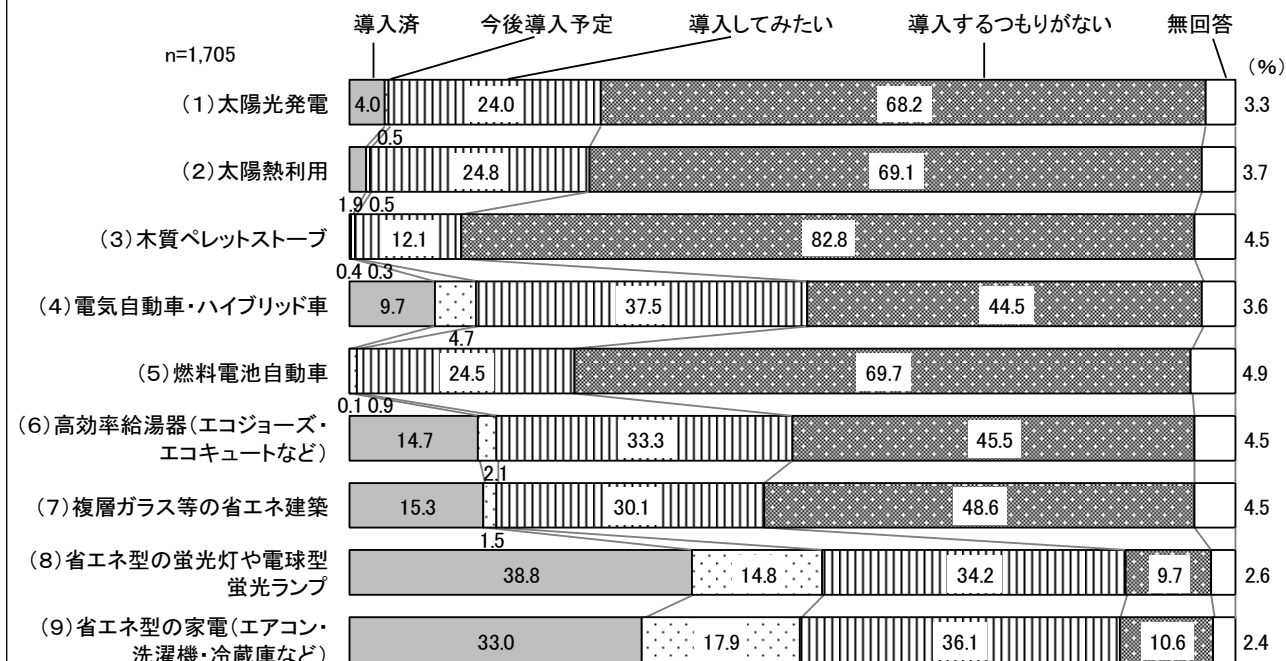
ライフステージ別にみると、「している」は老齢期（63.2%）で6割強を占めている。一方、「していない」は独身期（64.7%）で6割台半ばと、他のライフステージと比較して多くなっている。（図 2-6-43）

(7) 省エネルギー・再生可能エネルギーを考慮した設備

◇「導入済」は「省エネ型の蛍光灯や電球型蛍光ランプ」で4割近く

問10 あなたのご家庭では省エネルギーや再生可能エネルギーを考慮した設備を利用していますか。(1)～(9)の各項目それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)
「導入するつもりがない」場合はその理由をア～カから選び番号をお答えください。

図2-7-1 省エネルギー・再生可能エネルギーを考慮した設備－全体



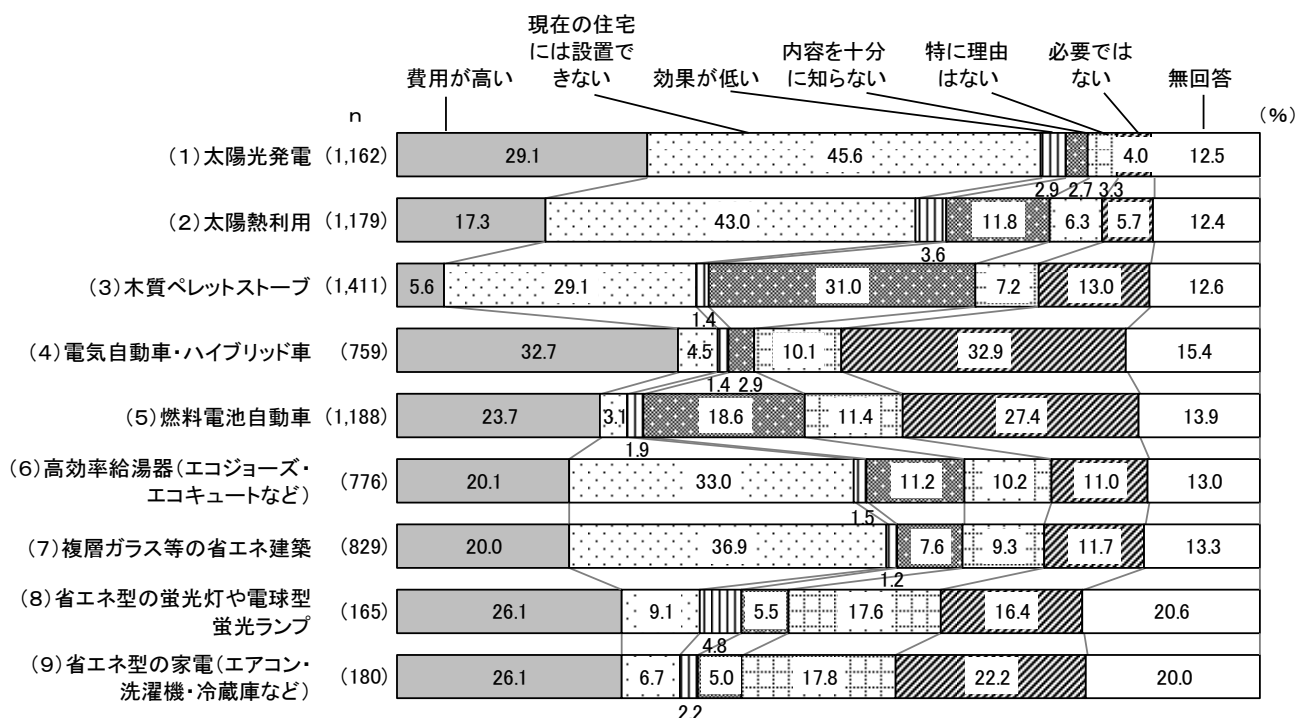
家庭において省エネルギーや再生可能エネルギーを考慮した設備を利用しているか聞いたところ、「導入済」は「省エネ型の蛍光灯や電球型蛍光ランプ」(38.8%)と「省エネ型の家電(エアコン・洗濯機・冷蔵庫など)」(33.0%)で3割以上と多くなっている。また、「導入してみたい」は「電気自動車・ハイブリッド車」(37.5%)と「省エネ型の家電(エアコン・洗濯機・冷蔵庫など)」(36.1%)で4割近くと多くなっている。

一方、「導入するつもりがない」は「木質ペレットストーブ」(82.8%)が8割強と最も多く、次いで「燃料電池自動車」(69.7%)、「太陽熱利用」(69.1%)となっている。(図2-7-1)

◇省エネ設備を導入出来ない理由について、「現在の住宅には設置できない」は「太陽光発電」で4割台半ば

問10 「導入するつもりがない」場合はその理由をア～カから選び番号をお答えください。
(○はそれぞれ1つ)

図2-7-2 設備を導入するつもりがない理由－全体



家庭において省エネルギーや再生可能エネルギーを考慮した設備を「導入するつもりがない」と回答した人に、その理由を聞いたところ、「現在の住宅に設置出来ない」は「太陽光発電」(45.6%)や「太陽熱利用」(43.0%)で4割以上と多くなっている。また、「費用が高い」は「電気自動車・ハイブリッド車」(32.7%)で、「必要ではない」も「電気自動車・ハイブリッド車」(32.9%)で3割強と多くなっている。

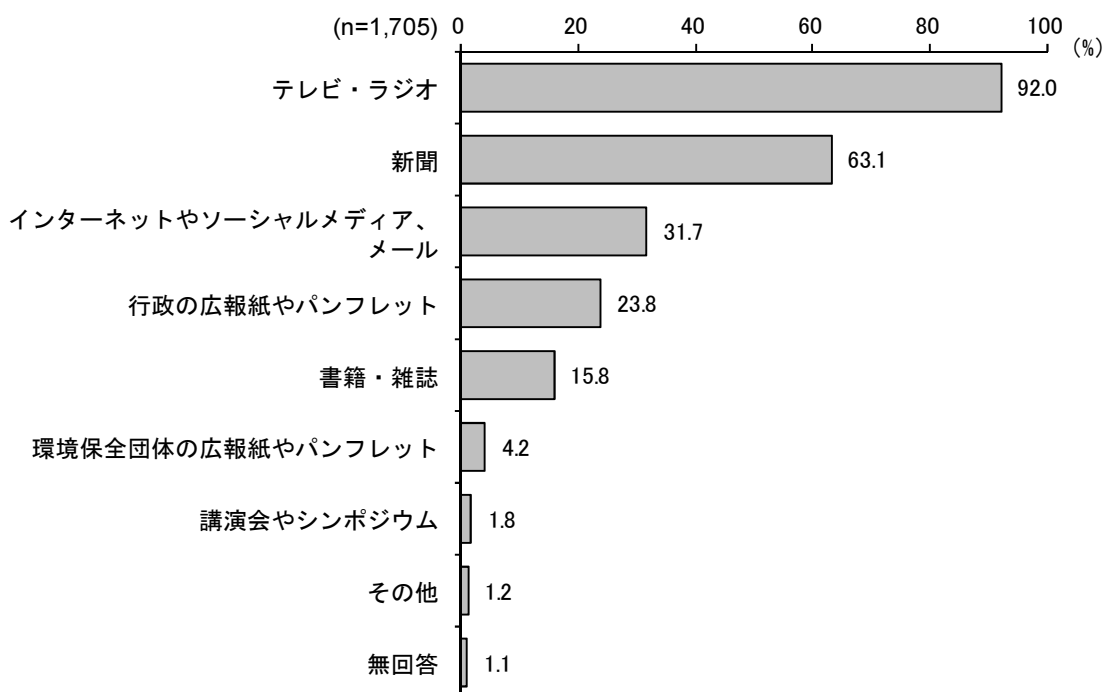
一方、「内容を十分に知らない」は「木質ペレットストーブ」(31.0%)で3割強と、他の項目と比較して多くなっている。(図2-7-2)

(8) 地球温暖化問題に関する情報の入手先

◇「テレビ・ラジオ」が9割強

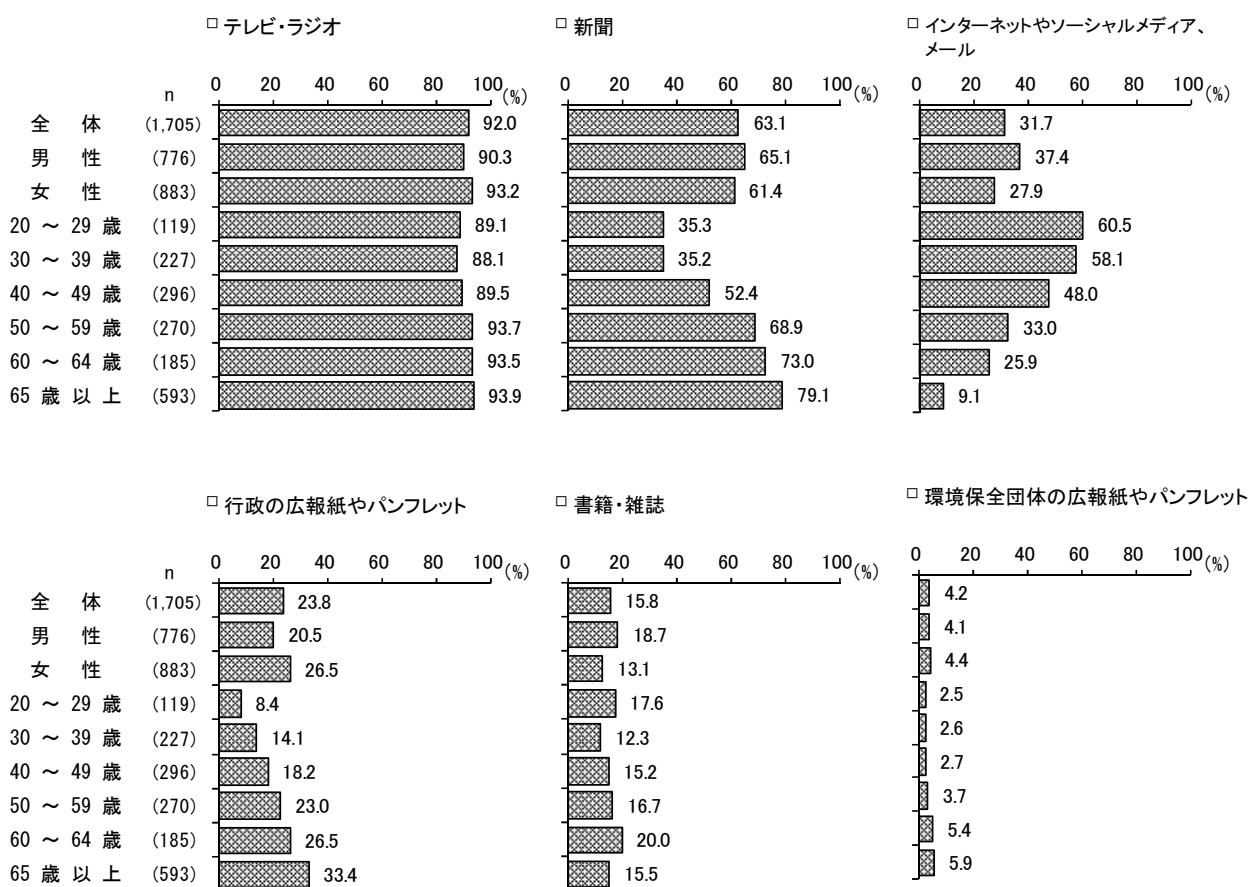
問11 あなたは、地球温暖化問題に関する情報をどこから入手していますか。(〇は3つまで)

図2-8-1 地球温暖化問題に関する情報の入手先-全体



地球温暖化問題に関する情報の入手手段を聞いたところ、「テレビ・ラジオ」(92.0%)が最も多く9割強となっている。次いで「新聞」(63.1%)、「インターネットやソーシャルメディア、メール」(31.7%)、「行政の広報紙やパンフレット」(23.8%)などの順となっている。(図2-8-1)

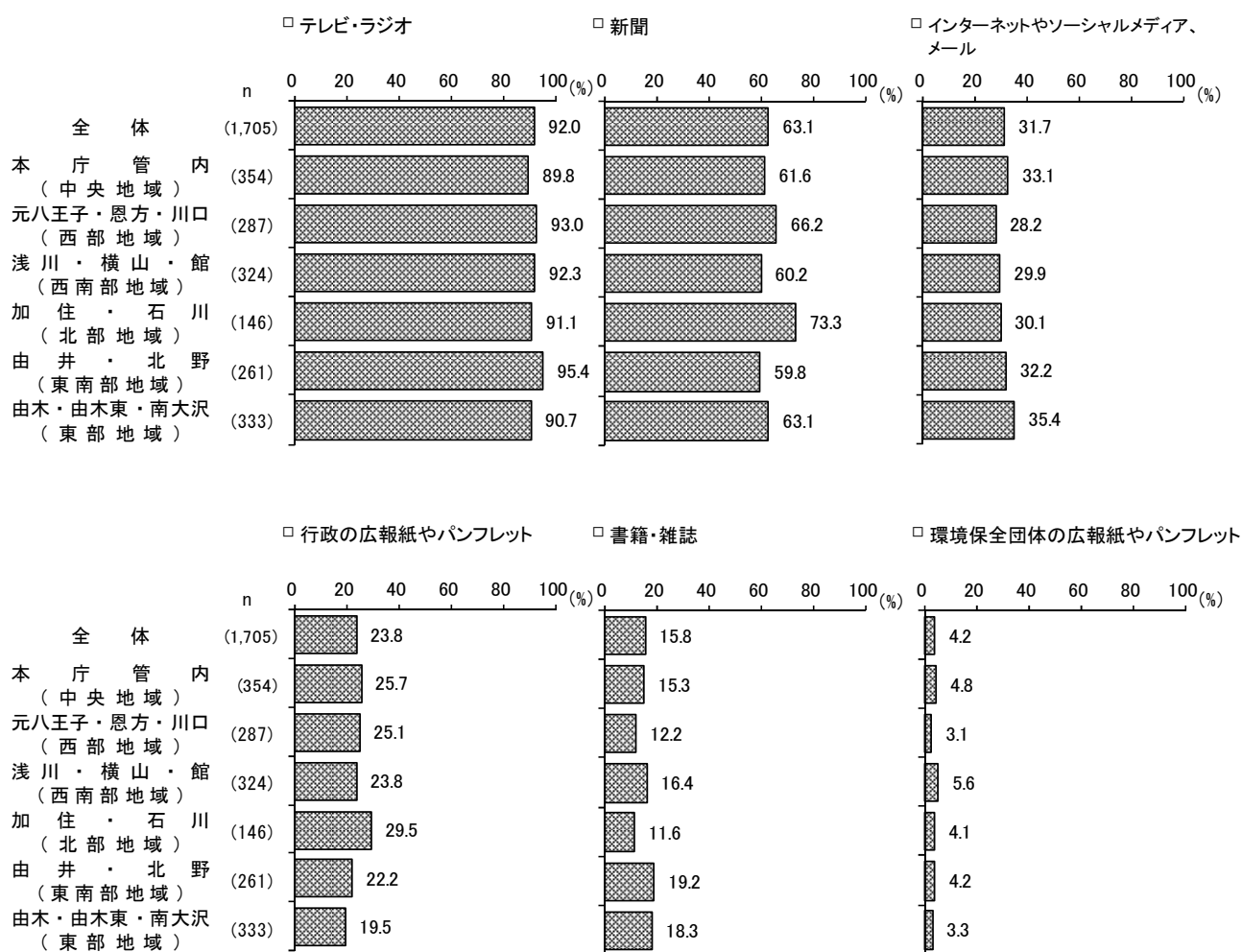
図 2-8-2 地球温暖化問題に関する情報の入手先—性別・年齢別（上位 6 位）



性別にみると、「インターネットやソーシャルメディア、メール」は男性の方が女性よりも9.5ポイント高く、「行政の広報紙やパンフレット」は女性の方が男性よりも6.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「新聞」や「行政の広報紙やパンフレット」は年代が上がるにつれて割合が多くなり、「新聞」は65歳以上（79.1%）で8割弱となっている。一方、「インターネットやソーシャルメディア、メール」は年齢が若いほど割合が多くなり、20～29歳（60.5%）では約6割となっている。（図 2-8-2）

図 2-8-3 地球温暖化問題に関する情報の入手先—居住地域別（上位 6 位）



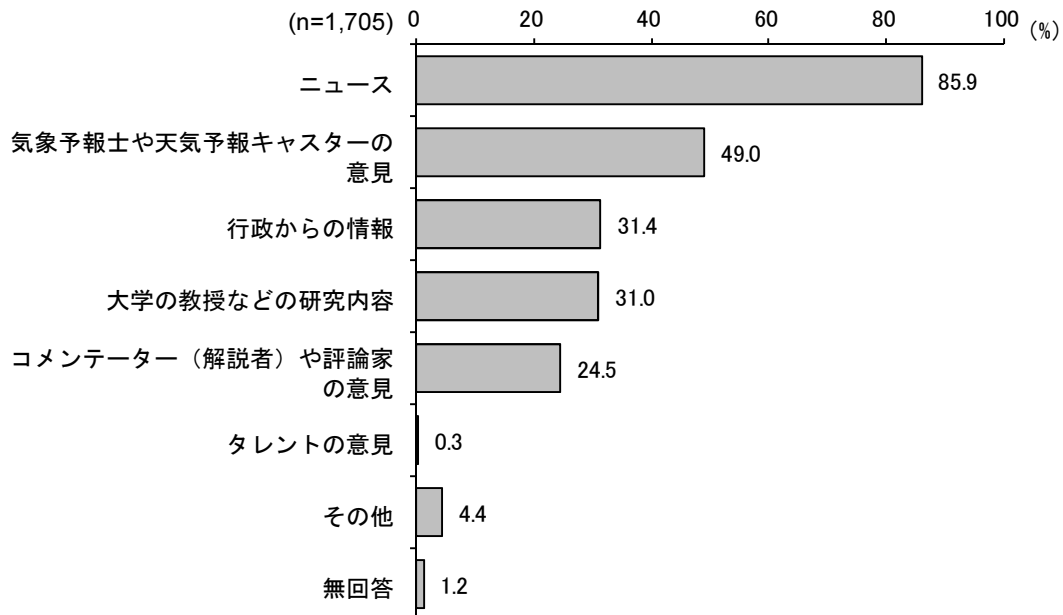
居住地域別にみると、「テレビ・ラジオ」は本庁管内（中央地域）を除くすべての地域において9割以上と多くなっている。「新聞」は加住・石川（北部地域）（73.3%）で7割強と、他の地域と比較して多くなっている。（図 2-8-3）

(9) 地球温暖化の影響について信頼する情報

◇ 「ニュース」が8割台半ば

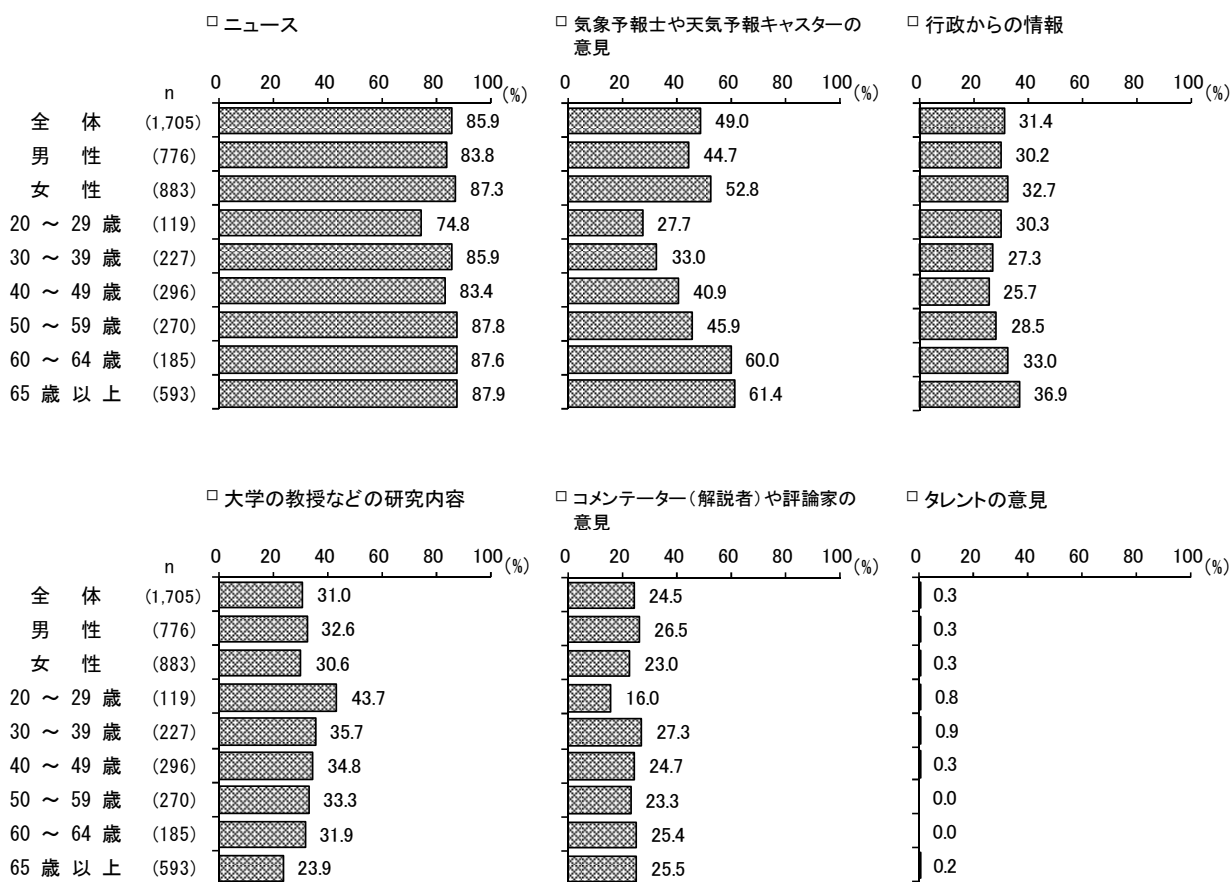
問12 あなたは地球温暖化の影響について、どのような情報を信頼しますか。(〇は3つまで)

図2-9-1 地球温暖化の影響について信頼する情報－全体



地球温暖化の影響についてどのような情報を信頼するかを聞いたところ、「ニュース」(85.9%)が最も多く8割台半ばとなっている。次いで「気象予報士や天気予報キャスターの意見」(49.0%)、「行政からの情報」(31.4%)、「大学の教授などの研究内容」(31.0%)、「コメンテーター（解説者）や評論家の意見」(24.5%)の順となっている。(図2-9-1)

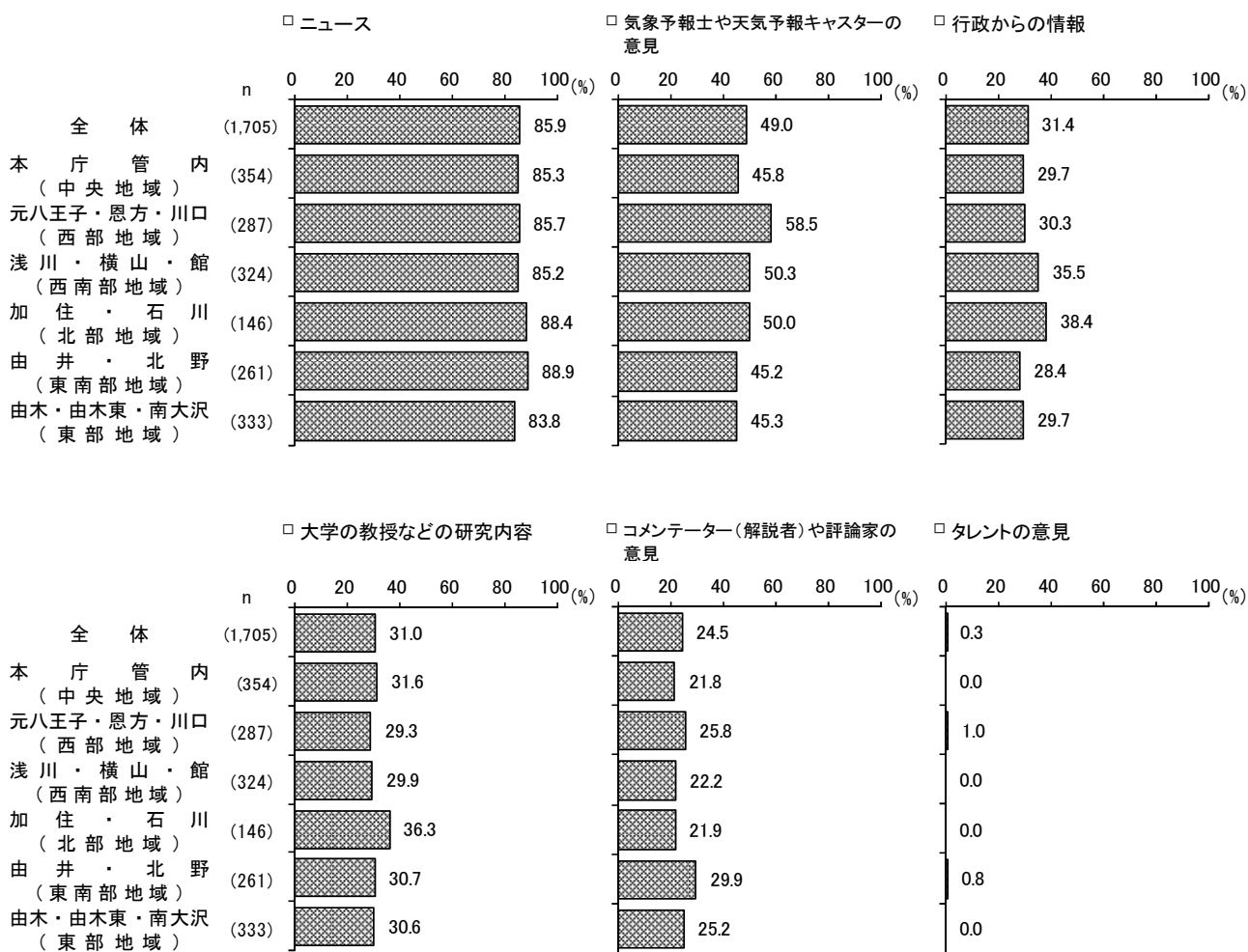
図2-9-2 地球温暖化の影響について信頼する情報－性別・年齢別



性別にみると、「気象予報士や天気予報キャスターの意見」は女性の方が男性よりも8.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「ニュース」は20～29歳を除くすべての年代において8割以上と多くなっている。「気象予報士や天気予報キャスターの意見」は年代が上がるにつれて割合が多くなり、65歳以上（61.4%）では6割強となっている。一方、「大学の教授などの研究内容」は年齢が若いほど割合が多くなり、20～29歳（43.7%）では4割強となっている。（図2-9-2）

図 2-9-3 地球温暖化の影響について信頼する情報－居住地域別



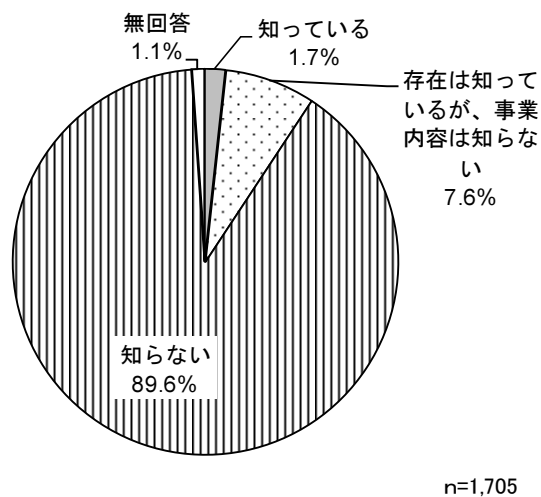
居住地域別にみると、「ニュース」はすべての地域において8割以上と多くなっている。「気象予報士や天気予報キャスターの意見」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（58.5%）で6割近くと多くなっている。「行政からの情報」は加住・石川（北部地域）（38.4%）で、「大学の教授などの研究内容」も加住・石川（北部地域）（36.3%）が多くなっている。（図 2-9-3）

(10) 八王子市温暖化防止センターの周知度

◇「知らない」が9割弱

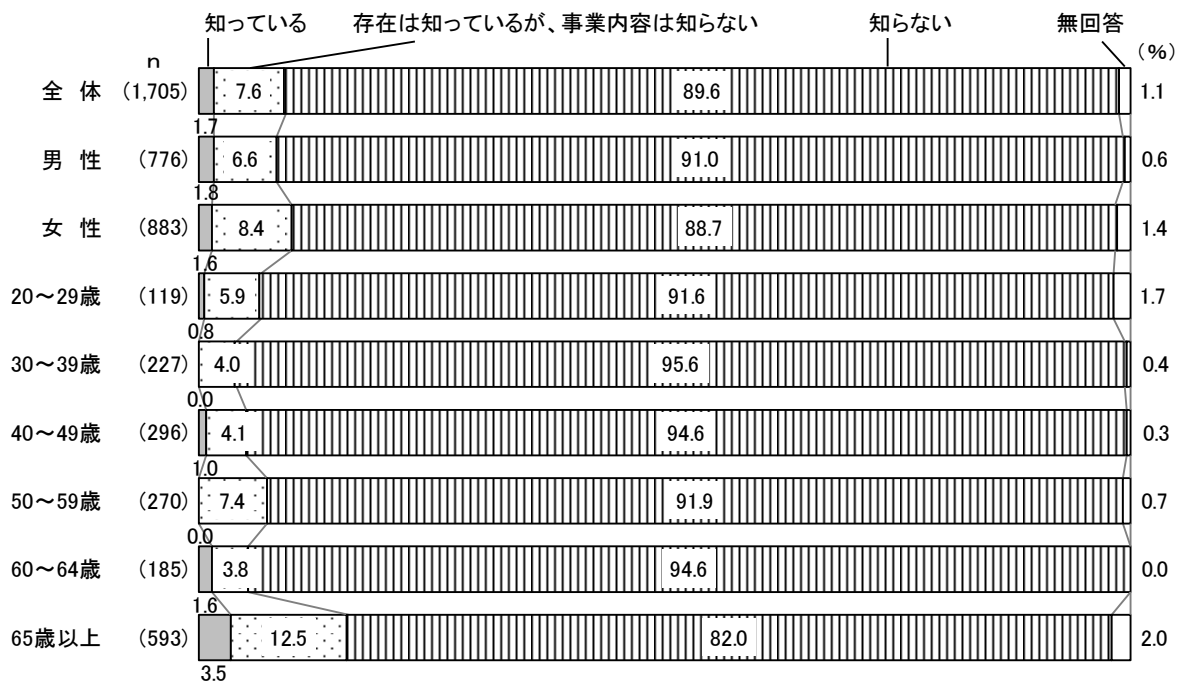
問13 市では、平成23年4月に地球温暖化対策の拠点として「八王子市温暖化防止センター」を開設しました。あなたは、「八王子市温暖化防止センター」の存在を知っていますか。
(○は1つだけ)

図2-10-1 八王子市温暖化防止センターの周知度－全体



「八王子市温暖化防止センター」の存在について聞いたところ、「知らない」(89.6%)が最も多く9割弱を占めている。一方、「知っている」(1.7%)と「存在は知っているが、事業内容は知らない」(7.6%)を合わせた《知っている》(9.3%)は1割に満たない。(図2-10-1)

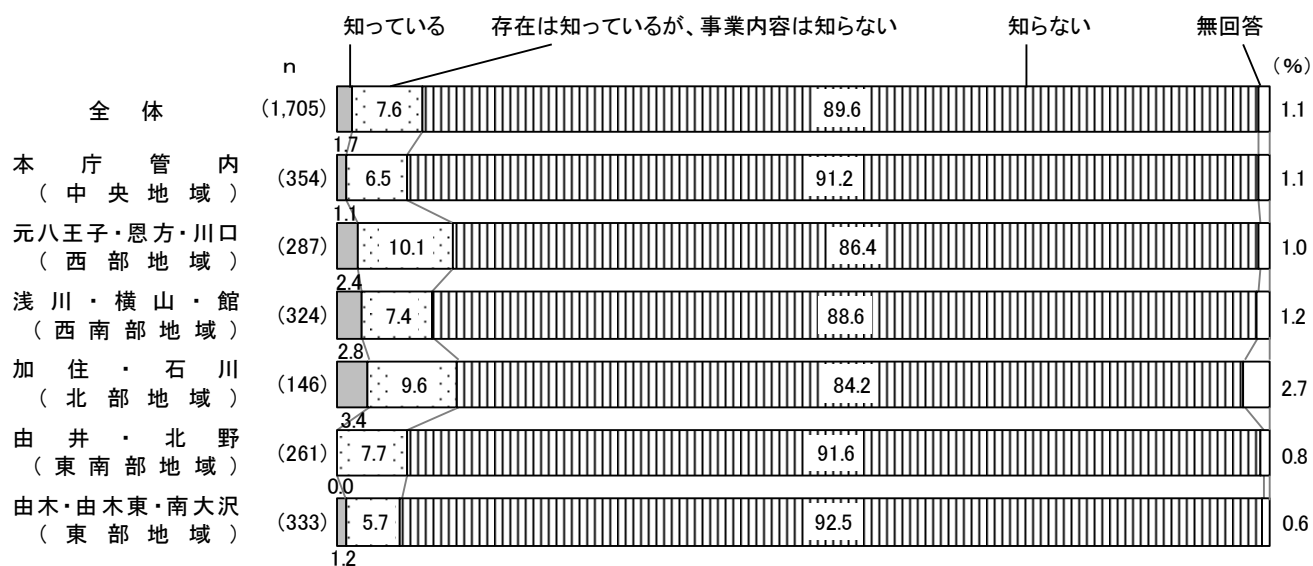
図 2-10-2 八王子市温暖化防止センターの周知度－性別・年齢別



性別にみると、男性と女性で大きな差はみられない。

年齢別にみると、《知っている》は65歳以上（16.0%）で2割近くと、他の年代と比較して多くなっている。（図 2-10-2）

図 2-10-3 八王子市温暖化防止センターの周知度－居住地域別



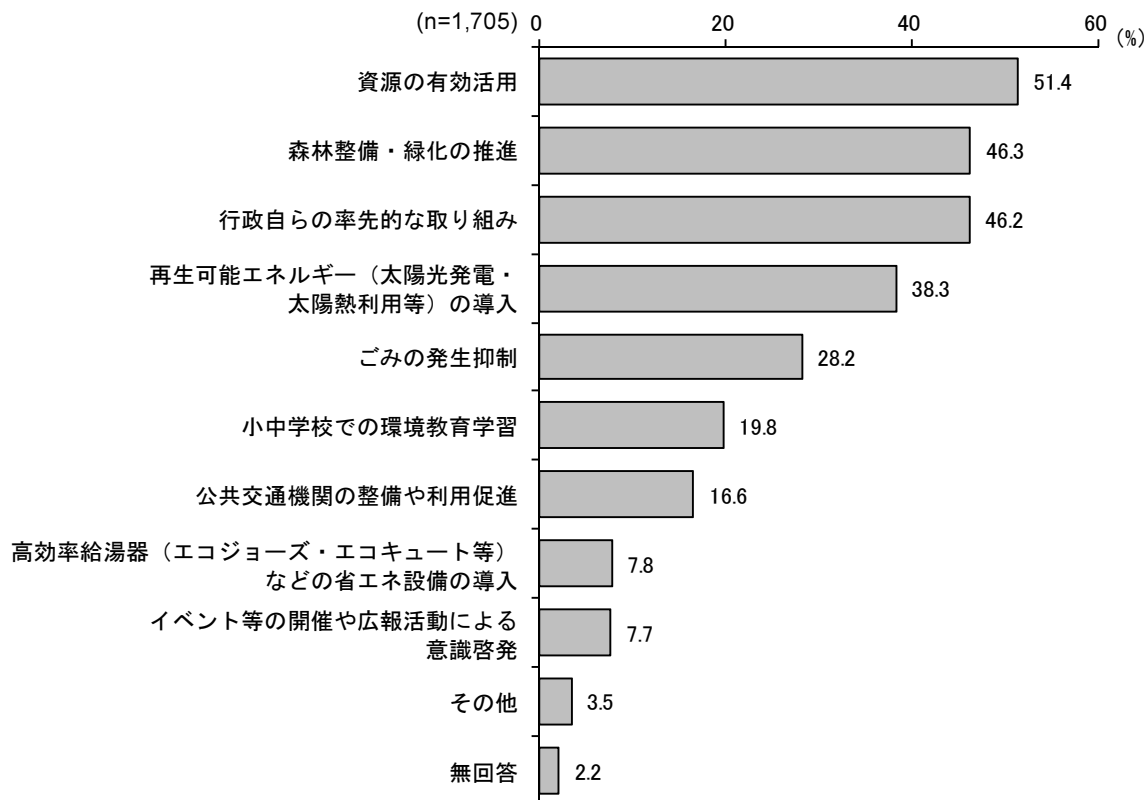
居住地域別にみると、《知っている》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（12.5%）と加住・石川（北部地域）（13.0%）で1割強と多くなっている。（図 2-10-3）

(11) 地球温暖化対策に必要なこと

◇「資源の有効活用」が5割強

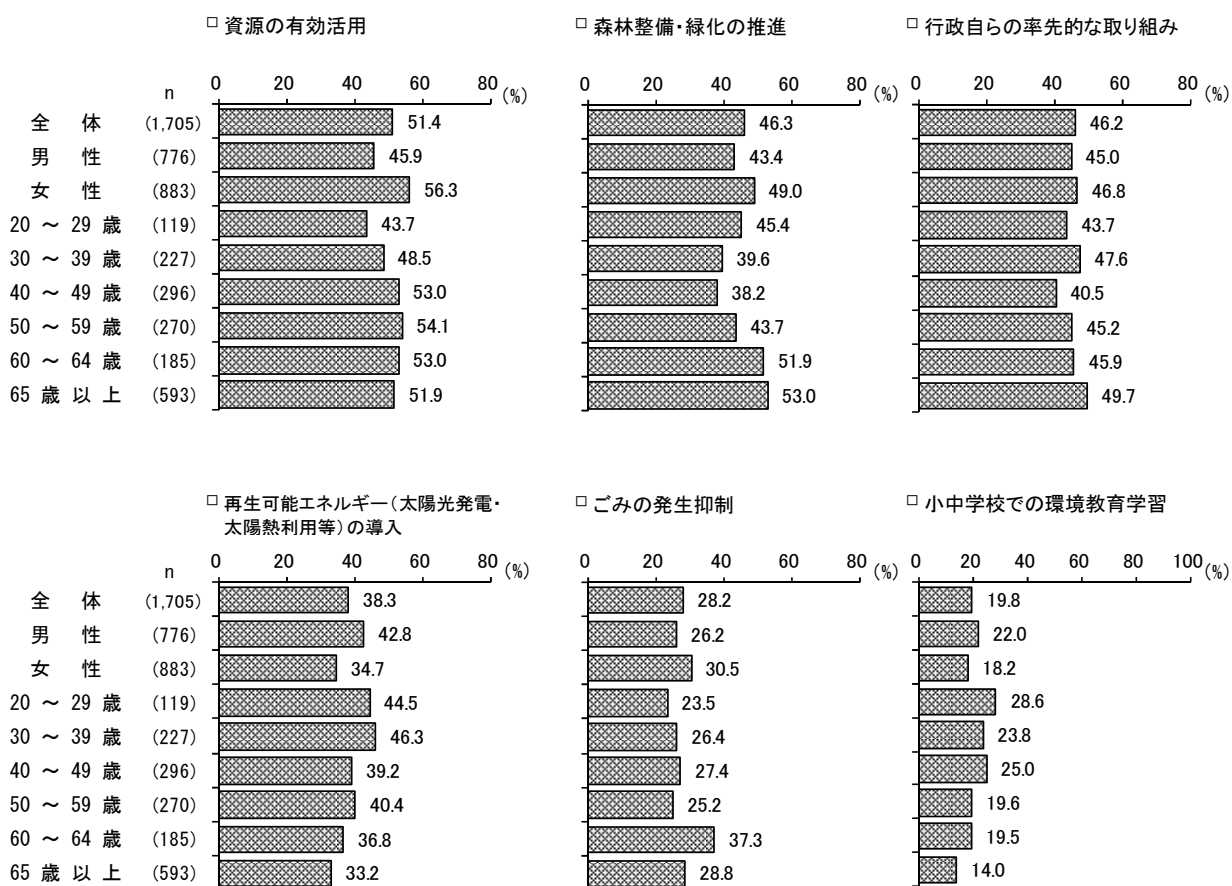
問14 あなたは地球温暖化対策に必要なことは何だと思えますか。(〇は3つまで)

図 2-11-1 地球温暖化対策に必要なことー全体



地球温暖化対策に必要なことを聞いたところ、「資源の有効活用」(51.4%)が最も多く5割強となっている。次いで「森林整備・緑化の推進」(46.3%)、「行政自らの率先的な取り組み」(46.2%)、「再生可能エネルギー（太陽光発電・太陽熱利用等）の導入」(38.3%)、「ごみの発生抑制」(28.2%)などの順となっている。(図 2-11-1)

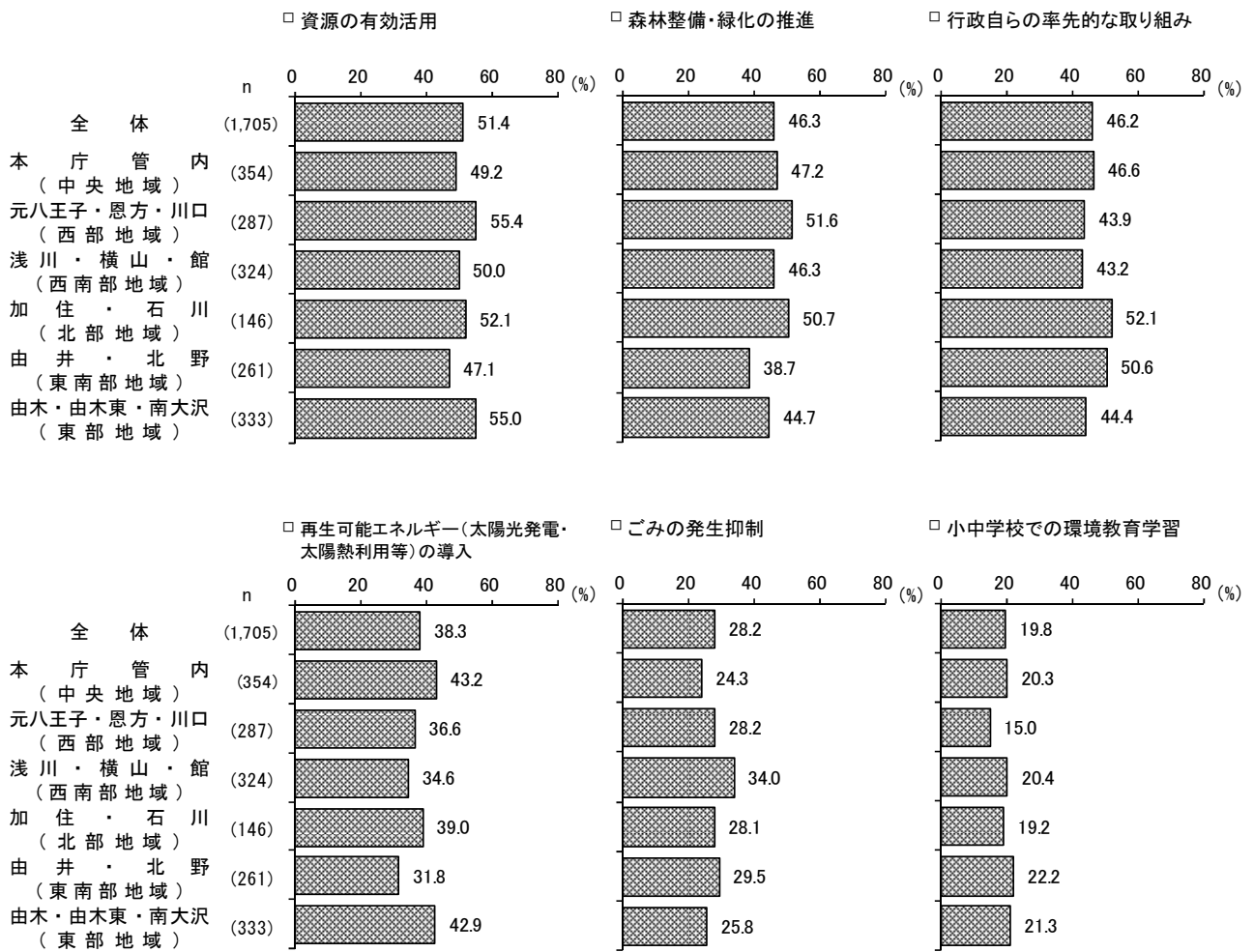
図2-11-2 地球温暖化対策に必要なこと－性別・年齢別（上位6位）



性別にみると、「再生可能エネルギー（太陽光発電・太陽熱利用等）の導入」は男性の方が女性よりも8.1ポイント高く、「資源の有効活用」は女性の方が男性よりも10.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「再生可能エネルギー（太陽光発電・太陽熱利用等）の導入」は20～29歳（44.5%）と30～39歳（46.3%）で4割台半ば以上と多くなっている。「森林整備・緑化の推進」は60～64歳（51.9%）と65歳以上（53.0%）で5割強と多くなっている。（図2-11-2）

図2-11-3 地球温暖化対策に必要なこと—居住地地域別（上位6位）



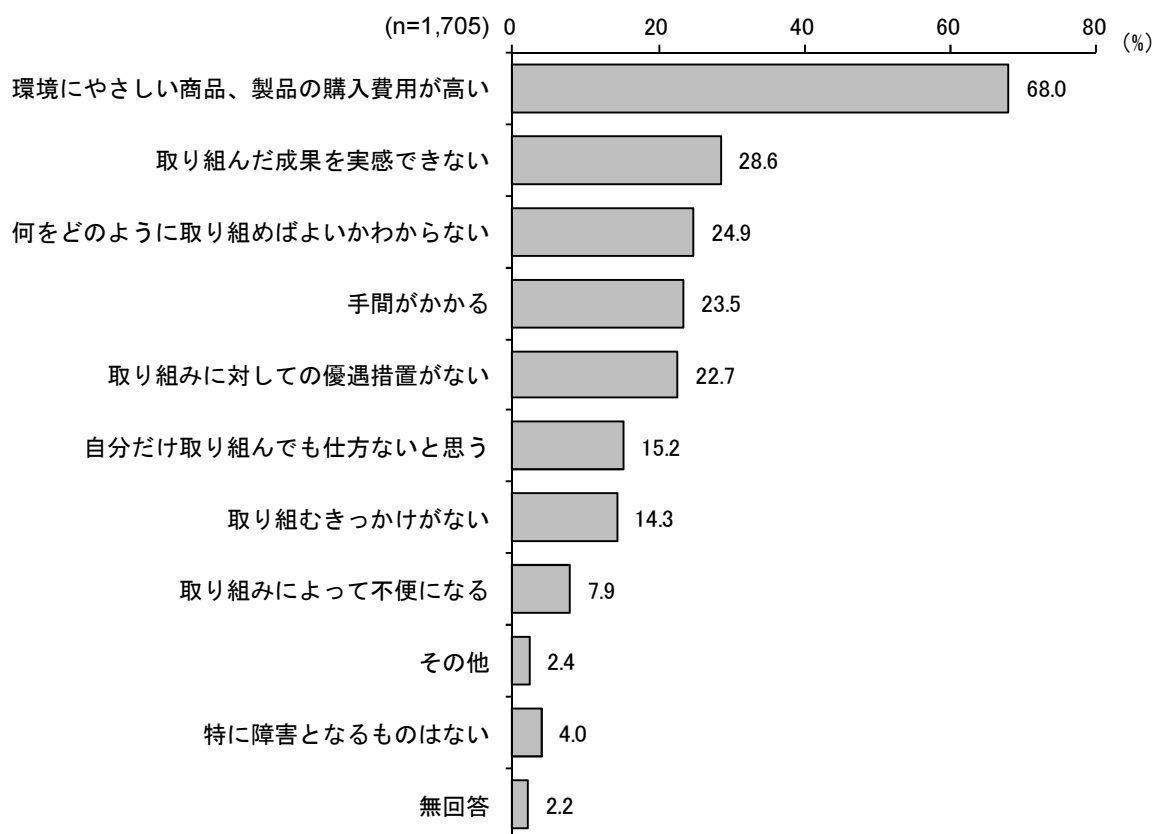
居住地地域別にみると、「資源の有効活用」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（55.4%）と由木・由木東・南大沢（東部地域）（55.0%）で5割台半ばを超えて多くなっている。「森林整備・緑化の推進」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（51.6%）と加住・石川（北部地域）（50.7%）で5割以上と多くなっている。「行政自らの率優先的な取り組み」は加住・石川（北部地域）（52.1%）と由井・北野（東南部地域）（50.6%）で5割以上と多くなっている。（図2-11-3）

(12) 地球温暖化対策実施における障害

◇「環境にやさしい商品、製品の購入費用が高い」が7割近く

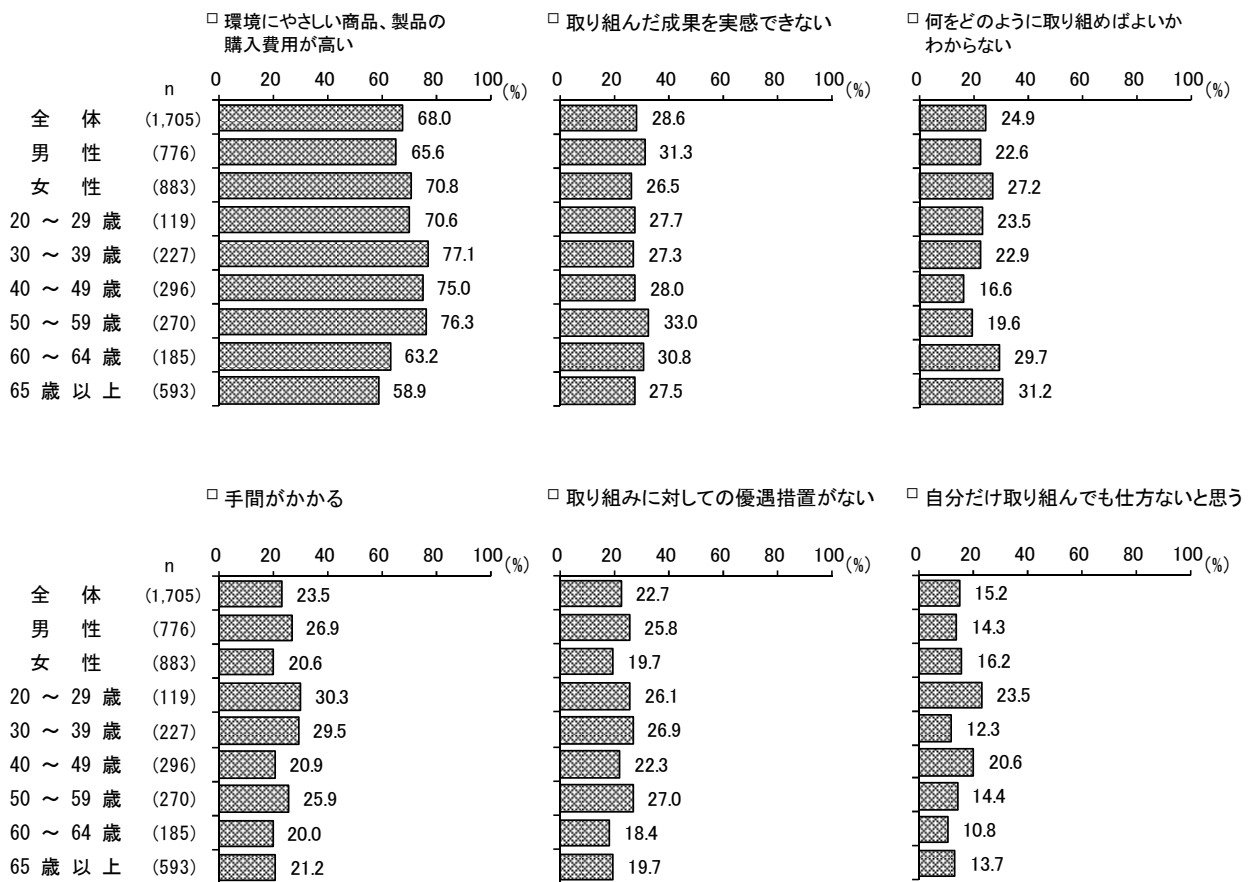
問15 あなたが日常生活において、地球温暖化対策の取り組みを実施する（実施しようと考えている）中で障害だと感じている（感じる）ことは何ですか。（〇は3つまで）

図 2-12-1 地球温暖化対策実施における障害－全体



日常生活において、地球温暖化対策の取り組みを実施する（実施しようと考えている）中で障害だと感じている（感じる）ことを聞いたところ、「環境にやさしい商品、製品の購入費用が高い」（68.0%）が最も多く7割近くとなっている。次いで「取り組んだ成果を実感できない」（28.6%）、「何をどのように取り組めばよいかわからない」（24.9%）、「手間がかかる」（23.5%）、「取り組みに対しての優遇措置がない」（22.7%）などの順となっている。（図 2-12-1）

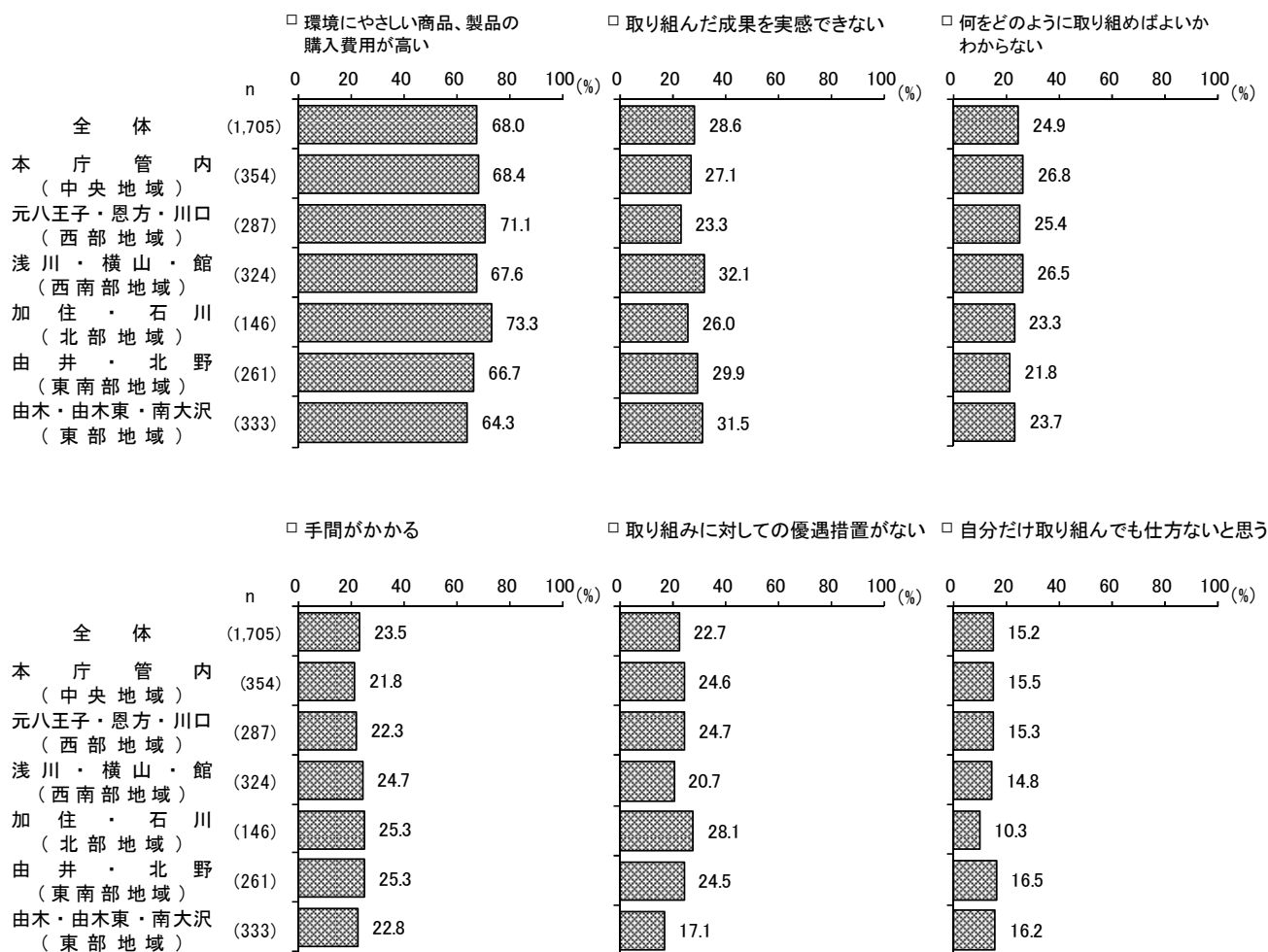
図 2-12-2 地球温暖化対策実施における障害—性別・年齢別（上位 6 位）



性別にみると、「手間がかかる」は男性の方が女性よりも6.3ポイント、「取り組みに対しての優遇措置がない」は6.1ポイント高く、「環境にやさしい商品、製品の購入費用が高い」は女性の方が男性よりも5.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「環境にやさしい商品、製品の購入費用が高い」は30～39歳（77.1%）、40～49歳（75.0%）及び50～59歳（76.3%）で7割台半ばを超えて多くなっている。「何をどのように取り組めばよいかわからない」は65歳以上（31.2%）で3割強と多くなっている。また、「手間がかかる」は20～29歳（30.3%）で約3割、「自分だけ取り組んでも仕方ないと思う」も20～29歳（23.5%）で2割強と他の年代と比較して多くなっている。（図 2-12-2）

図 2-12-3 地球温暖化対策実施における障害—居住地域別（上位 6 位）



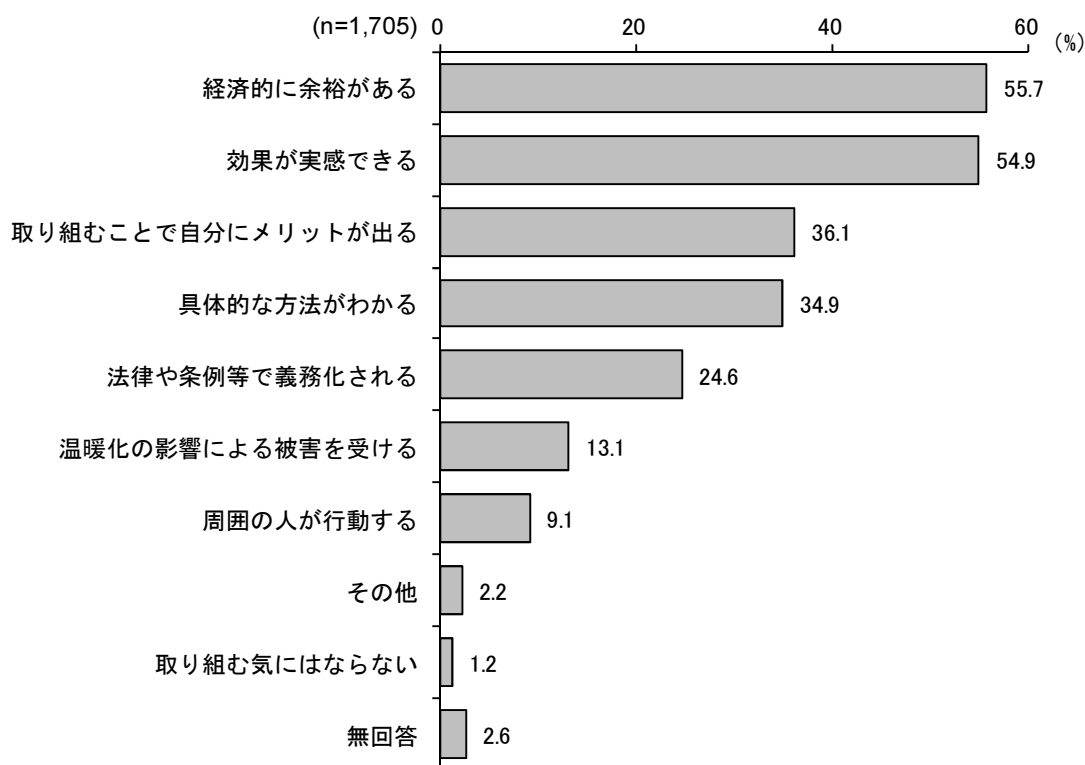
居住地域別にみると、「環境にやさしい商品、製品の購入費用が高い」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（71.1%）と加住・石川（北部地域）（73.3%）で7割強と多くなっている。「取り組んだ成果を実感できない」は浅川・横山・館（西南部地域）（32.1%）と由木・由木東・南大沢（東部地域）（31.5%）で3割強と多くなっている。「取り組みに対しての優遇措置がない」は加住・石川（北部地域）（28.1%）で3割近くと多くなっている。（図 2-12-3）

(13) 地球温暖化防止への行動動機

◇「経済的に余裕がある」「効果が実感できる」が5割台半ば

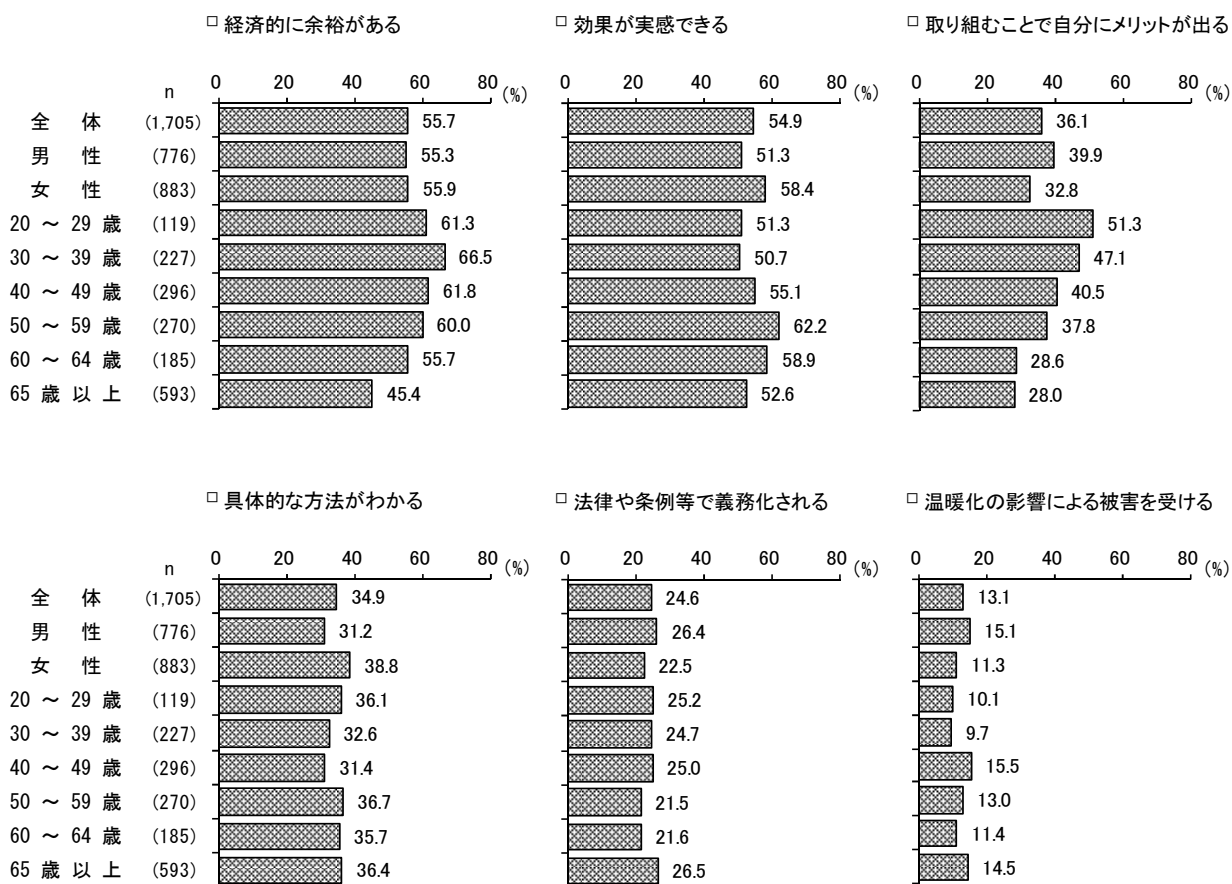
問16 地球温暖化防止のため、どのような状態・状況であればもっと行動するようになると思いますか。(○は3つまで)

図 2-13-1 地球温暖化防止への行動動機－全体



地球温暖化防止のため、どのような状態・状況であればもっと行動するようになるか聞いたところ、「経済的に余裕がある」(55.7%)、「効果が実感できる」(54.9%)が5割台半ばと多くなっている。次いで「取り組むことで自分にメリットが出る」(36.1%)、「具体的な方法がわかる」(34.9%)、「法律や条例等で義務化される」(24.6%)などの順となっている。(図 2-13-1)

図2-13-2 地球温暖化防止への行動動機—性別・年齢別（上位6位）

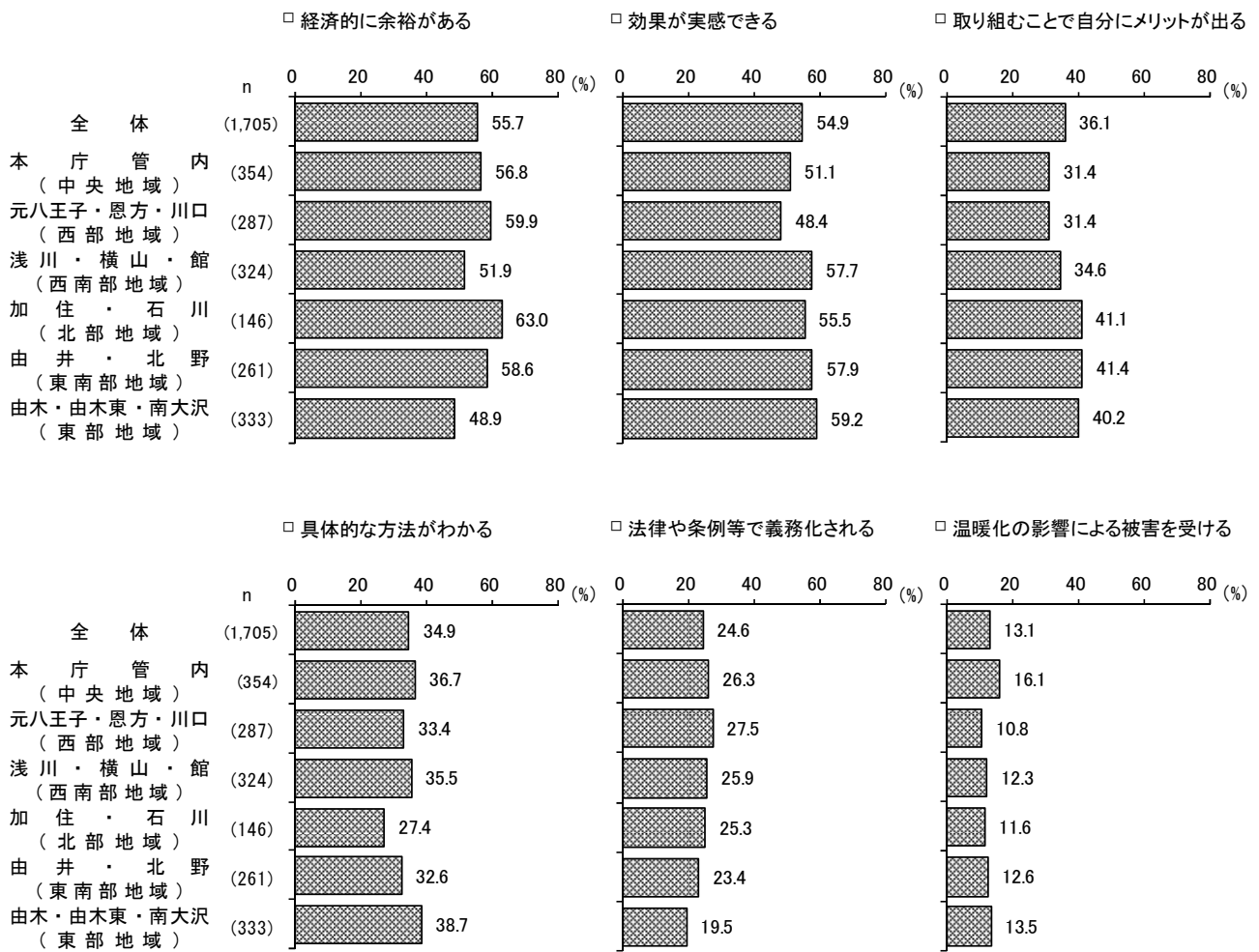


性別にみると、「取り組むことで自分にメリットが出る」は男性の方が女性よりも7.1ポイント高く、「具体的な方法がわかる」は女性の方が男性よりも7.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「経済的に余裕がある」は30～39歳（66.5%）で7割近く、「効果が実感できる」は50～59歳（62.2%）で6割強と多くなっている。また、「取り組むことで自分にメリットが出る」は年齢が若いほど割合が多くなり、20～29歳（51.3%）では5割強となっている。

（図2-13-2）

図2-13-3 地球温暖化防止への行動動機—居住地域別（上位6位）



居住地域別にみると、「経済的に余裕がある」は加住・石川（北部地域）（63.0%）で6割強と多くなっている。「効果が実感できる」は元八王子・恩方・川口（西部地域）を除くすべての地域において5割以上と多くなっている。また、「取り組むことで自分にメリットが出る」は加住・石川（北部地域）（41.1%）、由井・北野（東南部地域）（41.4%）及び由木・由木東・南大沢（東部地域）（40.2%）で4割以上と、他の地域と比較して多くなっている。（図2-13-3）